華族世襲財産法元老院議事錄

和装本
7 6
6276

23

ワ6
6276

宮内省圖書寮

元老院會議筆記　明治十九年四月五日　禁傍聽

○第五百八號議案　華族世襲財産法　第一讀會

議長　大木喬任

出席議官

一番　田中芳男
二番　小畑美稻
三番　長松幹
四番　久我通久
五番　三浦安
六番　稅所篤
七番　黑田清綱
九番　田邊太一
十一番　伊丹重賢

宮内省圖書寮

故水戸侯爵家藏

十四番　岩下　方平
十七番　東久世通禧
十八番　宮本　小一
二十番　大久保一翁
二十一番　林　友幸
二十二番　柴原　和
二十三番　神田　孝平
二十四番　何　禮之
二十五番　横村　正直
二十七番　福原　實
二十八番　津田　眞道
二十九番　橋口　兼三
三十一番　鍋島　幹

三十四番　西村　臭陽
三十五番　永山　盛輝
三十六番　西　周
三十七番　岩村　定高
三十八番　土生　基修
三十九番　町田　久成
四十番　中村　正直
四十一番　渡邊　清
四十二番　揖取　素彦
四十三番　上杉　茂憲
四十四番　大鳥　圭介
四十六番　本田　親雄
四十八番　村田　保

四十九番　神山　郁廉
五十番　河田　景與
五十二番　野村　素介
五十三番　津田　出
五十五番　中島　錫胤
五十七番　山口　尚芳
五十八番　宍戸　璣
六十二番　清岡　公張
六十五番　中村　弘毅
六十七番　原田　一道
六十八番　渡　正元
六十九番　大迫　貞清
七十一番　伊東　祐麿

七十四番　調所　廣丈
七十五番　長谷部辰連

内閣委員　番外
法制局　番外　参事官　岩崎小二郎

午前第十時十三分閲場

議長　第五百八號議案ノ第一讀會ヲ閲ク本案ハ條數頗ル多キヲ以テ朗讀ヲ省ク

布告案

華族世襲財産法

第一條　華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得

第二條　世襲財産ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス

第三條　世襲財産ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ世襲財産ト為スコトヲ得

第一類　田畑山林宅地監田牧場池沼等

第二類　政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券

第四條　世襲財産ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額毎年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産タルヘシ但其財産中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ

第五條　世襲財産ノ所有者ハ特ニ世襲スヘキ家屋庭園圖書寶器等ヲ以テ世襲財産附屬物ト為スコトヲ得但其收益ヲ以テ第四條ノ制限額ニ算入スルコトヲ許サス

第六條　負債義務ノ關係アル財産ハ世襲財産又ヒ附屬物ト為スコトヲ得ス

第七條　世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ其財産ヲ増殖スルコトヲ得

第八條　世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ノ財産ト為スコトヲ得ト雖モ第一類ヲ第二類ト為スコトヲ得ス

第九條　第一類ノ財産若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減レタルトキハ五箇年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシ

第十條　第二類ノ財産其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ更ニ他ノ財産ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第十一條　世襲財産ノ所有者ハ其財産ノ純收益ヲ抵當トシテヲ為スコトヲ得ト雖モ毎年其純收益ノ三分一以上ノ償却ヲ為スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十二條　世襲財産ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年

其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

第十三條　世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入トスルコトヲ得ス

第十四條　世襲財産及ヒ附屬物ハ公賣處分ヲ受ケサルモノトス但國税地方税区町村費ヲ不納シタルトキハ此限ニアラズ

第十五條　世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス

一家督相續スヘキ男子ナク又ハ爵ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續者ナキトキ

一第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ

第十六條　世襲財産ハ其所有者ニ於テ之ヲ廃止スルコトヲ得ス

第十七條　世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第十八條　華族局ハ世襲財産台帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關

スル事項ヲ記入スヘシ

第十九條　世襲財産ヲ創設増殖更換又ハ補充セントスル者ハ其願書ニ財産目録ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財産附屬物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條　宮内大臣ハ前條ノ願書目録ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳ニ命シ株券ハ銀行若シクハ會社ニ命シ世襲財産ト為スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ但世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條　前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産ニ記入記入セシメ認可證ヲ下付シ第一類ノ財産ハ所轄ノ府縣廳ニ命シ地券壹帳ニ記入セシメ府縣廳ハ戸長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ第二類

ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ根帳
ニ記入セシムヘシ
華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若シクハ株券ノ券面ニ世襲
財産ト爲リタル旨ヲ記入スヘシ
第二十二條　世襲財産其効力ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ府縣
廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ
第二十三條　世襲財産創設者及ヒ所有者ハ第二十條及ヒ第二十二
條ニ關スル公告費用ヲ華族局ニ納ムヘシ
第二十四條　世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戸主及ヒ滿
二十年以上ノ相續者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬
會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大
臣ノ許可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親屬會議員ニ充ルコト
ヲ得

第二十五條　世襲財産ニ關スル願書届書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ
要ス
第二十六條　此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム
第二十七條　此法ハ明治十九年　月　日ヨリ之ヲ施行ス
○番外一番　岩崎小二郎　本邦華族ノ事歴及ヒ其現況ハ業已ニ各官ノ熟知セ
ル所ナレハ之ヲ省キ今單ニ本案ハ何ノ故ニ今日ニ創定スルヲ要ス
ルヤノ理由ノミヲ説明セン抑モ維新以來二十年間ノ經驗ニ據リテ
華族ノ生計　情況ヲ考察スルニ年ヲ逐フテ不良ノ傾向ヲ生スルカ
如シ是レ其國有財産ノ保持方ヨロシキ所由ス蓋シ華族ヲシテ其品
位ヲ保チ其風識ヲ亂ス勿ラシメントセハ宜シ其生計ノ奈何タル財
産ヲ保護スヘキヤヲ政府若シ之ヲ度外視シテ敢テ救護ノ策ヲ運ラ
サスンハ遂ニ立國ノ基本ヲ危殆ノ地ニ陷ラシメントス其レ然リ故
ニ本案ハ華族ヲシテ各ク世襲財産ヲ創設セシムル旨趣ナルカト問

ヲニ決シテ然ラス何トナレハ若シ總體ノ華族ヲシテ必ス世襲財産ヲ創設スル義務ヲ負ハシメンカ現在ノ華族ヲシテ必ス却テ其ノ創設ヲ好マサル者アラン其好マサル者ヲ壓制シ强テ之ヲ創設セシメントセハ今日ノ現狀ヨリ惟スモ將來却テ其財産ノ異動ヲ來サン故ニ先ツ出願者ニ限リ現有財産ニ保護ヲ與ヘ以テ華族タル品位ヲ保持セシメントス是レ閣議ノ大旨ナリ尚ホ各條項ニ涉ル疑義アレハ其質問ヲ待チテ答辨セン

出席

十二番　長岡　護美

○四十四番　大鳥圭介　本案大體ノ主意ハ領會セリ但タ政府カ華族世襲財産法ヲ發布シ以テ特別ニ華族ノ財産ヲ保護スルノ果シテ得策ニシテ且ツ急務ナルヤニ關シテハ本官別ニ意見ヲ有スレトモ今假ニ本案ノ制定ヲ是認シ而シテ數多ノ疑點ノ中ニ於テ先ツ其二三ヲ質サンニ第三條ノ但書ニ第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ世襲財産

ト爲スコトヲ得ルヲ示シ而シテ第二類中又政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券ナル文字ヲ掲ケリ蓋シ第十五國立銀行即チ華族銀行ハ第二類ニ所謂ル特別ノ監督ニ屬スル銀行ニ非サル邪果シテ同一ノ者ナラハ此但書ハ無用ニ屬スルナラン第四條ハ毎年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産ニ非サレハ世襲財産ト爲スヲ得サルコトヲ示セリ然ルニ彼ノ武家華族即チ諸侯ノ如キハ率子多額ノ財産ヲ所有スレトモ元ト小録ナリシ堂上華族ノ如キニ至テハ或ハ五百圓以上ノ純收益ヲ生スル財産ヲ所有セサル者アラン然リ而シテ純收益五百圓以上ニ係レハ政府ノ保護ヲ受クルヲ得レトモ其以下ニ係レハ保護ヲ得ント欲スルモ法律ハ之ヲ許サス其財産ノ多少ニ因リテ保護ヲ與フルト否ラサルトヲ區別セル理由ハ如何ン第十五條ハ家督相續ノ男子ナキトキハ世襲財産ノ効力ヲ失フコトヲ規定ス然ルニ華族ニシテ現ニ女戸主ノ存スル

アリ且第二條ノ精神ニ據レハ女子ハ家督相續者トシテ世襲財産ヲ相續スルヲ得サルカ如シ然ラハ則チ女戸主ハ到底此法律ノ保護ヲ受クル能ハサランヤ以上三點ノ説明ヲ乞フ

○番外 一番 岩崎小二郎 質問ニ答ヘン第三條ノ但書ト第二類トノ區別ハ見今ノ實際ニ從ヒ之ヲ定メリ第二類ニ政府ノ保證アル株券ト云フハ即チ日本鐵道會社日本郵船會社等ノ株券ヲ謂ヒ特別ノ監督ニ屬スル銀行トハ即チ日本銀行ヲ謂フ彼ノ第十五國立銀行ハ明治十年ノ變亂ニ際シテ之ヲ創設シ政府精ヲ特殊ナル取扱ヲ為セシモ敢テ特別ノ監督ヲ施セルニ非ス日本銀行ノ如キ其總裁ハ政府ノ特選ニ出テ勅任ノ官位ヲ授リルモ第十五國立銀行ハ此ノ如キコト無ク且ツ帳簿檢査其他ノ規則ニ至テモ他ノ一百有餘ノ國立銀行ト些ノ差違ヲ存スル無シ是レ成分法ノ明ニ規畫セル所ニシテ第二類ノ財産ト區別アルハ明瞭ナリ然レトモ第三條ニ於テ他ノ國立銀行ノ例外ニ

置キシハ本法ニ限リ特別ノ監督ニ屬スル銀行ニ準セン者ニシテ若シ此株券ヲ除カハ華族ノ世襲財産ハ成立スル能ハサレハナリ第四條ノ世襲財産ハ五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル者ヲ以テ區限セシハ蓋シ大ニ研究ヲ加ヘ而シテ然タル之ヲ定メタルナリ今試ミニ其調査セル所ヲ擧説センニ現時ニ於ル華族ノ戸數ハ舊堂上、舊諸侯、神官、僧侶、功臣ヲ合セテ五百二十七戸ナリ此中毎年五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産ヲ有スル者ハ四百三十三戸ト為ス故ニ其總數ノ五分ノ四ハ以テ世襲財産ヲ創設スルヲ得ヘシ然ルニ現今政府トハ雖モ華族ノ財産ニ干渉シテ細カニ調査スル能ハス只第十五國立銀行及ヒ東京府廳ノ帳簿ニ登記セル公債證書ノ所有額ニ按リ前記ノ調査ヲ遂ケタルノミ此他所有不動産等ヨリ生スル利益額ハ到底調査スル能ハス由シ無シ華族中ニ神官十四戸功臣三十三戸アレトモ第十五國立銀行ノ株券ヲ有スル者ハ僅ニ一二人ニ過キス然レトモ其財

産ニシテ表見セサル者ノ猶ホ此他ニ存在スルモ知ル可カラス入要ス
ルニ本條ノ五百圓ヲ以テ制限ヲ立テシハ種々ノ考案ヲ盡セン所ニ
シテ其華族タル品位ヲ保タシムルニ適當ナリトスル確實ノ財産額
ニ至テハ到頭之ヲ量定スル能ハス且若シ限界ヲ下シテ三百圓ト為
スモ其以下ヲ減シ一百圓ト為スモ尚ホ其以下ヲ脱ス然ラハ則チ實
ニ其制限ノ適度ノ如キハ到底之ヲ確定スル能ハサラン然レトモ若
シ此制限ヲ存セスンハ一圓十圓ノ收益ヲ生スルニ過キサル財産ニ
對シテモ尚ホ保護ヲ與フルヲ要シ為メニ世襲財産法ノ精神ヲ成立
セシムル能ハサラントス畢竟此僅々タル五百圓ノ純收益ヲ以テ優
然タル華族ノ品位ヲ保タシムルヲ得ルヤ否ヤハ確保スル能ハサル
モ今日日本人ノ生活ノ程度上ヨリ概算スルハ此收額ハ以テ中等ノ
生活ヲ為スニ耐ユヘシ是レ本條ノ制限ノ由テ出ル所以ナリ第十五
條ノ第一項ハ十七年發布ノ華族令ニ據レリ同令第三條ニ「爵ハ男子

嫡長ノ順序ニ依リ之ヲ襲クシム女子ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス」ト言ヒ
無爵ナレハ華族ニ非ス然リ而シテ現在ノ女戸主ハ同條ノ但書ニ依
リ相續者ヲ定ムル時ニ於テ授爵ヲ出願ス可ク又其第四條ニ據ルニ
有爵者又ハ戸主ノ死亡セシ後チ男子ノ相續者ナキトキハ華族ノ榮
典ヲ失フヲ以テ自今ハ男子ニ非サレハ華族タルヲ得サルヤ明白ナ
リ四十四番之ヲ領セヨ

○二十二番 柴原和 華族世襲財産法ハ其全體ヨリ考察スレハ未タ遽カ
ニ可否ヲ論斷スル能ハス是レ本ト其制度ト國體トニ隨フテ創定ス
ル利害ノ異ナルヲ以テナリ然レトモ本邦ニ於ケル現今ノ制度國體
ニ依リテ之ヲ考フルトキハ蓋シ本法ヲ制定スルノ要用ナルヲ信ス
疇昔封建制度ノ時代ニ在テハ諸侯ヨリ其家臣ニ及フマテ自ラ世襲
財産ノ存在スル有リ家祿ノ如キハ純然ニ世襲制度ニ依リテ子子孫
孫相ヒ繼承セリ故ニ戸主即チ當主ニシテ放蕩ニ流レ其家資ヲ繼承

スル能ハサル有ルトキハ家老若クハ親戚ノ相ヒ協議シテ戸主ヲ隱
居セシメ以テ其家資及ヒ家格ヲ全ウスルニカメリ之ニ反シテ現今
ノ華族ハ從前ノ如キ檢束法ヲ存セス財産ノ監督及ヒ其使用ノ自由
ヲ有スルヲ以テ放蕩ニ流レ往々ニ身代限ノ失體ヲ生スル有リ政府
ノ殊ニ華族ヲ優待スル今日ニ於テ豈其財産ヲ保護スル法律ヲ設ケ
スシテ可ナランヤ見ニ已ニ本邦ノ豪農富商スラ世襲財産ノ習慣法
自ラ存在シ戸主自ラ其財産ヲ自由ニ使用セルトキハ親戚ヨリ之ヲ
制止スルナリ内閣委員ノ説明ヲ聞クニ毎年五百圓ニ下ラサル純收
益ヲ有スル華族ハ現ニ四百三十三戸アリトヲヘリ若シ之ヲ放任ニ
付シテ歳月ヲ經過セハ遂ニ減シテ三百戸乃至二百戸ニ至ラン故ヲ
以テ本官ハ本案ヲ賛成スルナリ因テ本案ノ各條項ニ關スル疑點
ヲ内閣委員ニ質問セン第五條ノ家屋、庭園圖書寶器ノ類ハ如何ナル
方法ヲ以テ之ヲ保護スル耶動産ノ質入書入ヲ防カンニハ不動産ト

同ク豫メ戸長役場ノ根帳ニ登記セスンハ情ヲ知ラサル債主ハ非常
ノ損失ヲ被ラン是レ公證ヲ爲サシメスシテ他別ニ之ヲ防クノ好方
法ノ存スルヤ又其家屋ナル文字ハ土藏納屋等ヲ包含スル歟庭園ト
ハ果シテ何物ヲ謂フ耶凡リ庭園ハ本ト不動産ニ係リ田畑、山林、宅
地ノ部分ニ屬シ已ニ地券面ノ坪數中ニ在リ然ルニ本案ニ言フ庭園
トハ如何ナル者ヲ指ス乎蓋シ庭園中ノ木石等ヲ指スニハ非サラン
是レ第十三條ニ例建セル有ルヲ以テ之ヲ問フ第才條ハ元金ノ仕拂
ヲ受ケタル場合ノミヲ掲クレトモ何ノ故ニ利金ニハ及ハサル耶
第十三條ニ據ルニ不動産ナレハ公證ヲ要スルヲ以テ質入書入ノ場
合ニハ債主其他襲財産ナルコトヲ発見スルヲ得ヘキモ附屬物タル
圖書寶器ノ類ニ至テハ元來公證法ノ存セサレバ債主之ヲ知ルニ由
レ無ク遂ニ不測ノ損害ヲ被ラントス此限界ハ如何ニシテ之ヲ明示
スル耶第十五條ノ第一項ノ「族ヲ除メレ家督相續者ナキトキノ行文

ヨリ推セハ族ヲ奪ハルルモ家督相續者ヲ存スレハ本法ノ保護ヲ受ルヲ得ルカ如シ本項ノ解釋ハ如何ン第十四條第十九條等ニハ世襲財産附屬物ノ事ヲ掲クレトモ第十五條第十六條第十七條ニハ之ヲ見ス是レ此三條ハ附屬物ニ關セサルニ因ル耶第二十條ノ地方一定ノ新聞紙トハ如何ナル新聞紙ヲ指稱スルカ又同條ニ「華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ」ト言ヘルニ據レハ是レ華族局自ラ公告スルナラン此場合ニハ何等ノ方法ヲ用ユル耶本官ハ郡區役所若クハ戸長役場ニ壹帳ヲ備ヘ悉ク之ヲ記入セシメンコトヲ望ム又此條ニ於テハ第一類第二類ノ財産ヲ公告スルコトヲ明示シ附屬物ハ華族局ニ於テ公告スルコトヲ規定スルニ拘ラス第二十一條ニ至リ附屬物ノ事ヲ記セサルハ何リヤ第二十四條ノ親屬會議ハ世襲財産ノ事ニ關シテ之ヲ組織セシムルカ將タ一般ニ華族ヲシテ平常ニ之ヲ組織セシム

ルカ以上數點ノ辨明ヲ望ム

○番外一番 岩崎十二郎

第五條ノ疑問ハ實ニ理ニ適シ各官中恐クハ同感者多カラン因テ詳カニ之ヲ説明セン論者幸ニ本條ノ「特ニ世襲スヘキ」ノ文字ニ注意セヨ抑モ正則ノ世襲財産トモ稱スヘキハ第三條ニ掲クル第一類第二類ノ財産及ヒ第十五國立銀行ノ株券是レナリ此財産ヲ所有スル華族ハ其特ニ世襲スヘキ家屋、庭園、圖書、寶器等ニ限リ世襲財産ノ附屬物ト為スヲ得ル者ニシテ名族舊家ニハ往々ニ輪奐タル建造物若クハ視先傳來ノ重器ヲ所有ス即チ德川氏ノ芝上野ノ廟宇若クハ家々ノ系譜ノ如シ此等ハ其家ノ名譽門地ニ關係スルヲ以テ若シ法律ノ特ニ保護ヲ加フルニ非スンハ或ハ散シテ骨董商ノ塵頭ニ列シ或ハ遂ニ烏有ニ歸セン之ミ是レ特ニ世襲スヘキ物件ハ世襲財産ノ附屬物ト為シテ本條ニ掲ケシ所以ナリ故ニ本條ノ家屋ハ貸産貸家等ヲ包含セス庭園ノ如キモ樹木泉石備ハラスト雖モ其家ノ特ニ相傳シテ由緒ヲ存スル者ナキニ非サラン其他圖書寶

畧示然リ是等ハ宮内省ノ干渉シテ其散佚ヲ防カサル可ラス又第十三條ニ關シ債主ノ困難ヲ來ストノ疑議ハ第十九條第二十條第二十一條ヲ通讀セハ自ラ之ヲ解クヲ得ン即チ第十九條ニ於テ世襲財産及ヒ附屬物ヲ創設增殖更換又ハ補充セントスル者ハ額書ニ目録ヲ添ヘテ差出スコトヲ明記シ第二十條ニ於テ第一類第二類ノ財産ハ官報又ハ新聞紙ヲ以テ公告セシメ附屬物ハ華族局ニ於テ公告スルコトヲ掲示シ第二十一條ニ於テ公告後三十日間故障ヲ待ツノ猶豫ヲ與ヘタレハ其以後ハ世襲財産タル資格ノ確定スルヲ以テ從令ヒ質入書入ト為スモ債主ハ其財産ニ對シテ權理ヲ主張スルヲ得ス然ラハ則チ債主ノ保護ハ此第十九第二十第二十一ノ三條ヲ以テ十分ニ足レリトス第十條ノ元金ノミヲ言ヒテ利金ヲ言ハサルハ第三條ニ規定スル公債證書又ハ政府ノ保證シ若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行會社等ノ株券ニ生スル利金ハ非常ノ損失ヲ致セル場合ヲ除キ

常ニ變動スルコト無シ殊ニ日本銀行ハ其條例ニ據レハ諸モ大藏省ノ代理トモ謂フ可ク第十五國立銀行ハ其營業最モ確實ニシテ每年ノ配當金ハ概ネ一割二分ニ下ラス然リ而シテ普通ノ銀行會社ノ如キハ其營業稍ヤ危險ニ涉ル無キニ非サレハ或ハ一時ニ大利益ヲ攫スル有ルモ亦或ハ不時ニ大損失ヲ被フルヲ免レス故ニ利金ノ變動モ遥ヲ多カラントス第三條ノ銀行會社ト雖モ實際上素ヨリ多少ノ變動ヲ來ス無キヲ保セサレトモ大抵其利金ハ變動ヲ致サス年々ノ純收益ニ差違ヲ生セスト斷定シ此ノ如ク規定セルナリ第十三條ニ係ル疑問ハ第五條ノ答辨ニ於テ已ニ明カニ領會セラレタリト信スレハ之ヲ贅セス第十五條ノ「族」ヲ除クレ家督相續者ナキトキトハ恰モ平民ト為ルモ相續者アルトキハ世襲財産ヲ相續スルヲ得ル如ク解ス可キモ本案ハ特ニ華族ノミニ關スル法律ナレハ之ヲ士族平民ニ適用ス可キニ非ス華族懲戒令ニモ除族ノ事ヲ言フ是レ奪爵除

籍ヲ謂フ而シテ其第十八條ニ於テ除族セラレ情重クシテ親屬ノ爵ヲ得サル者モ十年ノ後ヲ上旨ニ因リテ親屬ニ襲爵ニ命スルコト有ルヲ明記ス本條ハ即チ此場合ヲ規定スル者ナリ第十五條第十六條第十七條ニ附屬物ノ事ヲ言ハサルハ別ニ旨意アリテ然セルニ非ス此等ノ三條ハ主トシテ世襲財産ニ係リ其明文ノ要用モ所謂ル正則ノ世襲財産ニ限ル而シテ此正則ノ世襲財産ヲ存セスシテ獨リ附屬物ノ存スル謂ハレ無シ之レニ反シテ附屬物ハ世襲財産ノ在ル有リテ始メテ其存スル者ナルハ明瞭ナリ然ラハ則チ此ニ附屬物ノ文字ヲ特記セサルモ其之ヲ包含スルヤ知ル可シ然ルニ第十九條ハ附屬物ノ關係最モ重ク且廣キヲ以テ故サラニ附屬物ノ文字ヲ特記スルヲ要ス第二十條ノ「一定ノ新聞紙」トハ國立銀行條例中ニ其用例ヲ見タル有ルヤヲ託據ス耶チ豫メ一新聞紙ヲ定ムル者ニシテ今日ハ甲新聞紙ニ公告シ明日ハ乙新聞紙ニ公告スル如キヲ許サス例ヘ

ハ必ス東京日々新聞ニ掲ケテ一週日間公告スルノ意義ナリ又上段ノ「公告セシムヘシ」ト為セシハ「府縣廳ニ命シ」「銀行若クハ會社ニ命シ」ト言ヘルヲ承ケタルニ過キス而シテ下段ノ「華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ」トハ華族局自ラ主トシテ公告スルヲ謂フ第二十二條ニ附屬物ノ文字ヲ掲ケサル理由ハ已ニ別ニ辨明シタレハ之ヲ省ク第二十四條ノ親屬會議ハ世襲財産創設者ノミニ限ル者ニシテ一般ノ華族ニ及ホササルナリ

○四十三番上杉茂憲　本案ノ旨趣ハ内閣委員ノ説明ニ因テ粗ホ領會セリ抑モ華族ノ財産保護ニ關シテハ明治七八年以來故岩倉右大臣ノ大ニ盡力周旋セシ所ニシテ遂ニ第十五國立銀行ヲ創設シ祿券ヲ一括シテ該銀行ニ投シ株券ハ之ヲ宮内省ニ保管シ以テ假券ヲ貸入抵當ト為ス等其弊害ハ依然絶スシテ保護ノ實効甚タ薄カリシナリ本官等尤ニ之ヲ憂ヒ深ク保護ノ方法ニ苦慮セシモ今ヤ幸ニシテ本案ノ

出ル有リ以テ華族ノ財産ヲ保護シ從來ノ悪弊ヲ掃蕩シテ永ク其品位ヲ保タシメントスルハ本官ノ素願ニ合ス因テ本案ヲ賛成ス然レトモ本官ハ全ク本案ニ満足スルニ非ス何トナレハ元來華族ハ概ネ獨立不羈ノ氣象ニ乏キニ一旦本案ヲ發布スルニ會ハハ其氣象ハ益ス挫ケ愈ヨ依頼心ヲ増長セシメントス是レ憂フ可キナリ然レトモ其固有ノ財産ヲ蕩盡シ華族ノ品位風儀ヲ破ランコトヲ懼ルルヲ以テ姑ク本案ノ保護ヲ望マサル可ラス見ニ歐洲各國率子世襲財産法ノ設ケ有ラサル無シト聞クモ彼此素ヨリ開化ノ度ヲ異ニスレハ本邦ノ強テ之レニ倣ヒ得ヘキニ非ス是レ本官ノ憂慮スル無キ能ハサル所以ナリ朝來各官ノ質問ニ因テ粗ホ各條項ノ疑義ヲ解スルヲ得タルモ尚ホ一二ノ疑點ヲ質サン第一條ノ但書ニハ満二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財産ヲ創設スルヲ得ルコトヲ言フ是レ華族令ニ據レルナラン同令ニ於テハ華族ノ隠居ヲ為

スヲ許サナレハ將來ハ敢テ支障ヲ生セサルモ現在ノ實況ヲ觀ルニ戸主ノ尊屬親即チ祖父又ハ父ノ隠居ヲ為セル者アリ此等ノ遺言ハ果シテ本條ノ中ニ入ル耶第二十四條ノ親屬會議ヲ組織スル人員ニハ一族ヲ例外ニ置キテ之ヲ加ヘサルハ何リヤ舊來ノ慣習ニ依レハ一族ニハ殊ニ親密ナル者アリテ舊堂上華族ニ於ケル宗族會議ノ如キ却テ之ヲ親屬會議ノ上ニ置クノ習慣ヲ成セリ故岩倉右大臣ハ華族ノ氏族ニ據リテ類別ヲ立テ以テ財産ノ處理其他ノ事項ヲ協議スル方法ヲ創設シタリ實ニ一族ハ人情ニ於テ互ニ親密ヲ通スル者ニシテ本條ノ親屬會議中ニハ宜ク主トシテ之ヲ加フヘキニ似タルニ却テ一族者ハ他ノ疎遠ナル親屬ヨリモ疎外セラルルノ看ヲ為ス是レ果シテ理由アリテ然ル耶以上各點ノ辨明ヲ煩ハス

○番外 岩崎十郎

第一條ハ華族令ニ據リ前代戸主ノ遺言アル場合ノミニ關ス現今實際ニハ華族ノ隠居即チ父祖ノ生存スル有ルモ本法

ハ遠ク將來ニ祢行スル者ナルヲ以テ適マ今日ニ隱居者アルカ為メ
ニ本案ノ組織ヲ破ル能ハス且苟クモ現在ノ父祖ニシテ通常ノ識見
ヲ具フル者ナラハ必ス子孫ニ諭シテ世襲財産ヲ創設セシム可ケレ
ハ敢テ罪慮ヲ要セス第二十四條ノ親屬會議ニハ宮内大臣ノ許可ヲ
得サルモ一族ヲ列シテ可ナリトスル論旨ノ如クナレトモ疎遠ノ一
族ヨリモ親屬ノ親近ナルハ人情ノ常ナリ蓋シ一族ニシテ其親情ノ
厚キ却テ親屬ニ優ル者間マ之レ無キニ非サレトモ個ハ是レ數ノ外
ノミ此數外ノ場合ヲ補フ為メニ本條ノ但書ニ特例ヲ示シ親屬ナキ
トキハ許可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ充用セシム是レ以テ四十三
番ノ憂慮ヲ消散セシムルニ足ラン若シ血統ノ一族アルモ其人ヲ親
屬會議ニ列セシムル能ハサル事情アルトキハ宮内大臣ハ臨時之ヲ
處分スルナル可シ

退席

二十番　大久保一翁

○四十八番 村田保　本官ハ本案ニ同意セス今日斯ノ如キ法律ヲ發セハ
恐クハ人民ノ悪感觸ヲ惹カン現ニ内閣ヲ組織スル諸大臣ハ其一二
ヲ除クノ外ハ概ナ新叙ノ華族ニ非サル莫シ然ルニ本案ノ如キ偏頗
ナル法律ヲ布カハ測ル可ラサルノ端緒ヲ來スモ知ル可ラス各位ノ
知ル如ク歐洲ニ於テ昔時貴族ハ國家ノ柱石ト尊崇セラレ君民ノ間
ヲ調和スル地位ヲ占メタルモ倨傲ノ悪弊ヲ生セシヨリ之ヲ怨悪ス
ル者四方ニ起リシハ史籍ニ明記スル所ナリ併國ノ如キハ「ルイ」リ
ノ徒ノ出ル有リテ貴族ハ無益ノ長物ナリ其特權トハ果シテ何物ソ
ト唱道シ甚キニ至テハ貴族ハ國家ノ蠹賊ナリト指斥シ遂ニ其頭ヲ
斷頭臺上ニ斷ントシタルハ實ニ西暦一千七百八十九年ニ在リキ然
ルニ其影響ハ各國ニ波及シ今日ニ在テハ法律上之ヲ一般人民ト同
視スルニ至レリ現ニ英國ノ如キハ貴族ニシテ若シ其后位ヲ保全ス
ル能ハサレハ之ヲ平民ニ降シ而シテ平民ト雖モ或ハ陞セテ貴族ニ

列スルノ制ヲ行フ本官ハ歐洲諸國ノ法律ニ就キ本案ノ如キ類例ノ有無ヲ調査センニ一モ檢出スル能ハス獨リ普魯西國ニ於テ一千七百九十四年ノ發令ニ係ル世襲財産法ナル者アレトモ其法タル貴族ノ財産ニ限ルニ非サルハ其第四十七條ニ「凡リ普魯西人ハ何人ヲ論セス遺言規則ノ細則ニ依リ一定ノ親屬ノ爲メニ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得」ト言ヘル明文ヲ存セルヲ以テ之ヲ知ル可キナリ又英國ニ世襲財産法アリ澳地利國ニモ一千八百五十四年制定ノ世襲財産法アリ伊太利國ニモ一千八百三十五年制定ノ民法中ニ世襲財産ノ規則ヲ設クルモ皆是レ貴族ニ係ル世襲財産法ニ非ス故ニ若シ内閣ニ於テ强テ本法ヲ設クルヲ要セハ法律ト爲サスシテ省令ト爲スヲ妥當ナリトス然レトモ本官ハ省令ト爲サンヨリハ寧ロ充分ニ修正ヲ加ヘテ法律ト爲サンコトヲ望ム聞ク華族ノ戸數ハ僅々五百有余ニ過キスト此ノ如キ少數ナル華族ノ爲メニ本法ヲ設クルハ實ニ偏

頗ノ甚キ者ト謂フ可シ現時ニ於ル歐洲諸國ノ情態ヲ察スルニ人權ハ日ニ月ニ均一ニ赴ハクニ我邦ハ之ニ反シテ斯ノ如キ偏頗ナル法律ヲ發スルハ實ニ得策ニ非サル可キナリ故ニ本官ハ第二讀會ヲ待チテ華族ノ文字ヲ削去スル修正ヲ試ミント欲スルモ今聊カ本會ニ當リ本案ニ同意セサル理由ヲ陳辨ス

二十五番（横村正直）　本官ハ本案ニ對シテ數個ノ疑點ヲ存セレモ各官ト内閣委員ノ問答ニ因テ略ホ之ヲ解スルヲ得タリ然レトモ尚ホ聊カ質問セン第一條ニ「滿二十年以下ノ者」云云ト言ヘリ是レ前代戸主ニシテ生存スルトキハ滿二十年以下ノ者ハ世襲財産ヲ創設スルヲ得サルヤ第八條ニ世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ノ財産ト爲スコトヲ得ト雖モ第一類ヲ第二類ト爲スコトヲ得ストト言ヘリ是レ何ノ理由ニ出ルヤ本官ハ却テ彼此變換シテ可ナリト思惟スルニ

第一類ヲ第二類ト為サンメサルハ如何ン第十五條ニ「世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス」ト言ヒ而シテ次ニ「家督相續スヘキ男子ナ口」ト言ヒ又其下ニ「又ハ爵ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續者ナキトキ」ト言ヘルハ何ノ故ヲ此條ニ關シテハ過刻某議官ノ質問ニ對スル内閣委員ノ答辨ヲ聞キタルモ除族セラレテ華族タラサルノ年間ハ如何カ世襲財産ヲ處置スルヤ第十六條ニ「世襲財産ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得」ト言ヒ而シテ「附屬物」ノ文字ナキハ世襲財産ハ所有者ノ之ヲ廢止ニ付スルコトヲ得サルモ世襲財産ノ附屬物ハ所有者ノ之ヲ廢止スルコトヲ得ルヤ第十七條ニ附屬物ノ文字ナキモ其疑點ヲ同ウス又四十八番ハ本案ヲ發セハ人民ノ悪感觸ヲ惹クノ恐レ有ラント言フ思フニ本案ヲ設クレハ如何ナル利益ヲ生スルヤ其得失ハ如何ン若シ内閣委員ニシテ詳カニ之レカ説明ヲ與ヘハ併セテ各官ノ疑惑ヲ解ク可キナリ

○番外一番 岩崎小二郎 二十五番ノ質問セル第一條ニ關シテハ過刻二十三番ニ對シテ辨明シタルモ其言ヤ錯誤ニ出タルヲ以テ今改メテ四十三番ニ謝シ併セテ二十五番ニ答ヘン是レ僅々父祖ノ現存セル為メニ法律上ニ其事ヲ言フノ必要ナラサルヲ信シ一ニ滿二十年以下ノ者ハ前代戸主ノ遺言アルニ非サレハ世襲財産ヲ創設スルヲ得スト定メタリ第二類ノ財産ヲ第一類ノ財産ト為スヲ得セシムルモ第一類ノ財産ヲ第二類ノ財産ト為スヲ得セシメサル理由タル現今ニ在テハ第二類ノ財産ノ利得多カル可キハ論ヲ俟タサレトモ華族ノ世襲財産ハ務メテ第一類ノ財産ヲ以テ組織センメント欲スルニ在リ蓋シ品格ノ點ヨリ之ヲ觀ルモ確實ノ點ヨリ之ヲ言フモ土地ニ若クノ者無ケレハナリ泰西諸國ノ世襲財産法ヲ閲スルニ概ネ土地ヲ以テ組織セル者ノ如シ故ニ我邦華族ノ世襲財産モ第一類ノミニ止メント欲シタレトモ今若シ第一類ノミニ止メハ恐クハ世襲財産ヲ創設

スルヲ得ル者ノ極メテ僅少ナル可キヲ以テ第一類ニ限ラス第二類ヲモ加ヘタルナリ故ニ第一類ノ財産ヲ更換シテ第二類ノ財産ト為スコトヲ得スト定メタリ第十五條ニ關シテハ過刻第一條ト同シク其答辨ヲ誤マレルヲ以テ今併セテ之ヲ正サン「族ヲ除カレ」云云トハ華族懲戒例第七條ニ「失行重大又ハ懲責ヲ受ケ猶ホ悛改ノ跡ナク華族ニ必要ナル品位ヲ有ワコト能ハサル者ハ其族ヲ除クヘシ」ト言ヒ其第八條ニ「前條ノ場合ニ於テ情輕キ者ハ子孫又ハ他ノ親屬ヲシテ爵ヲ襲カシムヘシ親屬ナキ者ハ家ヲ除ク」ト言ヘル如ク族ヲ除カレタル者ニシテ家督相續者ナキトキハ世襲財産ノ効力ヲ失スルヲ謂フナリ故ヲ以テ假令華族懲戒例第七條ニ據リテ除族セラルルモ相續者アルトキハ華族タル榮典ヲ失ハス即チ世襲財産ノ効力ヲ有ス ト領會センコトヲ請フ第十六條ニ附屬物ノ文字ヲ掲ケサルハ原來附屬物ハ世襲財産ニ附屬スル者ナレハ特ニ之ヲ明言セサルモ自ラ

其中ニ包含スト信スルニ由ル然レトモ若シ之ヲ加フルヲ必要ナリトセハ各官ノ意見ニ委センノミ本員敢テ之ヲ拒マサルヘシ又ニ十五番ハ大體ニ關シ四十八番ノ言ニ答ヘハ各官ノ疑惑ヲ解クヲ得ントヲ然ルニ今日ニ於ル華族ノ情態ハ各官ノ知悉スル所ナル可ク本案第四條ニ世襲財産ハ毎年五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産タル可キコトヲ掲クルヲ觀テモ領解スルヲ得ン本案ニハ毫モ人民ヲ害スル如キ分子ヲ含蓄セサルヲ以テ啻ニ此ノ為メニ人民ノ羨望ヲ招キ人民ノ悪感觸ヲ惹ク如キ無キノミナラス有力ナル人民ヨリ之ヲ觀レハ却テ華族ヲ憫笑スルニ至ラン要スルニ人民ハ華族ノ世襲財産及ヒ附屬物ハ公責處分ヲ受ケサル者ナルニ注意セハ足ルヘキノミ又四十八番ハ歐洲ノ事例ヲ引證セリ説ノ如ク貴族世襲財産法ニ關スル法令ハ僅ニ獨逸聯邦中ノ「ババリヤ」ニ存スルノミニシテ他ハ概ネ廣ク國民ニ及ホシ收稅主義ニ出テ多額ノ登記稅ヲ納

メシムルニ在リ斯ノ如ク收税主義ヲ以テセハ一般人民ニ係ル世襲財産法ヲ設リ可キモ苟モ然ラスンハ之ヲ設クノ必要ヲ見サルナリ又四十八番ノ云ヘル歐洲諸國ニ於テ人權ハ日ニ月ニ均一ニ赴ムクヽ云云ノ一事ニ至テハ深ク種々ノ點ヨリ觀察ヲ下サヽル可ラス現ニ歐洲ニ於テハ社會ノ秩序ヲ重ンスル學士若クハ政治家ノ説ノ益々勢力ヲ加フル者ノ如シ其故他無シ蓋シ十八世紀ニ於テ佛國革命ノ變亂起リ貴族ノ頭ヲ斷頭臺上ニ斷タントスルニ至リ社會ノ風潮ハ人間ノ階級ヲ一掃シ去ラントスル而シテ其風潮ハ一ノ海峽ヲ隔テ英國ニ入リ西班牙國ノ如キハ爲メニ滅亡ヲ致セリ然リ而シテ十九世紀ニ及ヒテ着實ナル學士政治家ノ輩出シ一世ノ風潮ハ社會ノ秩序ヲ維持スルニ傾向シ苟モ一般人民ニ損害ヲ被ラシメサル以上ハ人間ノ階級ヲ設クルヲ可ト爲スニ至レリ彼ノ數年前ニ逝去セシ有名ナル英國宰相「ビーコンスフヰルド」侯ノ如キ此説ヲ主張シタル一

人タリキ顧ミテ我ク日本帝國ヲ觀レハ歐洲諸國ニ比シテ猶ホ紛糾ナルヲ免レス近ク二十年前ニ於テ始メテ纔カニ封建制度ヲ打破シ得タルノミ然ルヲ今日ニシテ俄カニ風潮ヲ變スル如キハ甚タ倫叙ヲ失ス蓋シ此事タル政治上ノ大難問題ニシテ素ヨリ一場話ニ判斷スルヲ得ヘキニ非サレトモ前ニ四十八番ノ言アリ今又二十五番ノ言アルヲ以テ聊カ一辨スルノミ又本案ヲ發布スル得失如何ノ質問ニ答ヘンニ本案ハ幾分カ華族ノ獨立心ヲ退歩セシムルヤハ知ル可ラス彼ノ富者ノ子ノ獨立心ニ乏シクシテ貧者ノ子ノ獨立心ニ富ムハ普通ノ情勢ナリ然レトモ苟クモ華族ランテ國家ノ尊榮ナル地位ニ立タシメサル可ラサル以上ハ多少其獨立ノ氣象ヲ損スルニ至ルモ本案ヲ發布スルヲ必要ナリトス是レ國體上實際上萬已ムヲ得サルニ出ル者タリ此事タル實ニ重要ノ問題ニ係レルヲ以テ各官ノ熟慮ヲ加ヘンコトヲ懇請ス

○二十二番 芳原和　本官ノ質問ニ對スル内閣委員ノ答辨ヲ得タリ其第五條ニ關シテハ「特ニ」ノ文字ニ着眼セヨト云フモ未タ明瞭ナラサルヲ以テ尚ホ質問セン本官ハ其但書ニ「但其收益ヲ以テ第四條ノ制限額ニ算入スルヲ得ス」ト言ヘルヲ以テ之ヲ觀レハ家屋ナル文字ハ貸土藏若クハ貸長屋等ヲモ包括スル者ナラント信セシニ内閣委員ノ答辨スル所ヲ以テセハ德川氏ノ芝上野ノ靈廟若クハ由緒アル庭園ノ如キヲ謂フト云ヘリ果シテ然ラハ此ニ生ス可キ收益ノ存スル無ラン故ニ本官ハ貸土藏貸長屋等ヲ包括スルニ非サルヤトノ感ヲ起セシナリ請フ更ニ明辨ヲ與フルヲ過刻來歐洲諸國ノ狀態ニ關スル論辨ヲ聞ク本官ハ其狀態ノ何如ヲ知悉セサレトモ本邦今日ノ景況ヲ觀察スルニ本案ヲ發スルモ敢テ一般人民ニ關係ヲ及ホス無キヲ信ス決シテ人民ノ悪感觸ヲ惹ク等ノ罪處ヲ要セス某議官ハ内閣大臣ハ其一二ヲ除キ他ハ華族ヲ以テ組織セルニ因リ本案ノ如キ法

令ヲ布クハ偏頗ナリト云フモ何リ此ノ如ク顧慮スルヲ須ヒン

○番外一番 岩崎小二郎　二十二番ニ答ヘン説ノ如ク第五條ノ家屋ナル文字ハ貸土藏貸長屋等ヲ包含スル如キ看アル可キモ本案ノ精神ハ務テ第一類ノ財産ヲ目的ト爲サンメントスルニ在レハ貸土藏貸長屋等ハ其品格稍ヤ土地ヨリ劣レルヲ以テ之ヲ包含セシメサルナリ要スルニ家屋庭園圖書寶器等ハ或ハ散佚シテ烏有ニ歸スルノ恐レ有ルニ因リ世襲財産附屬物ト爲スヲ得セシムルナレハ假令此ニ生スル收益アルモ其收益ヲ以テ第四條ノ制限額内ニ算入スルヲ計ナサルニ在リ蓋シ廟所若クハ所有地ノ如キハ公證ヲ經ルヲ得ヘキモ圖書寶器等ハ公證ヲ經ルヲ得ヘキニ非ス然ルニ家屋庭園等ハ少ナクシテ圖書寶器等ハ多カル可シ思フニ本案ハ新創ニ係ルヲ以テ或ハ少シク明瞭ヲ缺ケル條項ナキニ非サル可キモ前後ヲ思應シテ熟慮ヲ加ヘハ自ラ明備ナルヲ知ルニ至ラン然レトモ若シ更ニ明瞭ナラン

ムルヲ得ハ本員敢テ之ニ不同意ヲ唱ヘサル可シ

○五番 三浦安 本官ハ大體ニ於テ本案ヲ贊成ス其文字ノ妥當ヲ缺ク者ハ宜ク第二讀會ヲ俟チテ修正ヲ加フヘキノミ故ニ本會ニ於テハ沈默ヲ守ラント欲セシモ四十八番ノ過激ナル論議ノ出タルヲ以テ為メニ一言セサルヲ得ス四十八番ハ華族ノ特權ヲ有スルヲ非トシ且今日ノ内閣大臣ハ概子華族ナルヲ以テ本案ノ如キ法律ヲ設クルハ偏頗ニ類スト云ヒ隨ヒテ佛國革命ノ事實ヲ擧ケテ之ヲ辨セリ是レ大ナル誤見ト謂ハサル可ラス凡ソ邦國各其習慣ヲ異ニス佛國英國等ニ何等ノ事例アルモ我國亦必ス然ル可キニ非ス今日ノ大名華族ハ三百年來此トシテ帝室ノ藩屏ト為リカヲ治國ニ盡シタル者ナリ決シテ佛國等ノ事例ト比較ス可キニ非ス況ヤ是レ各其國體ト制度ト教育トニ基ク者ナルヲヤ本邦ニ於テ本案ヲ發スルモ人民毫モ華族ヲ怨惡スル無キノミナラス本官ハ却テ滿天下人民ノ欣喜センコトヲ信ス二十年以前マテ余輩ノ戴キテ主君ト為シテ尊崇シタル舊加賀ノ事ニシテ世襲財産ヲ創設セハ余輩ハ為メニ欣喜セサルヲ得ス若シ其舊知事ニシテ家政ヲ修治セサルヨリ一朝破産スル如キコトアラハ舊藩士ハ言フヲ俟タス農工商ノ徒ニ至ルマテ他藩ニ對シテ名譽ヲ失スルノ感ヲ懷カン假令四十八番一人ハ本案ヲ嫌忌スルモ一般人民ハ皆深ク本案ヲ貴重セントス故ニ宜ク本案ヲ設ケテ華族ノ地位ヲ鞏固ニシ以テ上ハ至尊ノ藩屏ト為リ下ハ萬民ノ軌範ト為ラシムヘキナリ斯ノ如クセハ或ハ却テ泰西各國ハ本邦ノ制度ヲ艷羨スルニ至ラン蓋シ百千年以後ノ事ニ至テハ各自ノ見ル所ニ任セテ推斷ス可キモ今日ニ於テ彼ノ佛國革命ノ例ヲ援クハ甚タ當ラス若シ斯ノ如キ亂暴狂悖ノ例ヲ援カハ遂ニハ虚無黨社會黨ノ如キ主義ニ陷ラシムルノミ本案ノ如キハ善ク我カ國體ニ諧ヒ實ニ今日ノ時勢ニ合シ且深ク今日ノ華族ニ適應セル者ナルヲ以テ毫モ四十八番ノ如キ

憂慮ヲ懷ヲヲ要セス只惜ム本案ハ文字ノ結構少シク完全ナラササヲ以テ全部付託調査委員ヲ選ヒテ内閣委員ト協議シ調査修正ヲ經テ第二讀會ヲ開クヲ要スト因テ請フ本會ノ終ニ際シテ全部付託調査委員ヲ選定センコトヲ

○四十番 中村正直　本官ハ五番ノ説ノ如ク本案ヲ設クルヲ必要ナリト信ス國會開設ノ期モ近キニ在レハ上院下院ヲ設クルニ當リ上院ノ議員ヲ組織スルニ華族ヲ要スルハ論ヲ俟サル可シ英國ノ如キ上院ハ貴族ヲ以テ成立シ豪農等ハ其末席ニ列スルナリ況ヤ我ク元老院ノ如キモ其章程第三條ニ議官ニ勅任セラルル者ハ第一華族第二勅奏官ニ昇シ者第三國ニ功勞アリシ者第四政治法律ノ學識ヲ有スル者トスト言ヘル如ク華族ヲ其第一位ニ置ケリ若シ華族ニシテ財産ヲ蕩盡スル有ラハ實ニ國家ノ爲メニ憂慮ス可キナリ故ニ其財産ヲ保護スルハ最モ緊要ナリトス因テ原案ヲ贊成ス

退席

○四十六番 本田親雄　本官モ五番ノ説ノ如ク調査委員ヲ設クルヲ善シトス

○二十三番 神田孝平　本官ハ慶案説ヲ特ス斯ノ如キ法案ニシテ若シ發布セハ實ニ國家人民ノ爲メニ不利ナルノミナラス華族ノ爲メニモ亦不利ナリトス本案ノ説明ヲ聞クニ華族ヲ保護セサレハ或ハ滅亡ニ至ルモ知ル可ラスト云ヘリ然ルニ此ノ如キハ本官毫モ憂慮スルニ足ラスト爲スナリ彼レ若シ滅亡セントセハ滅亡スルニ任ス可キノミ自ラ一家ノ財産ヲスラ守ル能ハサル如キ華族ハ國家ノ爲メニ何ノ効功ヲ爲ス有ラン腐敗華族ハ自然ノ淘汰ニ委シ國家ニ功榮アル者ヲ擧ケテ新タニ華族ニ叙ス可キナリ斯ノ如クシテ如メテ善美ナル上院ヲ組織スルニ足レル華族ヲ生セントス宜ク新陳交代セシメテ華族ノ地位ヲ貴重ニシ國家ノ氣運ヲ隆盛ナラシムヘキナリ凡リ

三十九番　町田久成

政ハ公平ヲ貴フ一方ニ奪ウシテ一方ニ薄キハ為政ノ天理ニ悖戻ス本案ノ腐敗華族ヲ保護セントスルハ即チ為政ノ天理ニ悖戻スルナリ我國ノ現狀タル富者ハ愈ヲ富ミ貧者ハ愈ヲ貧シキニ傾向スル時ニ會フテ却テ既ニ富メル華族ヲ保護シテ益之ヲ富マシムルハ實ニ偏頗ノ甚キ者ナリ又經濟上ヨリ之ヲ論スルモ宜ク勞役者ヲコソ保護スヘキニ却テ坐食者ヲ保護スルハ不利ノ大ナル者ナリ斯ノ如キハ或ハ國家ノ大害ヲ釀スニ至ラン又今日到處ニ不景氣ノ歎聲ヲ發セサル無シ其原因ハ種々ナル可キモ昔時ハ富有者ノ土地ヲ兼併セシニ今日ハ公債證書ヲ兼併スル風ヲ成シ為メニ幾分カ不景氣ヲ助長スルニ至ル現今何等ノ職業ヲ營ムモ七分利付ノ公債證書ヲ所有スルニ優ルハ有ラサル可シ其ハ年ニシテ元金額ニ倍スルハ既ニ世人ノ算シ知ル所タリ現今華族ニシテ一百萬圓以上ノ公債證書ヲ所有スル者少ナカラス此一百萬圓ノ公債證書ハ今後ノ八年ニシテ二

百萬圓ト為リ更ニ倍加シテ十六年ニハ四百萬圓二十四年ニハ八百萬圓三十二年ニハ一千六百萬圓ト為ル是レ幾何學ノ級數ノ順序ヲ以テ倍加スルナリ凡リ物ノ數ニハ限リ有リ此ニ増セハ彼ニ減スルハ自然ノ定理ニシテ華族ノ財産斯ノ如ク増殖セハ人民ノ財産漸次ニ減少シ貧者ハ愈ヲ貧ナルニ至ルハ決シテ免レサルノ理勢ナルノミ然ルニ今日ニ當リ厚ク華族ヲ保護セハ貧民ハ痛ク怨望ヲ懷クニ至ルモ知ル可ラス制度教育國体人情ノ佛國ニ異ナルニ拘ラス今後ノ人民ハ昔日ノ人民ト同シカラサルヲ以テ其貧窮ノ余リ或ハ四十八番ノ云ヘル如ク暴亂ヲ企フル無キヲ期セス故ニ本案ノ如キ法律ヲ設クルハ政府ノ為メニモ人民ノ為メニモ共ニ不利ナルヲ免レス華族ニ在テモ其自立スル能ハサルヲ表スル者ニ似テ為メニ其責重ノ地位ヲ低降センムルニ至ラン宜ク自然ノ淘汰ニ委シ國家ニ功勞アル者ヲ以テ其闕ヲ補ヒ華族ノ地位ヲシテ益々貴重ナラシムルヲ望

ム是レ本官ノ國家ノ為メ人民ノ為メ及ヒ華族ノ為メニ深ク望ム所ナリ因テ本官ハ本案ヲ廢棄ニ付センコトヲ欲ス

○議長　發議既ニ盡クルヲ以テ此ニ第一讀會ヲ畢ル因テ五番ノ建議ヲ取決セン全部付託調査委員ヲ置クニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長　少數ナルヲ以テ五番ノ建議ハ消滅ス第二讀會ノ期日ハ追テ報告セン散會セヨ

午後第一時十分閉場

元老院會議筆記　明治十九年四月八日　禁傍聽

○第五百八號議案　華族世襲財産法　第二讀會

議長　大木喬任

出席議官

二番	小畑	美稿
三番	長松	幹
四番	久我	通久
五番	三浦	安
七番	黒田	清綱
八番	安藤	則命
九番	田邊	太一
十一番	伊丹	重賢
十二番	長岡	護美

十七番　東久世通禧
十八番　宮本　小一
二十番　大久保一翁
二十一番　林　友幸
二十二番　柴原　和
二十三番　神田　孝平
二十五番　横村　正直
二十七番　福原　實
二十八番　津田　眞道
二十九番　橋口　兼三
三十一番　鍋島　幹
三十四番　西村　貞陽
三十五番　永山　盛輝

三十六番　西　周
三十八番　壬生　基修
三十九番　町田　久成
四十番　中村　正直
四十一番　渡邊　清
四十二番　榎取　素彦
四十三番　上杉　茂憲
四十四番　大鳥　圭介
四十六番　水田　親雄
四十八番　村田　保
四十九番　神山　郡廉
五十番　河田　景與
五十五番　中島　錫胤

内閣委員
一番外
一番法制局参事官岩崎小二郎

五十八番　宍戸　璣
六十二番　清岡　公張
六十五番　中村　弘毅
六十七番　原田　一道
六十九番　大迫　貞清
七十一番　伊東　祐磨
七十二番　加藤　弘之
七十四番　調所　廣丈
七十五番　長谷部辰連

午前第十時十分開場

○議長　第五百八號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官　森山茂　朗讀

華族世襲財産法

第一條　華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得

○二十三番（神田孝平）　第一讀會ニ略陳セン如ク本官ハ本案ヲ是認セス因テ廢案説ヲ提出ス本論ニ入ルニ先タチ一言セン華族ヲ以テ四民ノ上位ニ班シ皇室ノ藩屏ト爲スハ決シテ非ナラス是レ外國ニ於テモ數ハ見ル成例ニシテ蓋シ萬國ノ同ク許ス所ナリ殊ニ本邦ノ如キハ從來ノ風習及ヒ今日ノ形成ヨリ之ヲ考フルモ此制度タル素ヨリ動カス可ラス代議政体ヲ組織スルニハ第一ニ華族ヲ以テ上院ノ議官ヲ組織ス可ク四民ノ政務ニ通曉セサル者ヲ以テ之ニ充ルハ頗ル危險ナリトス故ニ本官ハ素ヨリ華族ヲ無用視スルニ非ス今ヤ進ミテ本案ノ宜ク廢棄スヘキ理由ヲ陳辯セン近時人民ハ重税ニ困シ辛苦

勞動スルモ仍ホ其生ヲ保セサルニ華族ハ概シテ飽食暖衣し些モ辛苦勞動スル無クシテ或ハ一年ニ十數萬圓ノ息銀ヲ收メ而モ納稅ノ義務ヲ負ハサル有リ此一點ヨリ觀察スルモ彼此既ニ權衡ヲ失ス若シ人民ノ知識已ニ今日ノ如ク幼稚ノ域ヲ脫センナラハ恐ラハ默過セサリシナル可シ蓋シ其然ラサリシハ華ト云ン歟將タ不幸ト云シ歟且夫レ本案ヲ設ルモ富裕華族ニ益セス極言セハ家計ノ將サニ衰落セントスル腐敗華族トシテ利スルニ過キス此ノ如キ華族ニシテ焉リ皇室ノ藩屏ト爲ル有ラン寧ロ政府ノ厄介物ニシテ同族ノ名譽ヲ汚損スル者ナリト謂フ可シ其レ然リ正理ミリ論シ來レハ斯ル華族ハ其自滅スルニ委シテ可ナレトモ亦一概ニ正理ノミヲ主張ス可キニ非ス

○議長　二十三番ニ告ク華族ヲ目スルニ政府ノ厄介物ニシテ同族ノ名譽ヲ汚損スル者ナリト云フヲ以テ之ヲ概論スルハ頗ル過激ニ涉

ル宜ク注意スヘシ

○二十三番神田孝平　個ハ是レ單ニ腐敗華族ヲ擧テ言フノミ衆華族皆然リトスルニ非ス

○議長　然ラハ妨ケ無シ

○二十三番神田孝平　凡リ華族ハ祖先ノ功勞ニ由ル歟將タ功勞ヲ建タリシ人ノ親族等ヨリ出タル者ナレハ情實上ヨリシテ宮内省ノ省令若クハ同族ノ内規則ヲ以テ一般ニ之ヲ保護スルハ可ナレトモ法律ヲ以テスルハ全國ニ不公平ヲ宣布スルニ似テ太タ不可ナリ素來華族ヲ四民ノ上位ニ班セシムルニハ法律ノミニ賴ル可ラス假令何樣ノ法律ヲ作ルモ彼レ道德廉恥ヲ重ンセサレハ以テ華族ノ名望ヲ保ツ能ハス故ニ若シ華族ニシテ常人ニ對シ債金ヲ償還セサル有レハ同族ニ於テ代辨シ債主ニ損失ヲ被ラシメサルニ力ム可シ斯ノ如クシテ始メテ華族タル體面ヲ汚損セサラン然ルニ華族ニ金錢ヲ貸與シ

ル八貸與者ノ過失ナリヲ以テ如キ偏頗ノ法律ヲ作ルハ甚タタ宜キニ
合セス若シ斯ル法律ヲ發セハ尊卑ノ分格立タス尊卑ノ分格立タサ
レハ彼ノ皇室ノ藩屏ト為リ四民ノ師表ト為ルノ効功ハ遂ニ之ヲ望
ム可ラス是レ華族ヲ置クノ本旨ニ非サルナリ故ニ曰ク本案ハ必ス
廢棄ニ付セサル可ラスト

○四十八番 村田保　二十三番ノ動議ニ贊成ス廢棄ヲ要スル理由ハ二十
三番ト異同アルトモ本官モ結局廢案論ヲ主持スルナリ夫レ近時ニ
於ル華族ノ總數ハ五百有余戸ニ過キス此僅々ナル華族ノミノ財産
ヲ保護スルニ堂々タル法律ヲ以テスルハ是レ法律ヲ濫用スル者ト
又看ヨ華族今ナリ華族懲戒令ナリ皆之ヲ法律ト為ササルヲ本案モ
宜ク之ニ倣フヘキノミ本官ハ前會ニ廢案ノ意見ヲ陳ヘ且本案ハ前
後矛盾シ不明不備ノ條項モ少ナカラスト辨シタレトモ内閣委員ハ
其所以ヲ質サス然ルニ本案ヲ贊成スル同列者アルヲ以テ其參考ニ

供スル為メニ之レカ理由ヲ一辨セン第三條ノ世襲財産ノ種類中ニ
鑛抗水車ヲ許ヘス然ルニ見ニ有名ナル華族某ハ金鑛ヲ有シ本官ノ
知人ナル某華族ハ水車ヲ有ス蓋シ此二者ノ如キハ宜ク世襲財産ト
為スヘキ者ニシテ即チ不備ナリ第五條ノ世襲財産附屬物ノ種類中
ニ船舶ヲ計ヘス且二十八番ノ云ヘル如ク倉庫ヲ計ヘサルハ恐クハ
遺漏ナラン蓋シ倉庫ハ家屋ナル文字中ニ包含セサレハナリ又此條
ニ「世襲財産ノ所有者ハ云々ト言ヒ創設者ヲ言ハス而シテ第二十三
條ニ創設者及ヒ所有者ト言ヘルヲ觀レハ創設者ハ本條ニ言フ所ノ
世襲財産附屬物ヲ設定スル能ハサルカ如シ獨リ之ヲ所有者ノミニ
限ルハ性訝ニ堪ヘス是亦不備ナリ第七條第八條ニハ共ニ「宮内大臣
ノ許可ヲ得テ」云々ト言ヒ即チ世襲財産ヲ増殖シ及ヒ第二類ノ財産
ヲ更換シテ第一類ノ財産ト為スハ共ニ宮内大臣ノ許可ヲ取ルヲ要
スルニ第十九條ニハ世襲財産ヲ創設増殖更換又ハ補充セントスル

者及ヒ世襲財産附屬物ヲ設定セントスル者ハ共ニ宮内大臣ノ認可ヲ取ルヲ要又是レ如何ナル區別ニ因リテ然ル乎夫レ許可ト認可ト相異ナルハ各位ノ知ル所ノ如シ然ルニ一ハ許可ト言ヒ一ハ認可ト言フ即チ矛盾ナリ第八條ニ「世襲財産ノ所有者ハ云々第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ト為スコトヲ得」ト言フ然ラハ創設者ハ之ヲ為スヲ得サル乎即チ不明ナリ第十一條ニ「世襲財産ノ所有者ハ之ヲ為スヲ為スコトヲ得ト雖モ」云々ト言ヒ而シテ之ニ制限ヲ附セス然レハ則チ幾十年ノ後ヲ期シテ債ヲ起スモ妨ケサル耶本案ハ普魯士國ノ「ランドリット」ナル法律ヲ基本ト為シテ之ヲ作ルニ似タリ而シテ彼ニハ十年ナル制限ヲ附セリ制限ハ最モ肝要ナリトス若シ之レ無ク ハ本案ヲ設ルモ恐クハ其効用ヲ見サル可シ又第十二條ニハ「世襲財産ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖モ云々其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス」ト言ヒ而シテ裁判費用ニ關シテハ之ヲ差押フルヲ得ルヤ

否ヤヲ明示セス「ランドリット」ニハ第百二十條ヲ以テ裁判費用ニ關シテハ幾許ノ金額ニ達スルモ差押フルヲ得ルコトヲ明示ス又第十三條ノ「世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入ト為スコトヲ得ス」ト言ヘル ハ本案ノ骨子タリ然ルニ此ニ貸浸ノ文字ヲ見ス若シ貸浸ノ約定ハ之ヲ結フモ禁セスト云ハハ本案ヲ設ルモ何ノ効用カ之レ有ラン又第十四條ニ「但國税地方税町村費ヲ不納シタルトキハ」云々ノ制限ヲ附シ而シテ刑事俵償ノ處分ヲ示サス華族ト雖モ必シモ奏ク悪事ヲ為サヽルヲ保タス又第十五條ニ「世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フ」ト言ヒ而シテ第二項ニ「第九條第十條ニ掲ケタル訣額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ」ト言ヒ第十四條但書ノ場合ニモ訣額ヲ生ス可キニ之ヲ列記セス是亦不備ナラスヤ第十六條ニ「世襲財産ハ所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得」ト言フ然ラハ創設者ハ如何ヽスル乎且其世襲財産ハ廢止スルヲ得サルモ附屬

物ハ廢止スルヲ得ルヤ否ヤ明白ナラス此第二點ニ關シテハ前會ニ於テ某議官ヨリ附屬物モ同一ナル歟ヲ質問シ本官モ同感ナレトモ一歩ヲ進メテ之ヲ考フレハ所有者ハ本ト附屬物ヲ作レル人ナレハ之ヲ廢止スルヲ得ル者ト為シ故サラニ之ヲ載セサル如キノ疑ヒ無キ能ハス是亦不明ナリ第二十條ニ「宮内大臣ハ云云但世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公布スヘシ」ト言フ然ラハ但書以下ノ公告ハ華族局ニ於テ隨意ニ之ヲ為スヲ得ル乎蓋シ是レ宮内大臣ノ命ヲ俟テ公告スルノ意ナラン果シテ然レハ別ニ一項ヲ設ケ世襲財産ノ附屬物ハ云々公告セシムヘシト修正セサレハ文ヲ為サス又第二十一條ニ「第一類ノ財産ハ所轄ノ府縣廳ニ命シ云々ト言ヒ而シテ北海道廳ヲ言ハス又末項ニ世襲財産ニ係ル處分法ノミヲ規定シ附屬物ノ事ニ及ハス又第二十二條第二十四條モ世襲財産ニ關スル事ヲ載セテ附屬物ノ事ヲ示サス是レ亦不備ナリ本官一人ヲ以テシテ既ニ本

案ノ斯ノ前後矛盾シ及ヒ不備不明ナルヲ發見セリ他尚此類少ナカラサル可シ却テ説ク本案ヲ廢棄シタル以上ハ之ヲ閣令ト為ス歟省令ト為ス歟將タ「ランドリツド」ノ如ク人民一般ノ財産保護法ト為ス歟是等ハ内閣ノ意見ニ存スルノミ本官等ハ職分ニ於テ本案ニ對シ只タ賛成若クハ廢棄ノ意見ヲ陳スルニ止マル下付ノ議案ニ對シテ廢棄ヲ唱フルハ吾心ニ安ンセサレトモ奈何セン前陳ノ理由アルヲ以テ二十三番ヲ賛成セサルヲ得サルナリ

○議長　四十八番ニ問フ只今ノ辯論ニ據レハ本案ハ不備不明ナルカ故ニ廢棄ハ　レトニ云フニ似テ二十三番トハ其理由ヲ異ニセリ而モ仍ホ賛成スル乎

○四十八番村田保　然リ

○議長　然レハ則チ二十三番ノ廢案説ヲ問題ト為ス

○七十二番加藤弘之　本官ハ現問題ニ同意セス二十三番ハ近時人民ハ多

梲ニ困シムモ華族ハ然ラス斯ル種族者ヲ保護スルハ無要ナリトヲ
フ蓋シ若シ政府新タニ財物ヲ華族ニ付與セントヲモ在レハ其説
ノ如クナルモ本案ハ華族ノ從來所有スル財産ヲ保護セントスルニ
過キサレハ今日之ヲ廢スルモ改レテ民望ニ反スルノ虞慮ヲ要セス
又本案ハ到底不良華族ヲ保護スルニ止マル是等ハ存亡共ニ其自爲
ニ一任スヘシト云フモ斯ル議論ヲ以テスレハ政府ノ得テ爲スヘキ
事業ハ幾ント之レ無ク寧ロ無政府ヲ善シトスルニ至ラン凡リ法律
ハ悪人ノ良民ヲ害スルヲ防ヰ悪人ヲシテ益ス悪人タラシメサル爲
メニ作ル所ノ者ナリ若シ天下ニ悪人ノ存セスンハ何ソ法律ヲ設ル
ヲ須ヒン蓋シ英國ヲ除クノ外ハ世界ノ華族ハ概ネ腐敗セル者ノミ
然レトモ君主國ニ在テハ貴族ヲ以テ藩屏ト爲ス可シトヲフハ今日
學者社會ノ輿論ニシテ反對論者ト雖モ亦同説スル所トス其レ然リ
君主國ニハ貴族ヲ設クルヲ必要ト爲ス以上ハ隨テ之ヲ保護シカメ

テ善良ニ導カサル可ラス是ニ由テ之ヲ觀レハ腐敗華族多キ我國ニ
在テハ益ス其保護法ヲ設クルノ心要ナルヲ知ル可シ故ニ本案ハ各
條ニ指摘セハ多少批難ス可キ有ルモ必ス之ヲ制定スルヲ要ス又四
十八番ハ華族ノ財産ノミヲ保護スルハ不可ナリト云フモ只此レノ
ミヲ以テシテモ既ニ容易ナラス況シテ一般人民ノ財産ヲ保護スル
ヲヤ且夫レ政府ノ華族ヲ待ツハ常ニ四民ト同シカラス故ニ華族ニ
對シテハ本案ノ如ク幾分ノ束縛ヲ加フルヲ得ルモ一般人民ニ對シ
テハ其權利ヲ束縛スルノ失當ナルヲ覺フ又本案ハ寧ロ省令ト爲ス
可シト説クモ省令ト爲セハ人民ハ其存在ヲ知ラス偶マ之ヲ知ルモ
是レ本ト公然タル法令ニ非サレハ充分ニ其効力ニ據ルニ由レ無シ
之ニ反シテ法律ト爲セハ何人モ其存在ヲ知ラサル可ラサルヲ以テ
縱令不良華族ノ人民ヲ欺罔セントスルモ能ハス故ニ宜ク法律ト爲
スヘシ斯ク論スルモ本官ハ素ヨリ華族ヲ偏愛スルニ非ス前條ノ如

ノ政府ノ華族ヲ待ツ既ニ一般人民ト異ナレハ華族ニ限リ束縛ヲ施シ之ヲシテ其体面ヲ墜ササラシメンコトヲ企業スルニ外ナラサルノミ

○二十二番 柴原知 七十二番ノ駁論ニハ本官モ同感ナリ本官ハ第一讀會以來今日ニ迄フモ依然トシテ本案ヲ是認ス廢案説ノ主眼ハ華族ニ限リ厚ク保護スルヲ要セスト云フニ在ルモ山林ナリ田畑ナリ凡テ世襲財産ト為レル者ハ戸長役場ノ壹帳ニ其事ヲ登記スルニ因リ此ヲ以テ抵當ト為シ華族ニ金圓ヲ貸付スルハ是レ債主ノ過失ナルノミ以テ廢案ノ理由ト為スニ足ラス又不良華族ハ自然ノ存亡ニ委スヘキノ理ニ保護ヲ加フルヲ要セスト云フモ本案ハ七十二番モ云フ如ク自己ノ財産ヲ隨意ニ處分スルヲ許ササルナレハ寧ロ束縛法ト謂フヘキノミ第一讀會ニモ云ヘル如ク若シ華族ノ貧者ニ幾許ノ資産ヲ下付セントスルニ在レハ人民ノ嘗蓄ヲ來スヘキモ本案ハ從來所有スル財産ヲ保護シ否ナ華族ヲ檢束セントスルニ在リ語ヲ換テ之ヲ言ヘハ華族ハ特殊ナル恩遇ヲ蒙ル者ナレハ法律ヲ設ケテ特ニ之ヲ束縛シ久對論者ノ所謂腐敗華族ヲシテ益ス腐敗ニ赴カシメサルヲ期スルナリ現問題ノ賛成者ハ廢案説ヲ發スルハ心ニ安ンセストスルモ若シ廢案ス可キ理由アレハ其説ヲ唱フルニ於テ何ノ心ニ安ンセサルコトカ之レ有ラン本官ハ自ラ心ニ安シレテ之カ説ヲ唱フヘキモ本案ハ其毫モ廢棄ス可キ理由アルヲ見ス但タ華族ノ財産ニ限リ保護スルハ不可ナリト云フハ一理ナキニ非ス彼ノ三井鴻池ノ如キ豪商ハ本官モ其破産ニ至ニサランコトヲ望ハモ今遽ニ一般ノ世襲財産ヲ保護スル法律ヲ作レハ甚タ干渉ニ過キ為メニ却テ此難ヲ招ク無キヲ保セス故ニ先ツ本案ヲ發布シ而シテ其善ク實際ニ行ハルルナラハ或ハ他日一般人民ノ財産ニ及ホスモ未タ晩カラス又本案ヲ閣令若クハ省令ト為スモ可ナリト論スレハ法律ト為スモ

可ナリト論セサルヲ得ス名位ノ知ル如ク省令ニ於テモ二十圓以内ノ罰金ヲ科スルヲ得レハナリ且ヤ閣令若クハ省令ト為シテ發スルナレハ寧ロ法律ト為シ本院ニ於テ之ヲ議スルヲ得タリトス又若シ廢案論ヲ持スルナレハ條項ノ不備不明等ヲ説クヲ要セス然ルニ四十八番ノ此點ニ論及スルハ或ハ修正ヲ欲スル歟將タ理由ヲ具シテ本案ヲ奉還セントスル歟是等ハ現問題ニ關係セス即チ現問題ノ消滅スルヲ待チテ四十八番ノ十分ニ之ヲ論ス可キノミ要スルニ發議者并ニ贊成者ノ理由ハ一モ本案ヲ動カスニ足ラス本案ハ第一讀會ニモ陳ヘタル如ク今日ニ適應セル法案ナレハ速ニ逐條議ニ移ランコトヲ望ム

○四十一番 渡邊清 本案ハ國家ニ必要ナル法案ト謂フニ非サルモ有無熟レカ可ナリヤト問ハヽ寧ロ之レ有ルヲ可トス又對論者ノ説ヲ聽クニ近時華族ハ概シテ腐敗セリ之ヲ保護スルハ無要ナリトシ又

本案ハ腐敗華族ヲ利スルニ過キストシ又獨リ華族ヲ保護スルハ公平ナラストシ等其論旨ハ種々ナルモ原來世襲財産法ハ開明諸國ニモ行ハルル者ナリ且此法律ニ依頼スルヤ自ラ幾分ノ權理ヲカルルヲ以テ法律亦之ヲ強ヒス開明諸國ニ於テモ往々此法律ニ依頼スル者アリ是レ其子孫ヲ護スル為メ若クハ其祖先ノ祭祀ヲ保スル為メナリ大ヒ本邦ノ華族ハ其學識聞見ノ共ニ啻ニ歐洲ノ華族ニ及ハサルノミナラス之ヲ我國ノ他ノ種族ニ比スルモ仍ホ其下ニ出ツ往時藩制ノ時ニ在テハ各藩共ニ檢束法ノ自ラ備ハレル有リ故ニ稍ヤ心ヲ安ンスルヲ得レトモ大政維新 後ニ至テハ華族モ人民トヽ同シク其檢束法ト存スル無キヲ以テ金錢ヲ浪費シ分外ノ債ヲ負ヘル等ハ各官輩ノ頻々ニ聞ク所ナリ其レ然リ故ニ之ヲ救フハ政府ノ義務ナリト謂フモ蓋シ不可ナル無ラン且ヤ腐敗華族ハ世襲財産ヲ創設スル能ハサレハ本案ハ未タ腐敗セス特サニ腐敗セントシ及ヒ

将來ノ長計ヲ為サント欲スル華族ヲ保護スル者トス第一讀會ニ於テ華族ノ新陳代謝スルヲ是トスル説出メリシモ若シ國家經濟ノ結ヨリ言ヘハ巨萬ノ財産ヲ蓄積スルモ何等ノ功益ヲ見ス無之利用シテ始メテ農商工ノ事業ヲ興シ以テ其功益ヲ見ント謂フ可キモ此ハ是ト本案ノ目的ト為ス所ニ非ス本案ハ惟タ華族ノ財産ヲ保護セントスルノミ見ニ華族ノ被産セルハ概シテ國益ヲ圖リテ事業ヲ興シ遂ニ失敗ヲ取レルニ由ルニ非ス點青ノ教唆ニ陷リ或ハ自己ノ遊情ニ耽レルニ由ル負ニ悲ム可キノミ故ニ之ヲ保護スルハ其理ナシト謂フ可ラス若シ夫レ華族ヲ以テ無用ノ長物ト為スニ至テハ大體ニ渉ル議論ニシテ一朝一夕ノ能ク識了ス可キニ非ス然レトモ一言セハ外國ニモ華族ヲ存ス特ニ本邦ハ國體上ニ於テ華族ヲ立ルヲ必要ナリトス宜ク之ヲ保護スヘキナリ思フニ將來ニ在テ華族モ海外ノ形勢ヲ知リ隨テ學識自ラ備ハルノ日ニ會セハ斯ル法律ニ依

賴スルヲ要セサレトモ今日ニ於テハ之ヲ設ルノ萬已ムヲサルヲ知ル因テ姑ラク本案ヲ贊成ス

退席

○二十一番 鍋島軌 本案ハ已ムヲ得ス制定スルモノト信スルヲ以テ本官ハ之ヲ廢棄ニ付スルニ忍ヒス然ルニ今ヤ廢案説ハ勢力ヲ得テ遂ニ議場ノ問題ト為ルニ至リタレハ一言之ヲ辯排セサル可ラス妄スルニ反對者ノ説ハ獨リ華族ノミニ保護ヲ加フルハ公平ナラスト云フニ在ルモ凡リ事皆公平ヲ把テ量較スレハ恐クハ底止スル所無ケン且ヤ發議者モ華族ヲ置クノ必要ナルハ固ヨリ之ヲ認メサルニ非ス只之ヲ保護スルヲ不可ト為スノミ然レトモ既ニ華族ヲ置クノ必要ナル以上ハ亦必ス之ヲ保護スルヲ以テ至當ナリトス夫レ華族ハ世襲ノ門族ナリ官吏ノ如ク賢智才能ヲ揮ヒテ其位置ヲ有タシムル者ニ非ス之ヲ四民ノ上ニ置キ以テ名望ヲ保タシメントセハ務メテ

其知識ヲ廣メ其德義ヲ修メシメナル可ラス而シテ財産ノ有無ハ則チ知識德義ヲ養成スルノ如何ニ關ス是レ其財産ヲ保護スルノ必要ナル所以ナリ已ニ其門族ヲ世襲セシメント欲シ而シテ之ヲ等閑ニ付スルハ華族ヲ置ク所以ノ本意ニ背ク又彼ノ四民同等論ノ如キハ固ヨリ別題ニ屬ス況ンヤ方今ノ華族ニシテ家ヲ破リ醜ヲ露ハス者ノ往々ニ之レ有ルヲヤ宜ク法律ヲ設ケテ之ヲ檢束スヘキナリ故ニ本官ハ敢テ伏ヒテ本案ヲ贊成セサルモ決シテ之ヲ廢棄スルヲ欲セサルノミ

○四十番 中村正直 本官ハ前會ニ於テ原案ヲ贊成スル所以ヲ略陳セリ反對論者ハ曰フ華族ハ獨リ巨多ノ財産ヲ擁シ四民ハ漸ク之ニ兼幷セラレ貧富ノ間ニ甚シキ懸隔ヲ生スルニ至ル可シト其實蓋シ富者益ス多ケレハ隨テ貧者益ス多シトスルニ似タリ且華族ハ才能ヲ具セスシテ巨多ノ財産ヲ有スト云フヨリシテ遂ニ本案ヲ廢棄ス可シト

主張セルナランモ本官ノ考フル所ヲ以テスレハ國ニ富者アルハ寧ロ貧者ヲ害セサルノミナラス爲メニ大ヒニ貧者ヲ益ス譬ヘハ大川ノ近傍ノ土地ハ爲メニ其潤澤ヲ受クルカ如シ英國ハ富者多キヲ以テ器物制作ノ需用殊ニ夥シク以テ工匠技手ニ利益ヲ與ヘリ華族ノ財産ヲ保護スルノ利益以テ知ル可シ決シテ反對論者ノ云フ如ク腐敗無用ノ者ヲ保護スルニ非ス又其華族ニ私スト云フ如キハ謬見モ亦甚シトス夫レ今日ノ華族ハ皆是レ祖先ノ勳功ニ因テ其地位ヲ有チ以テ永ク皇室ニ藩屏タル者ナリ且ヤ日本ハ從前上ニ天子アリ下ニ諸侯大夫等アリテ上下ノ分ヲ劃シ以テ國安ヲ保セリ然レハ則チ今日ニ於テモ華族ヲ保護シテ皇室ノ藩屏タラシムルハ固ヨリ當然ノ事ト爲ス決シテ之ニ私スト謂フヲ得ス況ンヤ現行法中特ニ華士族ノミニ施シテ齊民ニ及ホササルノ的例僅マ多キヲヤ何ソ獨リ此法案ノミナラン故ニ二十三番ノ動議ニハ同意セサルナリ

○四十四番大為主分　本官ハ現問題ヲ賛成又元来方今ノ華族ハ朝廷ヨリ過分ノ優恩ヲ受ル者ニシテ曩ニ封建ヲ廢シテ郡縣ト為スニ當リ現禄ノ十分ノ一ヲ下賜シ其後家法ヲ廢スル今ヲ布リヤ更ニ現禄ヲ公債證書ト為シテ下賜スル恩典ヲ蒙レリ是レ其提封ノ版籍ヲ朝廷ニ奉還セルニ報シタルナリ華族ノ優恩ニ浴スル大ナリト謂フ可シ然ルニ今日ニ至リ往々ニ家産ヲ蕩盡スル者アルハ是レ自ラ招クノ禍ナルノミ間々家令ノ不良ナル為メニ此ニ至ル者アランモ究竟其身ノ愚昧ニシテ事理ニ通セス他人ノ誘惑スル所ト為レルノミ本官ハ現今存在セル五百戸許ノ華族ヲ永久ニ存續セシムルヲ必要ナリト為サス之ニ換フルニ國家ニ功勞アル者ヲ以ヲスルヲ望ム顧フニ一盛一衰ハ自然ノ理勢ニシテ商農ノ如キモ皆此理勢ノ厄ヲ免ルル能ハス人力ヲ以テ其衰頽ヲ挽回セントスルモ決シテ能ハナルナリ少シク酷論ニ似タルモ恩賜ニ係ル巨多ノ財産ヲ守ル能ハサル如キ

暗愚ナル華族ハ決シテ帝室ノ藩屏ト為ルニ足ラス昔日ヨリ幾十萬石ノ封土ヲ有スル名族ニシテ其子孫ノ不肖ナルカ為メニ家ヲ覆ヘセル者ナキニ非ス故ニ其盛衰ハ之ヲ自然ニ委シ敢テ保護ヲ加フルヲ要セス又一方ヨリ之ヲ言ヘハ華族タル者朝廷ニ大恩ヲ受ルヤ已ニ厚シ必ス之ヲ報スル職役ヲ致ス無カル可ラス思フニ大華族ハ或ハ資財ヲ出シテ國家ノ事業ヲ助成スルヲ得ヘキモ小華族ニ至テハ其力ノ能フ所ニ非ス昔時ノ大小名ノ如ク各自ニ兵馬ノ權ヲ有スレハ國家一朝事有ルニ臨ミ分ニ應シテ軍役ニ服シ以テ王室ニ報スル義務ヲ盡スヲ得ヘキモ今日朝廷別ニ海陸軍ヲ備フレハ華族ヲシテ兵役ヲ助ケシムルヲ須ヒス彼レ惟タ恩賜ノ公債證書ト所有ノ土地財産トヲ擁シテ安穏ニ生涯ヲ送ルヲ得ルノミ曩キニ明治十年ノ西南ノ役ニ際シ華族ノ其舊藩士ヲ説諭シ以テ軍役ヲ助ケテ王室ニ功勞ヲ致セシハ是レ當時廢藩置縣日尚ホ浅ク舊君臣ノ情誼未タ絶ユル

ニ至ラサルニ由ルノミ今後年ヲ経テ緩由漸ク薄キニ赴カハ復タ然ル能ハサル可シ本官ハ決シテ現今ノ華族ヲ廢滅ニ歸セシメント欲スルニ非サルモ勢ヒ自ラ新陳交代セサルヲ得ス前會ニ五春ハ舊主家ヲ永續セシメント欲スルハ舊臣タル者ノ情義ナリト云ヘリ一已ノ私情ヲ以テ之ヲ論スレハ人皆此情義アラサル莫ク本官ト雖モ亦然リ然レトモ大体ノ利害ヲ以テ之ヲ論スレハ甚タ之レト異ナリトス即チ今日ノ華族ハ徒ラニ朝廷ノ優恩ニ浴スルモ之レニ報答スル職任ヲ存セス天恩ヲ叨リニスルノ誠ヲ免レスト云フニ在リ且ヤ偏ニ寵ヲ加ヘテ保護ヲ厚クスルニ過クレハ華族ハ遂ニ倚頼心ヲ除ク能ハサル弊害ヲ生セシ誘ニ日ク愛兒ニハ族行セシムルヲ要スト若シ徒ラニ愛ニ溺シテ保護ヲ與フルニ過クレハ成長ノ後ニ至リ反リテ暗愚無用ノ人物ト為ラシメシ華族ニ過分ノ恩惠ヲ與フルハ之ヲ善良ニ導カント欲シテ反テ之ヲ悪弊ニ陷ルナリ又看外ハ華族ノ

資産ハ漸次ニ土地ニ換ヘシメント要スト云フモ今日ノ景況タル土地ノ所有者ハ地租及ヒ豆町村費ノ多額ニルニ苦ミ土地ヨリ生スル穀物ノ價値ハ日ヲ逐テ低下シ損得相償ハサルヲ以テ公債證書ノ所有者ハ決シテ此ヲ以テ彼ニ易ヘサルナリ華族ニ資産ヲ有セシメ以テ勢力ヲ維持セシメント欲スルモ勞シテ功ヲ見サル可シ今日華族モ同族中ニ提轄法ヲ設ケ大ヒニ德義ヲ養成シ品行ヲ矯正スルヒ至レリ然レハ則チ朝廷ノ保護ハ既ニ之ヲ今日ニ止メ後來ハ其自為ニ一任ス可キノミ新陳代謝ハ天理ノ自然ナレハ何リ本家ノ保護ヲ加フルヲ要セン蓋シ子孫ノ不肖ニシテ祖先ノ資産ヲ一朝ニ蕩盡スルヲ防クニハ此等ノ法案ヲ要ス可キモ是レ大体ノ利害ニ關スル者ニ非ス本官ノ意見ハ二十三番ト小異ヲ存スルモ其動議ヲ賛成スルナリ

○四十二番 撰取 赤房 本官ハ現問題ニ同意セス本案固ト完美ノ法律ニハ

非サルモ弊害ヲ防止スルニハ之レ無ル可ラス顧フニ華族ノ財産ハ
數年以來大ヒニ減耗ヲ致シタリ若シ今ニ又セテ之ヲ救ハサレハ恐
ラハ底止スル所無ラン論者或ハ貪富ノ平均セサルヲ主張スレトモ
國家ノ經濟ヨリ之ヲ言ヘハ務メテ富者ヲ保護シ之ヲシテ其財産ヲ
減耗セシメサルヲ得タリトス今ヤ日本ノ財源ハ漸ク涸レ農工商ノ
各業甚タ衰微シ只僅ニ華族ノ一部分ニ富ヲ余スノミ然ラハ則チ此
富ヲ保護シ之ヲ減耗セシメサルハ幾分カ世間ノ利便ヲ為サントス
即チ學校ヲ建築シ船舶器械ヲ購求スル等ノ為メニ華族ニ強ヒテ貨
金ヲ出サシハル能ハサルモ天皇陛下ノ勅諭ヲ以テ之ヲ命セハ其事
立トコロニ辦セン故ニ本案ヲ發スルモ決シテ我邦ノ醜恥ト為スヘ
キニ足ラス我邦ハ自ラ我邦ノ財力ヲ量リテ事ヲ為スヘキノミ要スル
今日ノ華族ニハ固行善カラスシテ資財ヲ蕩散スル者間々多シ若シ
之ヲ保護スルハ無益ナリト云ヒ以テ其自為ニ委セテ名門右族ヲ滅

絶ニ歸セシムルハ甚タ遺憾ナリトス宜シク保護ヲ加ヘテ以テ永久ニ
存續セシムヘキナリ

○九番 円邊太一 本案ハ現問題ヲ賛成シ起立ヲ以テ之ヲ表セントセシモ
往々ニ現問題ヲ駁スル論者アルヲ以テ聊カ反駁セサルヲ得ス抑モ
政事法律ノ二者ノ其公平ナルヲ尚フハ人皆之ヲ知ル而シテ此法案
ハ公平ナリト謂フ可キカ蓋シ公平ナラサルモ攻略上或ハ已ムヲ得
サルニ出ル者ナシト為サス然レトモ必要ニ非サル不公平ノ法律ハ
之ヲ設ケサルヲ至當ナリトス思フニ本案ハ華族ノ上ハ一等ヲ載キ
下ハ衆民ニ臨ムヲ以テ特別ノ保護ヲ與フルトヰフノ理由ニ出ルニ
過キサラン然ルニ此法律ノ保護ニ依賴シテ斯世ニ立ツ如キ華族ハ
後年代議政体ヲ行フノ日ニ至ルモ決シテ國家ニ裨益スル能ハス其
實ニ上院ノ議院ト為テ天下ノ安危ニ位スル者ノ如キ恐クハ此法律
ノ保護外ノ人ニ在ル可シ然ラハ則チ此法律タル徒タ是レ無意カノ

華族ヲ保護スル者ニシテ到底偏頗ノ誹謗ヲ免レス故ニ現問題ニ左袒スルナリ

○六十二番 清岡公張 本官モ九番ノ云ヘル如ク單ニ起立ヲ以テ現問題ニ同意ヲ表セント欲セシモ反對説ニ一取ヲ加ヘテ以テ賛成ノ意ヲ明サン然ルモ其理由ハ少シク二十三番ノ云フ所ト異ナリ二十三番ハ華族ヲシテ獨立ノ氣象ヲ養成セシム可リ且其新陳代謝スルハ自然ノ理勢ナレハ此等ノ法案ヲ設クルヲ須ヒスト云フ其論旨尤モ治潑炎快ナリ本官ハ謂ラク華族ハ古來ノ貴重名門ニシテ恰モ名所舊蹟ノ如シ名所舊蹟ハ何レノ邦國ヲ問ハス必ス之ヲ保存ス若シ華族ヲ設ルヲ必要ト爲シ永ク王室ヲ藩屏タラシメント欲セハ之ヲ保護スルハ至當ナリトス已ニ之ヲ保護スルモ尚ホ其家産ヲ蕩失スルニ至ル如キハ是レ已ムヲ得サルノミ其亡滅ニ委ス可シト爲スハ謬見ナリ故ニ華族ヲ保護スルハ本官ノ是認スル所ナルモ此法案ニハ同意

セス何トナレハ法律ナル者ハ一般ニ普及スルヲ以テ其本質ト爲スニ此ノ法律ノ如キハ獨リ華族ノミニ施スニ止マリ而シテ華族ト雖モ又唯情願者ノミヲ保護シテ其他ニ及ホササレハナリ要スルニ政府ハ華族ノ財産ノ保護預ヲ爲シ不肖ナル子孫ノ其財産ヲ浪費スルヲ防制セハ可ナルノミ者モ其財産ヲ保護スルニ止マラハ特ヲ法律ヲ以テセサルモ他別ニ方法ノ在ルヲシテ且縱令ヒ法律ト爲スモ本案ノ如クンハ次シテ保護ノ功用ヲ收ムル能ハス若シ子孫ニ不肖者アレハ恐クハ財産ヲ保持スルヲ得サル可シ蓋シ第十五條ノ第二項ニ「第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ」ト言フヲ以テ見ル可シ然ルモ此ノ如キ注文ノ破綻ハ修正ヲ加ヘハ可ナレトモ更ニ時運ニ徴シテ本案ノ不可ナルヲ知ル曩キニ數百年因襲セシ幕府ヲ廢シタル以來政府ハ漸ク人民ノ權利ヲ保護シ所有ノ權利ヲ確定シ不動産ノ賣買讓與ヲ自由ニシ騈々乎トシテ歐米文明ノ盛域ニ進マントスルノ

今日ニ當リ此ノ如キ特別ノ法律ヲ設クルハ是レ法律ノ體面ヲ傷ツクルナリ故ニ本宮ハ此ノ如キ嚴格ノ法律ヲ設ケスシテ宮内大臣ヨリ其根轄法ヲ布達シ以テ人民ヲシテ華族ノ世襲財産ハ賣買抵當ニ付セサル者ナルコトヲ明示セハ足レリト又今日不動産ノ賣買ハ區郡吏ノ公證ヲ要シ決シテ各自ノ擅為ニ委セス故ニ華族ノ財産一タヒ其世襲ト為リテ區郡役所ノ臺帳ニ登記スルニ至レハ人民ハ決シテ不良華族ニ散賜セラル、無カル可シ之ヲ要スルニ華族ノ財産ヲ保護スルニ省令ヲ以テスルト嚴格ノ法律ヲ立ルトノ差違ハ法律ト為セハ法律ノ体面ヲ傷ツクルモ省令ヲ以テスレハ之ヲ傷ツクルニ至ラサルニ在リ是レ本官ノ本案ヲ廢棄ニシト欲スル理由ナリ終ニ臨テ更ニ一言セン前述ノ如ク宮内省既ニ一タヒ特法ヲ設タル以上ハ宜ク終始其ニ華族ノ財産ヲ撿束スヘク決シテ其自由ニ委ス可ラス縱令子孫ニ不肖者アリテ國家ノ法典ヲ犯スニ至ルモ其人ハ處罰ス可ク其財産ハ籍没ス可ラス必ス別ニ相

續者ヲ定メテ之ヲ承續セシムルヲ要ス耳ヤ不良ナル子孫ヲ為メニ一家ノ貧困ヲ招キ其家族ヲシテ憂患ニ沈マシムルハ甚タ悲ム可キナレハ其家産ヲ保護スルハ固ニ必要ナリトス又其子弟及ヒ寄食者ノ如キハ海陸軍ニ從事セシムルヲ善シトス本案第十五條ノ第二項ニ言フ如ク保護ノ効力ヲ失ハシムルハ得策ニ非サルナリ

退席

七番　黒田清綱

○十一番伊丹重賢　本宮モ廢案論者ノ一人ナリ只其理由ハ發議者ト小異ヲ存ス前會ニ於テ某議官ハ佛蘭西國ノ革命事蹟ヲ擧テ偏ニ華族ニ私スルノ不可ナルヲ論セシモ五番ハ我邦ト歐羅巴各國トハ建國ノ体ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ反駁セリ是レ甚タ事理ニ桶ヘリ或ハ世襲財産法ヲ設クルトキハ華族ハ獨立心ヲ失ハントスト云フモ獨立心ノ存否ハ財産ニ與カラスシテ知識學問ニ關スルノミ本宮ノ本案ヲ非認スル所以タル此ノ如キ法律ヲ立ツルハ貴胄名族ノ為メニ甚タ惜ム

可シト云フニ在リ何リヤ華族ハ人民ノ上位ニ立チ其一挙一動ハ國民ノ模範ト為リ國家ニ干城タリ皇室ニ藩屏タル者ナリ然ルニ香外ノ言ニ云フ此保護法ヲ設ケルハ維新以來凡リ華族ノ醜狀ヲ露ハス ハ概ネ財産ニ關スルヲ以テ之ヲ防止セン為メナリト夫レ國民ノ上頭ニ位セル華族其人ニシテ自家ノ財産ヲモ維持スルヲ得スト為スハ抑モ何事ソヤ是レ既ニ已ニ國民ノ輕侮ヲ防ク可ラス況シヤ更ニ其財産ヲ保護スル特別法ヲ設ケ以テ愈ヲ其愚拙ヲ表スルヲヤ其輕侮ヲ受ケサラント欲スルモ能ハサルナリ顧フニ從來ノ華族ハ深室ノ中ナル婦人ノ手ニ生長シタレハ其知識ヲ研磨スルニ由シ無リシモ今日ハ學習院等ノ設ケ有リ專ラ其材德ヲ養成スルヲ以テ從來必ス文武ノ才幹ヲ具備スル者ノ輩出スルニ至ル可ク間々或ハ暗愚遊惰ノ者ノ出ツル無キヲ保セサレトモ從前ニ比スレハ必ス有用ノ人物ヲ生セン為ン若シ暴行ノ子孫ヲ出シテ家産ヲ破リ恩賜物ヲ失フ

如キ是レ天ノ其家ヲ亡ホスナリ六十二番ノ説ノ所ハ其効功ノ有無ヲ知ラサルモ姑ク宮内大臣ノ特別ノ方法ヲ以テ保護ヲ與フルニ止ム偏頗ナル法律ヲ發セサルヲ善シトス蓋シ將來漸次ニ華族中ヨリ有用ノ人物ヲ出シ遂ニ官府ノ保護ヲ仰カサルニ至ラン且此法案タル特ニ人民ニ對シテ公平ヲ缺ケルノミナラス華族ニ對シテモ公平ヲ缺ケリ思フニ此法案ノ如クナレハ華族ト雖モ五百圓以上ノ純收益ヲ有セサル者ハ此恩典ニ與カルヲ得ス然ルニ華族ニシテ財産ヲ蕩破スル者ハ概ネ小家ニ多クシテ大家ニ稀レナリ蓋シ是レ大家ハ才幹アル家令家扶等アリテ保護スルモ小家ハ之ニ反シテ主人自ラ牙籌ヲ握リ金錢ノ出納ヲ為スヲ以テ為メニ失敗ヲ招クヲ免レサルニ由ルナリ然ルヲ此法案ノ大家ヲ庇フテ小家ヲ遺スハ何リヤ是レ或ハ後來ニ於テ家令家扶等ニ不良者ヲ出シテ主家ノ財産ヲ浪費蕩散ニ付スルヲ恐レ以テ之ヲ防制セントスルニ在ルヤヲ知ラサレト

モ到底華族ニ對シテモ公平ヲ缺ケル法律タルヲ免レス因テ本問題ニ左袒スルナリ

○議長　既ニ午時ヲ過キタレハ一旦散會シ午餐ノ後ヲ更ニ開會セレ

午後零時三十五分閉場

午後第一時十五分開場

退席　三十八番　壬生　基修

同　三十九番　町田　久成

同　七十二番　加藤　弘之

○議長（東久世通禧）　午前ノ續會ヲ開ク

○二十八番（津田真道）　廢案説ハ問題ト爲レルモ贊成者ハ各其理由ヲ異ニセル者ノ如シ又原案贊成者ノ論旨モ種々ニ出ルニ似タリ本官ノ意見ヲ以テスレハ華族ノ世襲財産ヲ保護スルハ甚ノ難事ニ屬シ所謂

一本ヲ以テ大厦ノ將サニ覆ラントスルヲ支フルニ異ナラス夫レ斯ノ世界ハ活動物ニシテ此議場ニ在ル議官ニモ四十年以前ニ生レタル有リ五十年以前ニ生レタル有リ且ヤ世間ニハ時々刻々ニ生レ時刻々ニ死スル者其數ノ幾多ナルヲ知ラス邦國ト雖モ或ハ滅亡スル無キ能ハス思フニ吾輩ハ住居スル世界モ意ニ一タヒハ滅亡スルヲ免クルコト能ハサラントス斯ノ如キハ決シテ人力ノ保護ヲ以テ其滅亡ヲ支フルヲ得サルナリ彼ノ子思カ中庸ニ於テ傾者覆之ト言ヒシハ數千年前ニ在テ已ニ此理ヲ看破セル者ト謂フ可シ又之ヲ林木ニ譬ヘンニ松樹ノ如キ檜樹ニ比スレハ其壽短ク雜木ハ松樹等ニ比スレハ其壽更ニ短シ然ルヲ數千萬年間大木ヲ生存セシムルハ決シテ望ム可キニ非ス況ンヤ老朽ノ樹木ヲ生存セシムル如キハ到底能ハサルノ事ニ屬ス華族ヲ保護スルモ之ニ同シク或ハ保護ヲ加フル爲メニ却テ之ヲ滅亡ニ歸セシムルノ悪結果ヲ來サン故ニ理論上

ヨリ之ヲ言ヘハ問題説ノ如ク本案ハ廢棄セサル可ラサルニ似タリ彼ノ埃及ノ如キ土耳其ノ如キ之ヲ人ニ譬フレハ特サニ死亡ニ向ントセル者ニ同シ而シテ欧洲諸國ノ土耳其ヲ保護スルハ是レ青西亜ノ呑噬ヲ防ガン為メナレハ其保護ヲ為スモ已ムヲ得サルノミ我邦ノ現狀ヲ觀ルニ五百有余ノ華族ト四十万ノ士族トノ在ル有リ華族ハ未タ其財産ヲ失ハサル可キモ士族ハ已ニ其財産ヲ失ヘル者極メテ多シ間々或ハ志ヲ得テ意氣ノ揚揚タル無キニ非サレトモ是レ千萬人中ノ一二人ニ止マル本官ノ如キモ士族ノ一人ナリ幸ニシテ未タ死ニ瀕セサルモ本官ノ知人ニシテ殆ント死ニ瀕シ其狀情實ト言フニ忍ヒス見ルニ忍ヒサル者多ク之レ有リ又國勢上ヨリ之ヲ觀レハ我國ハ隣國ナル朝鮮ニ比スレハ稍ヤ優レル有ルモ亜細亜洲中ニ於テ獨立ノ體面ヲ全ウセルハ僅ニ我國ト清國トニ過キス抑モ亜細亜洲ノ廣袤タル之ヲ欧羅巴洲ニ比スレハ甚タ大ナルモ國勢ノ振興セ

サルハ欧羅巴洲ニ劣レル數等ナリ本官ハ切ニ本邦ノ長ノ獨立國タランコトヲ望ミ之ヲ想ヘハ實ニ長大息ニ堪サルナリ近時我邦ハ百事欧米ニ模倣スル風習盛ンニシテ中等以上ノ人士ハ洋服ヲ着シ洋館ニ住スル者アルニ至ル然レトモ此風習ノ果シテ國土人情ニ適スルヤ否ヤハ本官等未タ之ヲ知ル能ハス又民法モ制定セサル可ラス刑法治罪法モ施行セサル可ラス刑法治罪法ノ如キ洋法ニ模倣セン法律ナルモ其果シテ本邦人ニ利益スルヤ將タ白皆人ニ利益スルヤハ亦未タ之ヲ知ル能ハス今ヤ國庫ヲ海外ニ輝サン為メニ貧困ニシテ飢渴ニ迫レル二千七百萬ノ人民ニ重税ヲ課徴シ以テ海陸軍備ヲ擴張スル費用ニ充ツ蓋シ斯ノ如クニシテ能ク此國ヲ維持スルヲ得レハ可ナレトモ若シ維持スルヲ得サレハ人人艱難シテ死ヲ取ンノミ思フニ人生ハ即チ苦界ニシテ必ス一死ヲ免レス又時ニ疾病ニ罹ル有リ本邦ノ如キ之ヲ人ニ比スレハ疾病ノ全身ニ蔓延セル者ト謂

ヲ可ク殊ニ華族ハ將サニ死ニ瀕セル者ト謂フ可シ若シ此疾病ヲ救治セントスル欲セハ已ムヲ得ス本案ノ如キ藥劑ヲ投セサル可ラス腐敗華族ヲシテ帝室ノ藩屏タラシムルハ望ム可ラサルモ元來此華族ナル者ハ一朝ニ成立シタルニ非ス堂上華族ナリ大名華族ナリ皆是レ嘗テ國家ニ功勞ヲ致セシ名家望族ナレハ其子孫ニシテ身代限ヲ爲スニ至ルハ實ニ見ルニ忍ヒサルナリ又聞ク人民中ニモ貧困ニ迫リテ納稅ノ義務ヲ果スヲ得ス爲メニ其所有ノ田畑ヲ公賣處分ニ付セラルル有リト實ニ思ハサル可ラス幸ニ人民ノ此事ヲ腦裏ニ盡シ能ク自立シテ以テ其財産ヲ存持セシコトヲ願フ故ニ今先ツ華族ノ財産ヲ保護シ漸次ニ三千七百萬ノ人民ヲモ皆其財産ヲ喪失セサラシメ此ノ如クシテ他日外國人ト角爭スルニ敗ヲ取ラサルニ至ランコトヲ希望スルナリ因テ廢案論ニ左袒セスシテ原案ヲ贊成ス

○二十七番 神田孝平 本官ノ提出セシ廢案説ニ對スル駁論ニ一撃ヲ加ヘシ某議官ハ本案ハ人民ニ取リテ華族ニ與フルニ非ス故ニ不公平ト謂フ可ラスト説クモ既ニ一方ニ厚ケレハ自ラ一方ニ薄カラサルヲ得スシテ必ス平均ヲ失フ即チ不公平ニ非スシテ何ソヤ昔年ノ法律ニ閨刑ナル者ヲ存セリ是レ敢テ人民ニハ重刑ヲ科シタルニ非サレトモ其不公平ナルヲ爲メニ前キ已ニ之ヲ廢セリ本案ハ偏ニ華族ニ利スル者ニシテ財主タル權理ヲ腐敗華族ニ與フルハ到底不公平ヲ免レス又某議官ハ歐洲諸國中獨リ英吉利ヲ除キ其他ノ貴族ハ皆腐敗セルヲ以テ本邦ノ華族モ腐敗スルヲ妨ケスト云ヒシニ似タリ果シテ其言ノ如ク歐洲諸國ニ在テハ國家帝室ノ藩屏タル貴族ニシテ腐敗セルナラハ本邦ノ華族ハ宜ク腐敗セサル英國ニ則トラシムヘキナリ其何ノ故ニ他國ノ貴族ハ腐敗シテ英國ノ貴族ノミ腐敗セサル歟本官ノ考フル所ヲ以テスレハ英國ノ貴族ノ腐敗セサルハ特ニ冗贅ナル保護ヲ加フル無キニ由ルナラン彼ノ「マグナカルタ」ニ謂

印セン貴族ノ今日ニ見存スル者ハ幾ント稀ニシテ他ハ皆其後ニ於テ新タニ貴族ト為レル者ナリト聞ク英國ノ貴族ノ如クニシテ始メテ眞ニ國家帝室ノ藩屏ト為スニ足ル可シ故ニ本邦ノ如キ宜ク英國ノ制ヲ取ルヘク決シテ他ノ歐洲諸國ノ例ニ倣フ可ラサルナリ

番外一番 岩崎小二郎 廢案説ハ問題ト為リタルモ本官別ニ反撃説ヲ呈セス唯第一讀會ニ略陳セン本案維持説ヲ補述セン抑モ本案廢案説ハ數種ニ分レタルモ要スルニ偏頗不公平ト云フヲ最モ多シトス然ルニ宇内ノ歴史ニ徵スルニ國家ノ敗亡スル原因ハ多ク國體ヲ變革スルニ存ス然レハ則チ各國共ニ其國體ノ重シス可キハ言フ俟タス今若シ華族ノ貧富盛衰ヲ優勝劣敗ノ常理ニ委スレハ賢者ハ富盛ニ進ミ愚者ハ貧衰ニ陷リ自ラ天然ノ道理ニ合ス可キモ華族ノ貧富盛衰ハ國體ニ大關係ヲ有スルヲ以テ之ヲ自然ニ委ス可キニ非ス我邦ハ古昔ヨリ尊ヲ尊トスル風俗ナリシモ維新以來ハ變シテ賢ハ賢トス

ル風習ヲ成シ貴族ノ特權ハ漸ク陵夷スルニ至レリ論者或ハ新華族ヲ以テ國體ヲ維持ス可シト云フモ現今ノ華族中ニ於テ最モ有力ナルハ大名華族ナルニ若シ之ヲ優勝劣敗ノ常理ニ委シ毫モ保護ヲ加ヘサレハ將來何様ノ景況ヲ見ルヤヲ測ル可ラス且夫レ外面ヨリ觀テ以テ家計饒裕ナリト信ス可キ華族ニシテ其實ハ窮乏ナル者ナキヲ保タス又嘗テ宮殿ニ昇降シ玉座ニ咫尺セシ華族ニシテ後ニ車ヲ軛キテ塵埃中ニ奔走スルナラハ舊臣ノ之ヲ見ル其感情ハ果シテ何如ソヤ若シ夫レ新華族ヲ以テ舊華族ニ換ントスル論旨ニ至テハ亦是レ賢ヲ賢トスル一方ニ偏スル者トス愛スルニ本案ハ唯是レ華族ヲ保護スルニ止マリ為メニ人民ニ損害ヲ及ホス無シ又其腐敗華族ヲ保護スルハ事ニ益スル有ラスト云フモ本案ハ決シテ窮困奈何トモスル無キ華族ヲ救助スルニ非ス即チ其家計ノ蕩震ヲ未然ニ防クノミ以上ノ理由ニ據リテ之ヲ考フレハ偏頗不公平トスルヲ除クノ

外ハ本案ヲ實施スルニ於テ毫モ支障ヲ來タスヲ見ス又十二番ハ日
フ華族ノ財産ヲ保護スルハ法律ヲ以テセスシテ宮内省ノ特法ニ依
ル可シ十一番ハ日フ此等ノ法律ヲ設クルハ却テ名族ノ為メニ之ヲ
惜ムト然レトモ宮内省ノ規則ヲ以テスレハ或ハ徹底セサル有ラン
ヲ恐ル且ヤ行政衙門ノ内規ヲ以テセハ却テ人民ニ疑惑ヲ抱クシメ
ントス故ニ寧ロ法律ヲ以テ人民ニ明示スルヲ要ス又名族ノ為メニ
不德ヲ表スルハ遺憾ナラサルニ非スト雖モ本案ハ其不德ヲ重ネサ
ラシメンカ為メニ之ヲ設クルナレハ已ムヲ得サルノミ若シ夫レ我
カ國體ニ於テ華族ヲ置クヲ必要ナリト為スハ各官ノ同感ナルヲ信
スルヲ以テ復タ喋辯ヲ費サス四十八番ハ此保護法ハ一般ノ人民ト
及ホス可シトスフ想フニ他日或ハ一般人民ニ關スル財産保護法ヲ
布クニ至ルヤヲ知ラサルモ是レ本ト西洋各國ニ於テモ共ニ收税主
義ニ出ツ殊ニ獨逸ハ其登記税ノ頗ル重キヲ以テ實際保護ヲ出願ス

ル者甚タ少ナシト聞ク然ラハ則チ此保護法ヲ一般人民ニ施スハ目
今ノ急務ニ非サル可ク只單ニ華族ニ施スノ必要ナルヲ見ルノミ是
レ歐洲ニ於テ其例素ト多シトス又或ハ本案ヲ不明不備ナリト為シ
廢棄説ヲ唱フル有ルモ此ハ是レ文字ノ不明不備ナルノミニ之カ為メ
ニ本案ヲ廢棄ス可キニ非サレハ本官ハ其説ニ對シテ陳辯スルヲ要
セス但其不明不備ノ各點ニ至テハ本案ノ逐條議ニ渉ルヲ俟タテ之
ヲ辨明シ幸ニ好僅正ノ出ル有レハ直チニ同意ヲ表セントス要スル
ニ我カ國體ノ如何ナルヤ又偏ニ賢ヲ賢トスル風習ニ傾ムカハ國體
上ニ何等ノ關係ヲ及ホスヤハ各官ノ熟考ヲ加フルヲ望ム所ナリ因
テ聊カ一言ス

○二十五番（横尾正直）　本官ハ現問題ヲ贊成ス第一讀會以來熟考ヲ加フレ
トモ本案ノ華族ニ利ス可キヲ見ス又其國體ニモ益スル無キヲ信ス
或ハ我國ノ富源漸ク耗消スルヲ以テ華族ノ財産ヲ保護スルハ甚タ

緊要ナリト云フモ富源ノ耗涸ヲ防クハ決シテ此レト關係セス若シ
本案ヲ行フトキハ華族ノ財產ヲ束縛スルヲ以テ却テ貨幣ノ流通ヲ
梗塞シ而シテ其余スル所ノ者ハ偏頗不公平ノミ且ツ華族ヲ保護スル
功効ヲ奴メント欲セハ寧ロ宜シク純收益五百圓以下ノ小華族ヲシテ
此恩典ニ與ラシムヘキニ本案ハ之ニ反シテ單ニ五百圓以上ノ純收
益ヲ有スル華族ノミヲ保護スルハ本官ノ尤モ怪ム所トス然リ而シ
テ本案ヲ行フモ出願者ナケレハ固ヨリ不用ニ屬シ且若シ第十五條
ニ觸ルレハ終ニ世襲ノ効力ヲ失フ故ニ本官ハ到底其効用ノ在ル所
ヲ知ル能ハサルナリ又某議官ハ宮内省ノ布達ヲ以テ本案ニ頒フ可
シト云フモ是亦不可ナリ朝廷果シテ華族ヲ保護セントナラハ法律
省令等ニ憑ラサルモ別ニ自ラ方法ノ在ル有ラン何リ必シモ法律ト
省令トヲ之レ要センヤ本官ノ現問題ヲ贊成スル旨意ハ此ノ如シ

○二十二番 柴原和 既ニ取決ノ機會ニ際スト信スレハ一言以テ意見ヲ

陳セン今ヤ議場ノ景況ヲ通觀スルニ廢案論者漸ク多キヲ加ヘ幾ン
ト可否兩立スル如キ勢ヒ有ルハ嘆息ニ堪ヘス本官ノ然カク嘆息ス
ルハ華族ノ衰運ニ屬スルト其國體ニ關係ヲ及ホスヲ嘆息スルニ非
ス唯此ノ如ク華族ノ財產ヲ保護ス可キ完美ナル法律ノ消滅ニ歸シ
ルヲ嘆息スルナリ又其廢棄論タル各自ニ理由ヲ異ニシ十一番議官
ノ如キハ廢案説ヲ助クル如ク或ハ否ラサル如ク結局只華族ノ爲メ
ニ惜ムト云フニ止マル其惜ムト云ヘル一點ニ至テハ本官ト雖モ同
感ニシテ本案ノ不要ニ屬スルヲ望マサルニ非サルモ奈何セン今日
ノ景況決シテ然スル能ハサルヲ譬ヘハ人身ニ病ヒ有リテ醫ヲ延キ
療治スルカ如シ華族ニシテ往々ニ破產スル有ルハ是レ人身ニ病ヒ
有ルニ同シ本案ハ即チ破產ヲ防クノ醫師ナリ今此ニ病者ノ在ル有
リテ之ヲ救フ可キ方途アルニ之ヲ救ハサレハ人將タ之ヲ何トカ言
ハン假令手足ヲ切斷スルモ其生命ハ救ハサル可ラス即チ縱令此法

案ハ華族ノ體面ヲ虧損スルモ其財産ノ蕩失ヲ防クニハ必ス之レ無カル可ラス六十二番ハ宜ク省令ヲ以テシ若クハ宮内省ノ特法ヲ以テスヘシト云フモ質入書入等ノ關係アレハ必ス布告ヲ以テシテ人民ニ明示セサル可ラス思フニ六十二番ノ説ハ廢案説ニ非スシテ寧ロ修正説ト言ハンノミ九番ハ本案ヲ不公平ナル者ナリト云フモ未タ其不公平ナル理由ヲ明言セス四十八番ハ財産ノ保護ハ人民一般ニ及ホス可シト云フ此點ハ内閣委員モ先ツ近ク華族ニ施コレ漸ク以テ人民ニ及ホサントスル旨趣ナリト云ヘリ且ヤ今日ハ學習院華族局等ノ設ケ有リテ華族ト人民トノ間ニハ自ラ界域ヲ存ス故ニ今其財産ノ保護ニ先後ヲ異ニスルハ決シテ不公平ニ非ス却テ自ラ公平ノ旨ニ合スルナリ

○十一番（伊丹重賢）只今二十二番ハ本官ノ廢案説ハ賛成ト頗スト云ヘリ是レ一辨セサル可ラス本官ノ廢案説ヲ持スル主眠タル理由ハ華族

ノ獨立心ヲ失フト歐洲貴族ノ事蹟ヲ擧ルトノ二點ニ在リ且此法案ヲ施行スルハ啻ニ華族ノ體面ノ為メニ惜ムノミナラス華族中ニ於テモ彼ヲ庇ヒ此ヲ遺スノ偏頗ヲ致スヲ以テ其廢棄ス可キヲ主張セシナリ然ルニ二十二番ハ單ニ華族ノ為メニ惜ムト云ヘル一點ノミヲ擧ケテ之ヲ言ヘルハ何リヤ即チ其華族ノ為メニ惜ムト云ヘルハ華族ハ素ヨリ國家ノ干城ト為ル可キ地位ニ立ツ者ナルニ此保護法ノ一タヒ出ルヤ人民ハ華族ヲ視テ自家ノ財産ヲモ保守スル能ハサル者ト為シ之ヲ輕侮センコトヲ惜ムニ外ナラス不幸ニシテ華族ノ家ニ庸妄暗愚ノ子孫ヲ出シ恩賜ノ財物ヲ失フ如キ有ラハ是レ天ノ其家ヲ亡ホスノミ宜ク之ニ換フルニ勲功ニ取ル新華族ヲ以テスヘキヲ云ヘルナリ決シテ本案ヲ賛成スルニ非ス内閣委員ハ本案ヲ以テ疾病ヲ未然ニ豫防スル者ナリト云ヒタルニ二十二番ハ現今既ニ衰病ニ迫レル者アレハ急ニ之ヲ救フノ方法ヲ施ササル可ラストス

ル喩言ヲ用ヰタリ是レ本官ノ取ラサル所トス且ヤ明治十年ニ於テ華族ニ農工商ノ營業ヲ公許セル以上ハ決シテ此ノ如キ特別法ノ保護ヲ與フルヲ要セス二十二番ノ言ニ依レハ本官ハ前後不整ノ説ヲ為セン如キ感ヲ來タシ甚タ面目ヲ失スルヲ以テ一言之ヲ辨解ス

○二十九番 橋口 尊三　本官ハ現問題ヲ非視ス抑モ華族ハ皇室ノ藩屏四民ノ師表トシテ邦國ノ尊嚴ヲ維持スル者ナリ然ルニ華族ニモ失德ノ人ナキニ非ス數年前某華族ノ詐偽取財ノ事犯ヲ以テ告訴セラレ法廷ニ出テ鞫訊ヲ受クルヲ目擊シ實ニ腸ヲ斷ツノ思ヒヲ為セリ皇室ノ藩屏四民ノ師表ト頼ム可キ華族ニシテ斯ル失德ノ人ヲ生ス豈痛嘆セサルヲ得ンヤ畢竟奸點者ノ為メニ欺瞞セラレテ家產ヲ蕩盡シ糊口ニ窮スルヨリ此ニ至リシナラン近時ハ學習院華族女學校等ノ設ケ有リテ華族ニモ教育方法ノ備ハラサルニ非サルモ夫ノ恒產ナキ者ハ恒心ナキノ理ナレハ其財產ヲ保護スルハ緊要ナリト謂フ可

シ嚮ニ我カ政府ハ國家ノ柱石タル功臣ヲ華族ト為シ將ニ皇室ヨリ金ヲ賜ヘリト聞ク此等モ永久ニ保存セサル可ラス論者ハ本案ヲ持シテ偏頗ノ法律ト云ヒ又民法ヲ傷フクルト云ヒ以テ之ヲ痛駁スルモ前陳ノ如ク皇室ノ藩屏四民ノ師表タル華族ニシテ見ニ國法ニ觸ルル者アルヲ聞見ス他日又斯ル輩ヲ生スル無キヲ保ツ能ハサレハ何ヲ苦ミテカ之ヲ救ハサラン本官ハ海外各國ノ情況ニ通セサレトモ之ヲ聞ク萬世一系ノ天子ヲ戴クハ獨リ吾カ皇國ノミニテ是レ上ニハ華族ノ聖天子ヲ輔翼スル有リ下ニハ三千七百萬人民ノ赤心報國ノ志氣ニ富メルノ致ス所ナリ此ノ如ク尊重ス可キ華族ニシテ國法ニ觸レ法廷ニ告訴セラルル有ンニハ必スヤ果リモ聖天子ノ宸襟ヲ惱マサセタマフナル可シ故ニ今之カ保護法ヲ設クルニ於テ何ノ罪悪スルコトカ之レ有ラン是ヲ以テ本官ハ斷然現問題ヲ非視スルナリ

○六十二番 清岡公張　内閣委員ノ駁論ヲ聽クモ本官ハ未タ之ニ從フ能ハス説ノ如ク宮内省ノ特法ト為スハ或ハ非ナルモ内閣總理大臣ヨリ人民ニ周知セシム可キ方法ヲ以テセハ則チ可ナラン且試ミヽ其公布文案ヲ陳ンニ曰ク今般華族世襲財産ヲ設ケラレ華族財産ノ中不動産及ヒ政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券ヲ以テ之ニ充テ右地券并株券ニ其旨ヲ記載シ置クヘキニ付其財産ニ限リ賣買讓與又ハ質入書入ト為スコトヲ禁スト但シ個ハ是レ腹稿ニ過キサレハ固ヨリ未タ完全ナラサルモ先ツ斯ル公布ヲ為シ宮内大臣ト華族ト特約スル規則ヲ設ケ以テ世襲財産ノ制限ヲ定メハ庶幾クハ穩當ナラン且ヤ本案ハ世襲財産ノ最下點ナル制限ヲ示セルモ此ノ如キハ兼併ノ弊害ヲ生シ再ヒ封建ニ類スル形勢ヲ成ス無キヲ保タス故ニ本官ハ最上點ノ制限ヲ併セテ之ヲ示ササル可ラスト信ス他ハ已ニ前辨ニ盡クセルヲ以

テ復タ贅セス

○五番 三浦安　發案説ノ勢力漸ク熾ンニシテ其論旨ハ種々ニ岐ルモ結局華族ハ新陳代謝スルヲ善シトス故ニ其自為ニ委ス可シト云フニ存ス然リ而モ華族ニ保護ヲ加フ可キ理由ハ内閣委員ノ辨明セル所ノ如シ反對論者ハ外國ノ事例ヲ援ケルモ彼我建國ノ成立ヲ異ニシ人情モ亦同シカラス故ニ其事例ノ如何ハ必シモ之ヲ問フヲ要セス請フ看ヨ本邦今日ノ華族タル舊堂上ハ直接ニ聖天子ニ奉仕シ舊大名ハ幕府ノ管轄ニ屬セレモ位階ハ朝廷ノ賜フ所ニ係リ其封土ノ人民ヲ撫育センハ皆是レ聖天子ニ代リテ王土王民ヲ牧治シタルナリ且ヤ諸侯ノ版籍ヲ奉還セシハ藩士ノ之ヲ勸告シタルニ由ルト雖モ亦是レ大政維新ノ勲功ト謂ハサル可ラス嘗テ原封現石高ノ十分一ヲ之ニ賜ハリシハ蓋シ此勲功ニ報ユルナリ其他神官僧侶功臣等ノ華族ニ列セシ者タルモ此等ハ僅々ノミ夫レ三百有余家ノ華族ヤ今

日見ニ官職アル者ハ格利ニ屬シ侯伯等ノ爵ヲ受ル者ハ概シテ自ラ家計ヲ料理スルノ才識ニ乏シ是レ蓋シ累世ノ慣習ニテ自然ニ此ニ至レル者ナレハ敢テ咎ムヘキニ非ス今此名族舊家ニシテ頻々ニ產ヲ破リ家ヲ亡ス有ルハ豈惜マサル可ンヤ本官ハ數年前ニ於テ之ヲ保護ヲ加フルノ必要ナルヲ論セリ思フニ嘗テ金録ヲ下付セル際ニ於テ其保護法ヲ設ク可カリシモ當時ハ一ニ舊君臣ノ間ヲ疎隔セントスル政畧ニ傾ケルヲ以テ已ムヲ得サリシナリ其レ然リ今此保護法ヲ設ルハ既ニ晩キモ尚ホ止ムニ優レリ蓋シ本案ハ功勞ヲ重シ秩序ヲ維持スル一方法ナレハナリ反對論者ハ獨リ華族ノ財產ノミヲ保護スルハ公平ヲ失スト云ヒ又外國ニ其例ヲ見スト云フモ原來社會ハ公平ヲ失スル者少ナカラス凡テ其公均平等ナルヲ欲セハ國家ノ秩序モ成立セサラン彼ノ十分一ノ金録ヲ華族ニ賜ヘルモ亦公平ヲ失スト謂フ可ラサルニ非サラン然ルニ第一讀會ニモ陳タル如ク全國

人民皆之ヲ怨ミ之ヲ怒ラス却テ政府ノ華族ヲ待ツノ甚タ厚キヲ喜ヘリ然レハ則チ今其自爲ニ委シテ破產スルヲ惜マンヨリハ宜ク今日ニ之ヲ保護シ以テ永ク其體面ヲ失ハサラシメンコトヲ期スヘシ外國ニ類例ヲ見サルモ何ソ憚ラン又今日華族ニシテ其財產ヲ保有スルハ故岩倉公ノ華族ヲ勸誘シテ第十五國立銀行ヲ創設シタル一事與リテ力有リ然ルニ國立銀行ニハ營業期限ノ在ル有リ異日滿期ニ至リ資本金ノ還付ヲ受ケハ之ヲ如何スル乎此法律ニ據リ之ヲ第一類ノ財產ニ換フルカ如クンハ故岩倉公ノ厚意モ貫徹スルヲ得ン本案ハ決シテ條理ノ一偏ニ據リテ論ス可キニ非ス況シテ斯ル法律ハ獨逸聯邦中「バヽリヤ」國ヽモ之レ有リト聞クヲヤ又六十二番ノ法律ノ體面ニ關スル論辨ヲ聞クモ人民一般ニ周知セレハルニハ必ス法律ヲ以テセサル可ラス又五百圓以下ノ收益ヲ有スル華族ハ世襲財產ヲ創設スルヲ得ストノ駁論アルモ黽勉節儉ヲ守レハ異日ニ創

設スルヲ得ン之ニ反シテ若シ其制限ヲ低ウセハ多クハ華族ノ體面ヲ保持スル能ハサルヲ致サン要スルニ純然タル廢案説ヲ立ルハ二三ノ論者ニ止マリ他ノ論者ノ言フ所ハ大抵本案ニ近キヲ以テ若シ再考ヲ加ヘハ反對者ト雖モ或ハ修正ヲ加ヘテ足レリト為スニ至ルヤヲ知ル可ラス本官ハ切ニ本案ノ行ハレンコトヲ望ム

○議長　發議既ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ン二十三番ノ廢案説ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長　少數ナルヲ以テ二十三番ノ廢案説ハ消滅ス

○二十二番（柴原和）　廢案説ノ消滅セルハ本官ノ大ニ滿足スル所ナリ然ルニ前キニ四十八番ノ本案ニ對シテ不備不明若クハ前後矛盾セル等ノ條項ヲ指摘シタルヲ聽クニ或ハ其説ノ當レルヲ感スル有リ内閣委員モ修正ヲ加フルヲ無用視セサルカ如シ斯ル法案ヲ逐條ニ審議シ以テ修正説ヲ提出スルトキハ恐クハ議場ノ紛雜ヲ免レサラントス因テ本官ハ全部付託修正委員ヲ設ルヲ善シトス第一讀會ニ五番ノ全部付託諮査委員ヲ置ントスル建議ニ同意セサリシハ要用ナラスト為スニ由レリ思フニ廢案論者ハ修正ニ同意セサル可キモ務メテ本案ノ完備ナルヲ欲スルヲ以テ幸ニ此建議ノ行ハレンコトヲ望ム

退席　八番　安藤則命

同　十八番　宮本小一

同　四十四番　楫取素彦

○五番（三浦安）　二十二番ノ建議ヲ贊成ス本案ニ據テ討論セハ逐條ニ議論ノ紛失スルヲ恐ルレハナリ

○十一番（伊丹重賢）　本官モ二十二番ニ同意ス前會ニ於テ五番ノ建議ニ同意セサリシハ廢案ヲ欲シタルニ由レリ、

○四十一番 渡邊清 本案モ二十二番ニ同意ス大ナル修正ヲ加フルヲ要セサルモ修正案ニ依リ之ヲ議スルヲ便ナリトス

○議長 二十二番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十一人

○議長 多數ナルヲ以テ二十二番ノ建議ニ決ス委員ノ選擧ニ關シテハ建議者ノ別ニ陳述セル無キニ因リ本席ニ於テ選擧セン即チ五番三浦安 十二番長岡護美 二十二番柴原和 四十八番村田保 六十七番原田一道ヲ以テ全部付託修正委員ト爲ス其修正ノ報告ヲ俟チテ第二讀會ノ續會ヲ開カン本日ハ散會セヨ

午後第三時二十五分閉場

元老院會議筆記 明治十九年四月十九日 禁傍聽

○第五百八號議案 華族世襲財産法 第二讀會 四月八日ノ續會

議長 大木喬任

出席議官

一番 田中芳男
二番 小畑美稻
三番 長松軫
四番 久我通久
五番 三浦安
八番 安藤則命
十番 大給恒
十一番 伊丹重賢
十二番 長岡護美

十三番　石田　英吉
十七番　東久世通禧
十八番　宮本　小一
十九番　楠本　正隆
二十番　大久保一翁
二十一番　林　友幸
二十二番　柴原　和
二十四番　何　禮之
二十五番　横村　正直
二十七番　福原　實
二十八番　津田　眞道
二十九番　橋口　兼三
三十一番　鍋島　幹

三十四番　西村　貞陽
三十五番　永山　盛輝
三十六番　西　周
三十七番　岩村　定高
三十八番　壬生　基修
三十九番　町田　久成
四十番　中村　正直
四十一番　渡邊　清
四十二番　楫取　素彦
四十三番　上杉　茂寛
四十六番　本田　親雄
四十八番　村田　保
四十九番　神山　郡廉

五十番　河田景與
五十二番　野村素介
五十三番　肆田出
五十四番　由利公正
五十五番　中島錫胤
五十六番　福羽美靜
五十七番　山口尚芳
五十八番　矢戸識
六十五番　中村弘毅
六十七番　原田一道
六十九番　大迫貞清
七十一番　伊東祐磨
七十二番　加藤弘之

番外
毛番　法制局參事官岩崎小二郎
七十三番　安田定則
七十四番　調所廣丈
七十五番　長谷部辰連

○議長　本日ハ第五百八號議案第二讀會ノ續會ヲ開ク修正案ハ過日已ニ各位ニ頒付シタレハ定メテ了知セシナリ可シ

○二十二番　柴原和　第二讀會ノ初メニ當リ原案ニ對シテ廢棄説ノ出タルハ各官ノ知ル所ナルモ其際ニ關席セシ議官ノ參考ノ爲メニ前會ノ景況ヲ畧述セン爾時廢案説ハ頗ル議場ニ勢力ヲ得タリシモ取決ニ迄ヒ同意者ノ小數ナルヲ以テ消滅セリ然ルニ原案ノ各條項ヲ通覽スルニ妥穏ヲ欠ケル者僅マ多キヲ以テ本官ハ更ニ全部付託修正委員ヲ置キ十分ニ審査ヲ加ヘンコトヲ建議センニ単ニ議場ノ容ル

ル所ト為リ本官誤リテ委員ノ一人ニ選ハレタリ今ヤ議長ハ原案修正案其執レヲ本案ト為スヤヲ議場ニ問フナル可ケレハ之ニ先タチテ修正ノ理由ヲ陳辨ス修正案ハ原案ト旨趣ヲ異ニスル無シ原案第五條ノ「家屋」トハ現ニ住居スル家屋ヲ指スニ似タルモ内閣委員ノ説明ヲ聽テハ決シテ住居ノ家屋ニ非ス又貸屋貸庫ノ如キ收益アル者ヲ謂フニ非ス即チ世襲ス可キ建物ヲ謂フト云ヘリ故ニ混視セサラシムル為メニ改メテ建物ト為セリ且「但其收益」以下ノ二十五字ヲ置クトキハ其建物ハ貸庫貸長屋ヲ謂フナルヤノ疑ヒ有リ故ニ之ヲ削除ス第六條ノ負債義務トハ文字ノ如ク讀下スレハ或ハ負債ヲ為ス義務トモ解ス可ク又負債ト義務トヲ分斷スレハ意義通セス内閣委員ノ説明ニ依レハ「關係」トハ本人又ハ保證人ヲ總括セルノ意ニシテ負債義務トハ本人及ヒ保證人ノ義務ヲ指ストヽフモ其文意明瞭ナラス故ニ改メテ負債償却ノ義務ト為シ以テ原案ノ旨趣ヲ明

瞭ナラシム第七條ノ「許可」ヲ認可ト改メン八第十九條ノ例ニ依ヒ其意ヲ輕クセリ「增殖」ヲ增加ト改メシハ或ハ商業等ニ因リテ增殖スルヤノ嫌ヒ有レハナリ第八條ノ「許可」ヲ認可ト為セシ理由ハ第七條ニ同シ「ト雖モ」ヲ但ト改メシハ「ト雖モ」ノ文字ハ既成ノ法律用例稀ナルヲ以テ此ノ如ク修正シ以テ法文ノ體裁ヲ得セシム第十條ノ「更ニ他」ト言ヘルハ第一類第二類ノ外ナル他ノ財産ヲ以テ補充スルヤノ疑ヒ有リ然ルニ原案ノ本意ハ第一類第二類ノ財産ヲ指スニ在レハ朱書ノ如ク修正シテ以テ之ヲ明白ニセリ第十一條ノ「ト雖モ」ヲ但ト改メシ理由ハ第七條ニ同シ第十四條ハ大ヒニ原案ヲ修改セリ第一讀會ニ於テ某議官モ論セシ如ク「國税地方税」云々ヲ擧ルトキハ他猶ホ刑事賠償及ヒ徵發令供給等其數内ニ在ラサル者間々多シ然ルニ一一之ヲ加ヘハ文字冗長ニ渉ルノ恐レ有リ又若シ之ヲ加ヘサレハ法律ニ遺漏ヲ致スノ恐レ有リ因テ討議ヲ經テ單

ニ民事ニ關スル者ヲ擧ク可シト為シ以テ朱書ノ如ク修正セリ且此修正文ハ明治五年ニ頒下シタル身代限規則ノ文字ニ倣ヘルナリ第十五條ノ「家督相續スヘキ男子ナキトキ」云フハ前會ニモ一二議官ノ質問セル者ニシテ是レ戸主死亡後タルハ疑ヒ無キヲ以テ朱書ノ如ク修正セリ爵ヲ奪ハレ云云ヲ別項ト為セシハ彼此ノ事項ニ差異アルヲ以テ明カニ之ヲ分劃セシナリ第十六條ノ及ヒ附屬物ノ五字ヲ加ヘシハ若シ之レ無ケレハ附屬物ハ所有者ニ於テ廢止スルヲ得ルヤノ疑ヒ有レハナリ第十九條ノ「增殖」ヲ增加ト改メシ理由ハ第七條ニ同シ第二十條ノ「府縣廳」ト言ヘルハ北海道廳ヲ包含セサルヤニ疑ハシ見ニ華族ニシテ北海道ニ土地ヲ所有セル者アルヲ以テ北海道廳ヲモ加ヘサル可ラス然レトモ北海道廳府縣廳ト言ヘハ文字煩冗ナルカ故ニ地方廳ト為シテ全體ヲ包括セシメリ其他條ニ於ル亦同シ第二十條ノ「但」ノ字ヲ削リ「世襲」云云以下ヲ別項ト為

センハ其文例ニ於テ冒頭ノ宮内大臣ヲ承クルト看レハ公告セシムヘシト為ササルヲ得ス而シテ然スルトキハ意義ニ支障ヲ生スレハナリ第二十一條ノ「根帳」ノ文字ハ他ニ用例ヲ見ス故ニ帳簿ト為シテ其意義ヲ廣メリ第二十二條ノ世襲財産其効力ヲ失ヘル時ニ公告スルコトハ之ヲ明示セルモ附屬物ノ公告ヲ為スコトヲ言ハス然ルニ附屬物ノ公告ハ實際華族局ヨリ公告セシムルヲ以テ別項ト為シテ明揭セリ然ルニ此別項ノ第二十條ト事異ニシテ文同シキハ少シク體裁ヲ失スル如キモ此レ無ケレハ缺漏ヲ致スヲ免レス故ニ寧ロ此ノ如ク修正スルヲ穩當ナリト為セルナリ第二十三條ノ「創設者」トハ創設セント欲スル者ト云フノ意ニシテ即チ所有者ナリ本官等初メハ創設者所有者ノ文字ヲ以テ冗贅ナリト為セシモ深ク之ヲ考フルニ世襲財産ノ創設ヲ出願スルニ當リ人民ノ故障ヲ申告スルトキハ其公告費用ヲ辨納スル者ナカル可シ所有者ノ文字ハ實際上之

レ有ルヲ善シトス故ニ朱書ノ如ク修正セリ第二十四條ノ「許可」ヲ
認可ト改メシ理由ハ第七條第八條ニ同シ本官等ノ修正ヲ加ヘタル
理由此ノ如シ尚ホ遺漏セル有ラハ各議官ノ補充スルヲ望シ并セテ
修正案ヲ以テ本案ト為シテ議定センコトヲ欲ス

出席　六十二者　清岡　公張

○議長　只今修正委員ヨリ修正ノ理由ヲ述ヘリ即チ原案修正案其孰
レヲ本案ト為シテ議スヘキヤヲ議場ニ問ハン修正案ヲ以テ本案ト
為スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十九人

○議長　多數ナルヲ以テ修正案ヲ本案ト為ス

書記官　森山茂　朗讀

華族世襲財産法

第一條　華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財産ヲ創設

スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルト
キハ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得

○十番大恒　本官ハ第一讀會第二讀會共ニ缺席セシヲ以テ意見ヲ陳
述スルヲ得ス今ヤ第二讀會ノ續會タルモ先例ノ在ル有ルニ因リ本
案ノ大體ニ對スル意見ヲ陳述セン本官ノ意見ハ此保護法ヲ法律ト
為サス行政處分ニ付セント欲マルニ存ス蓋シ本案ヲ以テ名門右族
ヲ保護スル旨趣ハ善美ナラサルニ非サレトモ其保護ヲ與フルハ出
願者ニ限ルヲ以テ恐クハ十分ノ効用ヲ收ムル能ハサル可シ思フニ
華族ハ維新ノ改革ニ因リテ其家計ヲ誤マリ醜狀ヲ露ハセシ者無キ
ニ非サルモ今日既ニ新制度ニ慣レタレハ將來ニ在テハ破産者ノ斬
ク減少スルニ至ラン且ヤ見今纔カニ家計ヲ維持スル者ノ如キハ後
日或ハ破産ヲ招クヤヲ知ラサルモ家計既ニ整頓セル者ニ至テハ官
府ノ保護ヲ待タサルモ決シテ蕩産ノ憂ヒ無カル可シ政府徒令保護

ヲ要スト為スモ宜ク法律ヲ以テセス省命ヲ以テシテ行政處分ニ委スヘシ況シテ本案ハ其効力ノ甚タ薄弱ナル者ナレハ寧ロ省命ト為シテ適宜ノ處分ヲ施シ以テ十分ニ効力ヲ有セシムルヲ得策ト為スヤ故ニ保護ノ一點ニハ敢テ異論ヲ抱カサルモ法律ト為シテ發布スルニハ同意スル能ハス因テ本案ハ内閣ニ還上センコトヲ望ム蓋シ本案ハ人民ニ關係スル有ルヲ以テ法律ト為スヲ要スルナランモ省令ヲ以テシテ十分ニ其關係ヲ制スルヲ得ン思フニ本案ノ如クナレハ華族ノ大家ニシテ既ニ已ニ家計ノ整頓シ自立ノ氣象ヲ懷ク者ハ敢テ出願セサル可ク而シテ其小家ニシテ此保護ヲ要スル者ノ如キハ純收益五百圓以上ノ制限ニ羈絆セラレテ出願スルヲ得ス且ヤ其負債ノ抵償ト為ス可キハ純收益ノ三分ノ一ニ限ルヲ以テ假令已ムヲ得サル費用ノ生スルモ此制限ニ束縛セラレ而シテ若シ之ヲ犯セハ世襲財産ノ効力ヲ失フ然ラハ則チ此保護法タル小家ニ有益ナ

リト雖モ恐クハ出願スルヲ憚リ而シテ大家ハ敢テ保護ヲ受サラン故ニ此保護法ハ寧ロ行政規則ト為シ適宜ノ處分ヲ施スヘキナリ且ヤ我邦ノ國體上ヨリ之ヲ考フルニ名門舊族ヲ保護スルハ本官ノ最モ賛成スル所ナルモ體面事實共ニ法律ト為サスシテ行政處分ニ付スルヲ善シトス

○十七番 東久世通禧 十番ノ發言タル旨趣ハ異ナレトモ其歸着スル所ハ廢案説ナリ已ニ一タヒ本會ノ初メニ廢案説ノ消滅シタレハ十番ノ發言ハ其時機ヲ失スル者ト信ス

○十番 大給恒 本官ハ廢案説ハ第一讀會ニ出テレト聞ケリ

○議長 然ラス本會ノ初メニ消滅セシナリ

○十番 大給恒 然ルトキハ本官ノ誤認ニ因テ發言セシナレハ只今ノ發言ハ大體論ニ止メ廢案説ハ第二讀會ニ提出セン

○議長 他ニ發議ナクハ本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官森山茂　朗讀

第二條　世襲財産ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス

議長　本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官森山茂　朗讀

第三條　世襲財産ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ世襲財産ト爲スコトヲ得

第一類　田畑山林宅地鹽田牧場池沼等

第二類　政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官森山茂　朗讀

第四條　世襲財産ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額毎年

金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産タルヘシ但其財産中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ

○三十八番壬生基修　本官ハ前キニ聊カ修正ヲ加ヘントス欲セシモ修正委員ノ修正ニ因リ完全無缺ナルヲ得ス復タ喙ノ容ル可キ無シ然レトモ本條ニ對シテ少シク修正ヲ試ミントス即チ「五百圓」ノ文字ヲ「千圓」ト改ムル是レナリ嘗テ内閣委員モ云ヒシ如ク五百圓ノ純收益ヲ一年十二月ニ分配スレハ一月僅カニ五十圓ニモ滿タサル少額ナリ配ニ本案ヲ以テ法律ト爲シ全國ニ發布スレハ必ス外國人ノ見ル所ト爲リ以テ其嘲笑ヲ受ルヤ必セリ是レ大ヒニ國體ニ關係ス故ニ此制限額ヲ上セテ千圓ト爲スヲ可トス試ミニ第十五國立銀行ノ株券ヲ以テ之ヲ算センニ一年間ニ五百圓ノ純收益ヲ得ル八四十二株ヲ有セル者ナリ然ルニ若シ四十一株ヲ有セル者ノ如キハ唯僅ニ一株ノ差異ニ因テ本案ノ恩典ニ與カルヲ得ス而シテ其恩典ニ與カラサ

ル者ハ現ニ五十余人ノ多キ有リ今改メテ千圓ト為セハ八十四株ヲ有スル者ノミニ限リ是レヨリ以下ハ恩典ニ與カルヲ得サレトモ既ニ五百圓ト為スモ恩典ニ漏ルル者ヲ生スレハ寧ロ千圓ト為シテ體面ヲ護スルニ如カス然リ而レテ千圓ト為セハ此制限以外ニ在ル者ハ百五十人ノ多キニ至ルヲ以テ此等ハ宜ク別ニ保護ノ方法ヲ設クヘキノミ

○議長　三十八番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナシハ本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第五條　世襲財産ノ所有者ハ特ニ世襲又ハ家屋庭園圖書寶器等ヲ以テ世襲財産附屬物ト為スコトヲ得但其收益ヲ以テ第四條ノ制限額ニ算入スルコトヲ許ス

○議長　本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第六條　負債義務ニ關係アル財産ハ世襲財産及ヒ附屬物ト為スコトヲ得ス

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第七條　世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ其財産ヲ增殖スルコトヲ得

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第八條　世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ノ財産ト為スコトヲ得但第一類ヲ第二類ト為スコトヲ得ス

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂　朗讀

第九條　第一類ノ財産若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減レタルトキハ五個年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシ

○十一番 伊丹重賢　本條ニ關シ内閣委員又ハ修正委員ニ質問ス本條ノ「災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減シタル」トハ田畑等ノ傷損ヲ受ケシヲ謂フナラン此際ハ宮内大臣ニ届出ルヲ要セサルヤ若シ届出ルヲ要セスト為セハ其減額ノ幾許ナルヲ知ルヲ得サラン既ニ其缺額ヲ補充スルニ五個年ノ制限ヲ立ル以上ハ届出ヲ為サシメサレハ或ハ遺漏ヲ生スル無キヲ保セス何如ン

○番外 一番 岩崎小二郎　疑問ニ答ヘン　沙入川成等ニ因テ田畑ニ災害ヲ受ケ財産ヲ減シタル如キハ別ニ細則ニ於テ届出ヲ為サシムル順叙ヲ定メントス是レ取扱上ノ事項ニ屬スルヲ以テ法律文ニ掲ケス細則ニ於テ之ヲ提轄スルナリ

○十一番 伊丹重賢　細則ニ於テ提轄スレハ支障スル無カル可キモ届出ヲ為サシハル一事ハ「五個年」ナル制限ノ計算ニモ必要ナリト信ス故ニ本條ニ届出ノ文字ヲ加ヘン即チ其修正文案ハ本條ノ「減シタルトキ」ノ下ニ其減額ノ理由ヲ宮内大臣ニ届出ノ十四字ヲ挿入シテ「五箇年」ノ文字ニ接續センムル是レナリ此修正文字ハ中山道鐵道公債證書條例金札引換無記名公債證書條例ニ「證書ヲ亡失セシトキハ云々大藏省ニ届出ヘシ」ト言ヘルニ倣フナリ此修正説幸ニ成立スルヲ得ハ第十條ニモ略ホ同一ナル修正ヲ加ヘントス

○四十一番 淺邊清　十一番ノ修正説ヲ賛成ス細則ニ於テ提轄スルヨリモ寧ロ本案ニ明ホスルニ加カス

○議長　十一番ノ動議ハ賛成者アリ問題ト為ス

○二十二番 柴原和　只今十一番ハ第九條ニ關シテ内閣委員ニ質問シ内閣委員ハ細則ヲ以テ提轄スト答ヘシニ十一番ハ法律上ニ其明文ヲ

掲示スルヲ可トシ其修正説ハ既ニ議場ヲ問題ト為シリ因テ本官等ノ修正委員長ニ於テ討議セシ所ヲ述ヘ以テ各官ノ参考ニ供セン元來第九條ト第十條トハ彼此權衡ヲ失セリ顧フニ第一類ハ重クシテ第二類ハ軽クシテ第九條ハ第一類即チ土地ニシテ是レ重キ者ナレハ五箇年ヲ待タス速カニ補充セシム可キニ第一類ハ五箇年ノ延期ヲ許シ而シテ第十條ハ第二類即チ公債證書及ヒ株券ニシテ是レ軽キ者ナルニ反テ速カニ補充セシムルハ寧ロ彼此ノ軽重ニ於テ權衡ヲ失フ無キヲ得ンヤ故ニ若シ災害等ニ因テ減額ヲ数ス有レハ宮内大臣ハ直ニ第二類ヲ以テ第一類ヲ補充セシムルナランカト思考セリ然ルニ田地ノ砂入等ハ回復スルヲ得ルモ川成海成ノ如キハ永ク回復スルヲ得ス故ニ田畑山林等ニ災害ヲ受ルトキハ直ニ回復スルニ難ケレハ勢ヒ其年期ヲ延期セサルヲ得ス之ニ反シテ第十條ハ元金ノ在ル有レハ何時ニテモ速カニ補充スルヲ得ルナリ故ニ軽重

ノ點ヨリ之ヲ言ヘハ少シトモ權衡ヲ失スルモ寧ロ原案ヲ可トスルニ決セシナリ且夫レ第九條ハ災害ノ多少ニ因テ其減額ヲ補充スル能ハサル無キヲ得ス本文ヲ直解スレハ五百圓ノ最下限ニ標準ヲ取リ只此五百圓ノ額内ヨリ欠損ヲ生スル時ノミ屈出ヲ為スヤノ嫌ヒ有リ故ニ此件ハ細則ニ於テ提轄スルヲ善シトス今若シ本條ニ屈出ヲ要スト為セハ其減額ノ五百圓以下ニ至ラサルトキハ屈出ヲ為サスシテ可ナル者ト為ルナリ顧フニ第一類第二類ノ財産ハ素ヨリ臺帳ニ記入セルヲ以テ實際必ス屈出ヲ為ス者トス故ニ法文ニ明掲スルヲ要セサルナリ問題説ノ消滅ニ歸セシコトヲ企望ス

○十一番（伊丹重賢）修正委員ハ本條ニ屈出ノ文字ヲ添フルトキハ五百圓ノ制限額ヨリ減シタル時ノミ屈出ヲ為スヤノ嫌ヒ有リト云フ是レ蓋シ十分ニ調査研究シタルナル可シ然レトモ屈出ハ即チ第四條ノ制限額ヨリ減少シタル時ヲ緊要ト為シ制限額以上ニ於テ欠損ヲ生

スル有ルモ屈出ヲ為スヲ要セス且ヤ補充ト言ヘルヲ以テ之ヲ考フルモ制限額ヨリ減少シタル時ヲ謂フヤ知ル可シ修正委員ニシテ強テ本宮ノ修正ヲ拒マサレハ屈出ノ文字ヲ添フルヲ善シトス

○四十一番 渡邊清 只今修正委員ノ辨明ハ其意ヲ解セス元来此制限額ハ貸借等ニ重要ノ關係ヲ有ス況ンヤ宮内省ノ帳簿ニ登録スルヲヤ華族ノ其財産ヲ隠蔽スル如キハ決シテ之レ無カル可キモ制限額ヨリ減少セシトキハ必ス之ヲ補充セシムルヲ要ス細則ニ於テ提轄スト云フモ細則ハ其効力甚タ薄シ若シ法文ニ屈出ノ文字ヲ明揭セサレハ或ハ屈出ヲ為ササルモ補充スレハ足ル如キノ嫌ヒ有リ後來ノ紛雜ヲ防カンニハ本案ニ明示スルヲ可トス

○議長 十一番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ナルヲ以テ十一番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナシハ本

條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十條 第二類ノ財産其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ更ニ他ノ財産ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第一類又ハ第二類

○二十九番 橋口兼三 原案ニハ「更ニ他ノ財産ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ」ト言ヒ而シテ修正案ニハ「第一類又ハ第二類ノ財産」云々ト言フ本宮ハ共ニ其意ヲ解スルニ苦シム思フニ世襲財産ハ第一類第二類ノ財産ニ非サル他ノ財産ヲ以テ補充スルヲ得スト為スハ抑モ何如ナル理由ニ出ルヤ

○五番 三浦安 是レ本案第三條ヲ觀ハ自ラ氷釋スルヲ得ン元來世襲財産ハ第一類第二類ニ限レルニ若シ「他ノ財産」ト言フトキハ第一第二類ノ外ナル他ノ財産ヲ以テスルノ嫌ヒ有リ故ニ此ノ如ク修正セシナリ

○二十九番 橋口兼三　本官ハ第三條ニ熟覧スルモ尚ホ理會スル能ハス因テ本條ヲ修正シテ一箇年以内ニ其残額ヲ補充スヘシト為シ原案ノ「更ニ他ノ財産ヲ以テ」ノ文字モ修正案ノ「第一類又ハ第二類」ノ文字モ共ニ削除セントス若シ本條ニ「第一類第二類」ノ文字ヲ置ケハ第九條ノ「五個年以内ニ」ノ下ニモ「第一類第二類」ノ文字ヲ入ル可トコロ似タリ故ニ寧ロ此ノ如ク修正シテ前後ノ文例ヲ一定ニ歸セシムルヲ要ス

○三十一番 鍋島幹　二十九番ヲ賛成ス但其残額ト云ヒシハ畢竟言ノ誤リニシテ原案ノ如ク其缺額ト為セル者ト認メテ之ヲ賛成ス朱書ノ修正ハ修正委員ノ解明セル有ルモ「其缺額」ト言ヘル「其」ノ字ヲ考究スレハ朱書ハ無用ナルヲ知ル可ク縱令何等ノ財産ヲ以テスルモ「其」即チ第二類ノ元額ヲ補充セハ可ナルノミ

○十七番 東久世通禧　本官モ二十九番ヲ賛成ス第十條ハ第二類ノ財産ヲ

補充スルナレハ第一類第二類ノ文字ヲ加ヘサルヲ善シトス

○番外 一番 岩崎小二郎　二十九番議席ノ熱心ニ此世襲財産法ヲ維持スルハ本員ノ感服スル所ナリ只今ノ發議ニ因テ更ニ一層ノ感覺ヲ與フル有リ原案ハ起草ノ際ニ最モ注意シ種々ノ討議ヲ經テ遂ニ「更ニ他ノ」ト為シタルモ修正委員ハ第二類ノ財産例之ハ七歩利附公債證書ノ元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ更ニ五分利附公債證書又ハ會社株券ヲ以テ補充ス可キヤヲ疑ヘリ然ルニ本條ノ主旨ハ則チ第一類ヲ以テ之ヲ補充シ已ムヲ得サレハ第二類ヲ以テ補充セシムルニ在リ然レハ文字ハ少シク煩重ナルモ明カニ第一類又ハ第二類ナル朱書ヲ加ヘンコトヲ要セリ抑モ歐米諸國ニ於テハ世襲財産ハ土地ノ一種ニ限ルヲ以テ我邦モ之ヲ土地ノミニ限リ以テ暗ニ土地ノ價格ヲ維持セントス欲スルモ奈何セン方今ノ事狀ハ未タ悉ク然ル能ハス故ニ今唯第一類ヲ第二類ニ更換スルノミヲ禁セントス欲スト已ニ「其

欠額」ト言ヘハ第九條ハ第一類ヲ以テ補充シ第十條ハ第二類ヲ以テ補充スルハ自ラ明白ナリ然ルニ宮内大臣ハ将来ニ在テハ華族ノ財産ヲ悉ク第一類ニ更換セシメンコトヲ謀リ第二類ニ欠額ヲ生スレハ第一類ヲ以テ補充セシムハ可キモ若シ已ムヲ得サレハ第二類ヲ以テ補充セシムハ可シトスルノ意ナリ故ニ「又ハ第二類」ト言ヘル朱書ヲ添ヘリ是レ修正委員ノ本員ニ諮詢シテ修正シタル理由ナリ

○議長　二十九番ノ修正説ハ賛成者アリ問題ト為ス

○二十九番（橋口兼三）　内閣委員ノ解明ハ意味深遠ニシテ解スルヲ得ス本宮ハ何等ノ財産ヲ以テ補充スルモ不可ナル無シト信ス蓋シ自余ノ財産ト雖モ其本源ハ皆是レ第一類及ヒ第二類ニ由来スル者ナレハナリ例ヘハ此ニ一萬圓ノ利付公債證書ヲ有シ抽籤ニ因テ元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ其金額ノ外ナル他ノ財産ヲ以テ補充スルモ可ナラン世間往々第一類第二類ノ財産ヲ有スルハ此制限以内ニ止マ

ルモ五萬圓乃至十萬圓ノ巨資ヲ有シ之ヲ運轉シテ利益ヲ收ムル無キニ非ス然ルニ此等ノ財産ヲ以テ無要ノ者ト為スハ何ソヤ

○十一番（伊丹重賢）　現問題ノ旨趣ハ本宮ノ解スル能ハサル所ナリ二十九番ハ財産ヲ補充スルニハ必シモ第一類第二類ヲ以テスルヲ要セスト云フモ本宮ハ然リト信セス第二類ノ財産ナル公債證書ノ如キ其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ道ニ此ヲ以テ補充スルナラン且又此ヲ以テ第一類ヲ増加スレハ第二類ハ補充セサルモ可ナリトスルノ意ニ解セリ本宮ノ解スル所果シテ當ラス發議者ノ解スル所ハ誤リナラン

○四十六番（本田親雄）　本宮ハ現問題ニハ同意セス若シ「一箇年以内ニ」ヲ道ニ「其欠額ニ接スレハ必ス第二類ヲ以テ補充スル者ト觀ル可シ朱書ノ修正ハ此ノ如ク狹迫ナル區域ヲ擴充シテ第一類第二類ト為セシナリ且夫レ世襲財産ハ第一類第二類ノ財産ニ限ル決シテ他ノ

財産ヲ以テスルヲ許ササルナリ

○十七番（東久世通禧）　本官モ十一番ノ如ク解セリ四十六番モ云ヘル如ク本條ハ即チ第二類ヲ補充スル者ニシテ其區域ノ狹迫ナルモ第八條ニ明示セル如ク第二類ハ所有者ノ意度ヲ以テ第一類ニ更換スルヲ得ル便法ヲ存スレハ毫モ支障セサルナリ

○五番（安ニ補）　十一番ノ説ニ對シテハ辨明ヲ要セスト信ス十七番ノ區域狹迫ナリト云フハ當ラス原案ノ主旨ハ第一類ヲ重ンスルニ在レハ第二類ノ缺額ハ必シモ同類ノ財産ヲ以テ補充セス務メテ第一類ヲ以テ補充ス可キヲ示スヲ要ス故ニ第一類ヲ上ニ置キ「又ハ」ノ文字ヲ以テ其區域ヲ擴充シタリ思フニ二十九番ノ説ハ甚シキ誤解ト日フニ非サルモ第一類第二類ノ外ナル財産ヲ以テシテハ補充スルヲ得サルナリ此第十條ハ即チ元額ヲ補充スルノ意ナレハ縱令少シク煩文ニ似タルモ原案ノ意ヲ承ケテ第一類第二類ト言フヲ善シト

又十一番ノ質問ハ自ラ此ヲ以テ答ヘ畢レリ實ニ十一番ノ解スル所ニ違ハサルナリ

○三十一番（鍋島齊）　本條ハ第二類ニ缺額ヲ生スル場合ヲ謂フ故ニ第一類第二類ト言ヘハ却テ疑惑ヲ生シ縱令ヒ他ニ資金ヲ有スルモ此ヲ以テ補充スルヲ得サランカ蓋シ他ノ財産ヲ有セハ固ヨリ之ヲ以テ第一類第二類ノ財産ヲ購入シテ補充スルハ支障スル無シ「第一類」ニ各ノ未書ハ之ヲ削除スルヲ可トス内閣委員ノ原案ノ旨意ハ第一類ヲ重ンスルニ在リトノ説ハ只今十七番ノ辨明セシ如ク第八條ニ明示シタレハ已ニ十分ナリ然ルニ更ニ本條ニ於テ「第一類又ハ第二類」ト言フ如キ煩重ナル文字ヲ添フレハ事實ニ益スル無クシテ却テ疑惑ヲ生セシメン無用ノ文字ハ削去スルニ如カス

二十二番（柴原和）　本官ハ初メ現問題ノ發議者ヲ視テ以テ本案ヲ誤解セル者ト做シタルモ其世襲財産ニ缺額ヲ生シタルトキハ他ノ資金

ヲ以テ之ヲ補充スルモ可ナリト云ヘルヲ以テ之ヲ考フルニ敢テ誤解ヒリトハ謂フ可ラス又賛成者ノ區域狹迫ナリト見ルノ説ハ當レリ因テ本條ニ「又ハ第二類」ノ朱書ヲ加ヘタル理由ヲ陳辨セン前ニ修正委員ニ在ルヤ原案ノ如ク「更ニ他ノ」ト言フトキハ意義分明ナラス即チ此ニ額面五百圓ナル公債證書ノ元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ更ニ同類ノ公債證書ヲ以テ補充スル者ト為スヤ其區域甚タ狹迫ニシテ事ニ支障スルヲ見ニ且大レ額面百圓ノ公債證書ニシテ元金八十圓ト為セハ當載ニ利益ヲ得ルモ今日ハ其價値百圓以上ニ騰貴セルヲ以テ當載スルモ些ノ利益ヲ得ス然ルニ必ス其當載ニ得タル元金ヲ以テ第二類ノ缺額ヲ補充スルト為セハ第十條ハ區域甚タ狹迫ナルニ似タリト難セシニ内閣委員ハ第八條ヲ以テ之ヲ補充スト答ヘリ故ニ此精神ヲ以テ朱書ノ如ク修正ヲ加ヘタリ本官一已ノ所見ヲ以テスルモ到底修正案ヲ善シトス又第九條ノ五箇年ハ延ヘテ

十箇年ト為シ十分ノ余裕ヲ與ヘントスル論出タルモ顧フニ田畑ニシテ海成川成等ノ災害ヲ受ケタルトキハ一年ノ免税ノミヲ以テシテハ回復スルヲ得サルモ二年又ハ三年ヲ俟テハ回復ノ功ヲ奏スル無キニ非ス是レ第九條ノ旨趣ナリ若シ新タニ土地ヲ購入シテ補充スヘキ可シトナレハ一箇年ニシテ足ル可ク必シモ五箇年ヲ要セス即チ五箇年ト一箇年トノ間ニ權衡ヲ失フニ似タルモ自ラ其理由ノ存スルヲ以テ此ノ如ク修正セレナリ若シ單ニ第二類ヲ以テ補充スルニ限ルト為セハ土地ノ購入スヘキ有ルモ之ヲ購入スル能ハサラシ究意本案ハ第八條ヲ以テ主眼ト為セルナレハ本條ハ第一類第二類ト為シテ以テ區域ヲ廣濶ナラシムルヲ要ス

○二十八番（津田真道）　本問題ニハ同意セス元來本案ハ華族ヲ保護スル法律ニシテ其意謂フ財産ヲ華族ノ自ラ處理スルニ委セハ往々ニ之ヲ蕩散スルノ恐レ有ルヲ以テ官府ヨリ保護ヲ加ヘ以テ蕩散スルニ至

ラサラシムルヲ要スト顧フニ民法ニ禁治産ノ條則ヲ存シ即チ自己ノ財産ヲ毒ラニセシメサル者ニシテ遊蕩者風癲人白痴人ニ施スノ法制ナリ本案ハ即チ禁治産ノ意思ヲ以テ民法ノ浪費者ニ均シキ華族ヲ管理セントス故ニ不動産タル土地ヲ以テ主眼ト為スナリ所謂不動産トハ譬テ亨ノ如ク不動ノ財産ニシテ天災洪水等ニ非サレハ變損ヲ生セサル確固ナル財産是レナリ蓋シ動産ハ活物ニシテ不動産ハ死物ナルカ故ニ有為活潑ノ人ハ動産ヲ所有スルヲ好ム我邦ニモ南海ノ一地方ヨリ崛起シテ見ニ千萬圓ノ巨富ヲ致セシ人ヲ見ルニ而シテ歐米諸國ニハ一週日間ニ幾百萬圓ノ財産ヲ攫得スル者アリト聞ク然ルニ苟モ有為活潑ノ人ニ非サルヨリハ縱令ヒ利益ノ少ナキモ不動産ヲ所有スルヲ要ス這ハ是レ本案ノ主旨ニシテ即チ修正委員ノ然ク修正ヲ加ヘタル所以ナリ

○議長　二十九番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者五人

○議長　少數ナルヲ以テ二十九番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクハ本條ハ可決ト認ム一旦散會シ午餐後更ニ開會セン

午後零時三十分閉場

午後第一時二十分開場

退席

同	一番	田中　芳男
同	八番	安藤　則命
同	三十九番	町田　久成
同	五十二番	野村　素介
同	五十五番	中島　錫胤
同	五十六番	福羽　美静
同	七十三番	安田　定則

○議長　午前ノ續會ヲ開ク

書記官　森山茂　朗讀

第十一條　世襲財産ノ所有者ハ其財産ノ純收益ヲ抵當トシテ負債ヲ為スコトヲ得（但）ト雖モ毎年其純收益ノ三分一以上ノ償却ヲ為スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

○議長　效議ナクハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第十二條　世襲財産ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第十三條　世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入ト為スコトヲ得ス

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第十四條　世襲財産及ヒ附屬物ハ負債ノ抵償トシテ差押フルコト（得ス）國税地方税區町村費ヲ納メサルトキハ此限ニアラス

○二十九番　橋口兼三　本條ノ「但國税」云々ヲ以下ヲ削除セシ修正ハ至當ナルモ「負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス」ト為セル修正ニハ少シク異見ヲ懷ク本官ハ第十一條ヲ解シテ債主ハ擅ニ世襲財産及ヒ附屬物ヲ差押フルヲ得サルモノト做セリ果シテ本官ノ解スル所ノ如クナレハ華族ハ第一類第二類ノ財産ヲ賣却シ讓與シ若クハ質入ト為シ書入ト為スヲ得サレハ負債主ノ債主ニ對シテ世襲財産ヲ抵當ト為スヲ得サレハ言ハスシテ明カナリ然ルニ本條ニ於テ故サラニ「差押フルコトヲ得ス」ト為セルハ事理通セサルナリ若シ夫レ第十二條ニ「其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス」ト言ヘルハ三分ノ

一ナル差押フ可キ現品ノ存スルカ故ナリ然ルニ世襲財産及ヒ附屬物ハ決シテ質入又ハ書入ト為スヲ得サルナルニ因リ素ヨリ債主ノ手中ニ落フ可キ現品ノ存スルニ非ス債主ノ手中ニ落チサル者ニシテ何ノ故ニ差押フルヲ得ン然ルヲ絶收益ト同シク差押云云ノ文字ヲ掲クルハ贅疣ニ似タリ原案ニハ「公責處分ヲ受ケサルモノトス」ト言フ然レハ則チ世襲財産及ヒ附屬物ハ裁判ノ權力ト雖モ之ヲ動カスヲ得ス況シテ債主ノ擅ニ差押フルヲ得サルハ明白ナルヲヤ且苦シ本條ニ「差押フルヲ得ス」ト言ヘハ第十三條ト抵觸スル無キヲ得ルカ是ヲ以テ本官ハ本條ノ「附屬物ハ」以下ヲ修正シテ負債償却ノ義務アリト雖モ公責處分ヲ受ケサルモノトスト云フ如キノ文意ト為サントス前キニ内閣委員ハ此法制ヲ設クル以上ハ政府ニ賠償ス可キ者ト雖モ猶或ハ之ヲ放過スルコト有ラントヲ云ヘリ果シテ然レハ修正案ノ如ク「國税」以下ヲ削除セルハ大ニ宜キヲ得タルモ初

ヨリ差押フル事實ナキニ「差押フルコトヲ得ス」トノ文字ヲ掲クルハ無益ナリトス

退席

○議長　二十九番ノ動議ハ贊成者ナキヲ以テ消滅ス他ニ發議ナシ

五十七番　山口尚芳

ハ本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第十五條　世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス

戸主死亡ノ後家督相續スヘキ男子ナキトキ

一、相續者ナキトキ

○十一番　伊丹重賢　修正委員ノ本條ニ「戸主死亡ノ後」ナル文字ヲ加ヘシハ華族令ニ遵依セリトヲヘルハ之ヲ瞭解セルモ若シ戸主失踪シテ男子ナキトキハ世襲財産ハ之ヲ如何スルヤ敢テ質ス

二十二番　柴原和　失踪ノ一事ハ原案ニモ之ヲ言フ無シ蓋シ修正委員

ノ意見タル華族令ニハ女子ヲ以テ戸主ト為スノ明文アレハ此女戸主ヲシテ世襲財産ノ効力ヲ保有セシメテ可ナラント思考セシモ女戸主ニハ爵ヲ賜ハス無爵者ノ世襲財産ヲ有スルヲ得サルハ固ヨリ明白ナリ失踪者ノ如キハ爵ヲ褫ハル可キハ當然ナレハ世襲財産ヲ有スル能ハス本官ノ見解ハ此ノ如シ尚ホ明瞭ナラサレハ請フ他ノ修正委員及ヒ内閣委員ニ質問セヨ

五番（三浦安）　本官モ修正委員ノ一人ナレハ二十二番ノ答辨ヲ補陳セン思フニ戸主ノ失踪スルハ其善事ニ因ルニ非サルヤ必セリ然レハ此ニ明揭セサルモ世襲財産ノ効力ヲ失フハ明瞭ナリ又其爵ヲ奪ハレ云々ヲ別項ト為セシハ彼此ノ混シ易キヲ恐レタナリ原案ノ旨趣ノ外ニ於テ別ニ一項ヲ加ヘタルニ非ス

○十一番（伊丹重賢）　只今ノ答辨ニ因テ瞭解ス本官ノ質問ハ少シク言辭ノ足ラサリシ原案ニハ失踪者ヲモ包含スル者ト解セシモ修正案ハ故

サラニ「死亡」ノ文字ヲ揭ケタルヲ以テ特ニ死亡ニ限ルヤノ疑ヒヲ生セシナリ五番ハ失踪者ハ素ヨリ世襲財産ノ効力ヲ失フト云フモ是レ逃亡者トハ自ラ差別ヲ存ス逃亡者ハ悪事ヲ犯シタル者ト見做ス可キモ失踪者ハ唯其形跡ノ知ル可ラサル者ニシテ何等ノ事故ニ因テ失踪センヤハ未タ知ル可ラス然レハ則チ必ス悪事ヲ為シテ逃亡シタル者ニ區別セサル可ラサルナリ

○議長　他ニ發議ナクンハ本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官（森山茂）　朗讀

第十六條　世襲財産（爵ト特權物）ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

○議長　本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官（森山茂）　朗讀

第十七條　世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

○議長　本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第十八條　華族局ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

○議長　本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第十九條　世襲財産ヲ創設增殖更換又ハ補充セントスル者ハ其願書ニ財産目録ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財産附屬物ヲ設ケントスル者亦同シ

○議長　本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第二十條　宮内大臣ハ前條ノ願書目録ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社

ニ命シ世襲財産ト為スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ但世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

○議長　本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第二十一條　前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ認可證ヲ下付シ第一類ノ財産ハ所轄ノ府縣廳ハ戸長ニ命シ公證簿ニ記入セシメ府縣廳ハ戸長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ根帳ニ記入セシムヘシ

華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若クハ株券ノ券面ニ世襲財産ト為リタル旨ヲ記入スヘシ

○七十一番 加藤弘之 内閣委員及ヒ修正委員ニ質問ス本條ニ「地方廳ハ戸長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ」ト言ヘルモ東京府ノ如キ戸長ヲ置カサル地方ハ何如スルカ

○二十二番 柴原和 是レ修正案ニハ關係セサルモ修正委員ノ原案ヲ可認シタル所以ヲ略陳セン東京府ノ如キモ元來毎ニ町或ハ毎數町ニ一戸長ヲ置クヲ以テ正則ト為スト雖モ便宜區長ヲ以テ戸長ノ職務ヲ兼掌セシメ以テ戸長ヲ置クノ体ヲ成セルナリ是レ敢テ別ニ支障ヲ見スト信ス

○七十二番 加藤弘之 修正委員ノ辯明ヲ得テ瞭解セリ本官モ只今ノ答辯ノ如ク思考セシモ現行法中ニ戸長ノ名義ノミヲ掲クルモ戸長ヲ置カサル東京府ノ如キハ區長ニシテ戸長ノ職務ヲ兼掌セシムル的例アリキ之レ有レハ可ナリ若シ單ニ戸長ノミヲ掲ケ而シテ區長ヲシテ其職務ヲ兼掌セシムル意思ヲ含蓄スルハ本案ヲ以テ滿矢ト為ス

ナラハ明カニ其事理ヲ附記セサル可ラサラン

○番外 一番 岩崎小二郎 東京大坂両府ノ戸長ヲ置カス區長ヲ以テ之ヲ兼ネシムルハ現ニ實行スル所ナリ故ニ其事ヲ附記セサルモ支障スル無ル可シ只單ニ戸長ノミヲ掲ケ區長ヲ含蓄セシムル先例ハ今即答スル能ハサルモ蓋シ之レ有ラン此件ハ調査ヲ經テ辯明スルモ可ナレトモ今日ニ實行スル的例アルヲ以テ此法文ノ如クスルモ別ニ支障スル無キナリ

○四十八番 村田係 「戸長」云云ノ質疑ニ對シ二十二番及ヒ内閣委員ノ之ニ答辯シタルモ少シク的切ナラサルヲ覺フ區長ニシテ戸長ノ職務ヲ兼掌スル成例ハ明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第六條ノ但書ニ「區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼ネルヿヲ得」ト言ヒ十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則第二條ニハ「戸長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡奥書割印帳ヲ備置キ」云云ト言ヒテ區

長ナル文字ヲ掲ケス法文中既ニ此等ノ先例アレハ本條ニ於テ單ニ戸長ノミヲ掲ルモ決シテ文障ヲ見サルナリ

○二十二番 柴原和 本官モ現行法中ニ的例アリト思考セシモ其何レタルヤヲ記臆セサリシニ只今其的例ヲ發見セリ洵ニ四十八番ノ陳辯ノ如シ試ニ之ヲ朗讀セン即チ郡區町村編制法第六條ニ「每町村ニ戸長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クヿヲ得」ト言ヒ而シテ其但書ニ「區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼ヌルヿヲ得」ト言ヘリ又土地賣買讓渡規則ニハ單ニ戸長ノミヲ掲ケ區長ノ之ヲ兼メルヿヲ含包セシメリ正則ヨリ之ヲ言ヘハ「公證簿ニ記入」云々ハ戸長ノ職務ナレトモ區長ヲ以テ之ヲ兼ネシムルハ便宜ヲ計レルナリ

○七十二番 加藤弘之 内閣委員及ヒ修正委員ノ明辯ニ因テ戸長ヲ置カサル地方即チ東京府大坂府ノ如キハ區長ヲ以テ戸長ノ職務ヲ兼掌セシムル法規ナルコトヲ領承ス然ルニ此法案ヲシテ一見分明ナラシ

ムルニハ其事ヲ附記スルニ如カス然レトモ本官ハ本案ニ對シテ別ニ異論ヲ唱ヘサルナリ

○議長 他ニ發議ナクンハ本條ハ可決ト認メテ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二十二條 世襲財産其効力ヲ失ヒメルトキハ宮内大臣ヨリ地方府縣廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

○議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二十三條 世襲財産創設者及ヒ所有者ハ第二十條及ヒ第二十二條ニ關スル公告費用ヲ(其財産所有者ヨリ之ヲ)華族局ニ納ムヘシ

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二十四條　世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルヲ為メ戸主及ヒ満二十年以上ノ相續者若シハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親屬會議員ニ充ルコトヲ得

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第二十五條　世襲財産ニ關スル願書届書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ要ス

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第二十六條　此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

○議長　可決ト認メ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第二十七條　此法ハ明治十九年　月　日ヨリ之ヲ施行ス

○議長　本條ハ可決ト認ムヲ乃チ第二讀會ヲ畢ル

○番外一番　名峰小郎　議長ニ請求ス引續キ第三讀會ヲ開カンコトヲ是レ徒ラニ速決ヲ促スニ非ス本案ハ下付以後已ニ一月有余ニ渉リ第一讀會以來修正委員ヲ置キテ十分ノ修正ヲ經タレハ原案ニ比シテ數層ノ明白ナルヲ致セリ然レハ則チ更ニ考慮ヲ費スモ尚ホ一層ノ好修正ヲ得ル能ハサラン時日ヲ費セル此ノ如キ多キト尚ホ一層ノ好修正ヲ得ル能ハサルトハ是レ今日第三讀會ヲ開クヲ請求スル理由ナリ且ツ今日ハ尚ホ二時間ヲ余セハ第三讀會ヲ開クニ十分ナル時間アリトス敢テ望ハ此請求ヲ容レンコトヲ

議長　内閣委員ハ引續キ第三讀會ヲ開クコトヲ請求セリ其請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者大人

○議長　少數ナルヲ以テ番外ノ請求ハ之ヲ容レス第三讀會ノ日期ハ更ニ通知セン本日ハ散會セヨ

午後第二時十分閉場

元老院會記筆記　明治十九年四月二十一日　禁傍聽

○第五百八號議案　華族世襲財産法　第三讀會

議長　大木喬任

出席議官

一番　田中芳男
二番　小畑美稲
三番　長松幹
四番　久我通久
五番　三浦安
八番　安藤則命
十番　大給恒
十一番　伊丹重賢
十二番　長岡護美

十三番　石田　英吉
十七番　東久世通禧
十八番　宮本　小一
十九番　楠本　正隆
二十番　大久保一翁
二十一番　林　友幸
二十二番　柴原　和
二十四番　何　禮之
二十五番　横村　正直
二十七番　福原　實
二十八番　津田　眞道
三十九番　橋口　兼三
三十一番　鍋島　幹

三十四番　西村　真陽
三十五番　永山　盛輝
三十六番　西　周
三十七番　岩村　定高
三十八番　壬生　基修
三十九番　町田　久成
四十番　中村　正直
四十一番　渡邊　清
四十二番　揖取　素彦
四十三番　上杉　茂憲
四十六番　本田　親雄
四十八番　村田　保
四十九番　神山　郡廉

五十番　河田景與
五十二番　野村素介
五十三番　津田出
五十四番　由利公正
五十五番　中島錫胤
五十六番　福羽美静
五十七番　山口尚芳
六十二番　清岡公張
六十五番　中村弘毅
六十七番　原田一道
六十九番　大迫貞清
七十一番　伊東祐麿
七十二番　加藤弘之

七十四番　調所廣丈
七十五番　長谷部辰連

内閣委員 番外 一番 法制局参事官岩崎小二郎

午前第十時十分開場

○議長　第五百八號議案ノ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山茂　朗讀

華族世襲財産法

第一條　華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得

○十番 大隈 本官ハ第一讀會及ヒ初次ノ第二讀會ニ關係セルニ因リ爲メニ前會ニ於テ發言ノ機會ヲ誤マレリ本會ハ第三讀會ナルヲ以テ前日ノ豫陳ヲ繼ヲ以テ鄙見ヲ述ン抑モ本案ノ旨趣ハ右門右族ニ

永遠ニ保護スルニ在レハ之ニ對シ素ヨリ異議ヲ懷カサルモ其制定ノ方法ニハ承服スル能ハス請フ觀ヲ本案第一條ニ「世襲財産ヲ創設スルコトヲ得」ト言ヘハ敢テ其創設ヲ強ルヲ得ス又縱令之ヲ創設スルモ若干年間缺額ヲ補充セサレハ効力ヲ失フ等其保護ノ旨趣未タ洽子ラス加之第十一條第十三條等ニ觸レハ衆華族ノ體面ニモ關係セントス故ニ此保護ヲ行政處分ニ委スレハ毫モ障碍ヲ來ササルノミナラス内閣ノ旨趣ハ却テ貫徹スルヲ得ン從來宮内省ノ華族ヲ管理スルヨリ觀察スルモ亦其保護ノ周到セルヲ覺フ回顧スルニ大政維新ノ初メ衆華族ヲ東京ニ召集シテ此ニ住所ヲ定メシメハ封建ノ舊制ヲ更革スルニ出タリ是ニ於テ各其家政ヲ釐改セシモ其方途ヲ誤マリ資財ヲ減耗セル者少ナカラス然リト雖モ今日ニ在テハ數年ノ經驗又ハ舊臣ノ周施ニ因リ家政漸ク確立シ復タ前日ノ如キ失敗ヲ取ルヲ見ス但今將サニ倒産セントスル者或ハ之レ有シモ是

レ概シテ當初其家政ノ宜キヲ失ヘルニ職由スル故ニ今日特ニ法律ヲ以テ之ヲ保護スルヲ要セス且夫レ華族ヲ土着セシメハ地方ニ利益スルモ法律ヲ以テシテハ之ヲ奈何トモスル能ハス行政處分ヲ以テスレハ施ス可キノ政策ナキニ非ス又本案ハ純收益五百圓ヲ以テ世襲財産創設ノ最下限ト為スモ此制限ヨリ起エス又纔ニ之ニ達スル如キ財産ヲ有スル各家ハ常ニ其財産ヲ以テ融通セサルヲ得サルニ因リ世襲財産ヲ創設セントス欲スルモ能ハサラン是レ蓋シ其本ヲ固ウスルカ為メ已ムヲ得サルニ出ツ可キモ奈何セン前陳ノ支障アリ且假令此制限ニ達スル財産ヲ有スル各家ハ之ヲ創設スル者ト做スモ是レ恐クハ華族ノ體面ヲ保ツニ難カラン前會ニ某議官ハ制限ヲ千圓ニ上ス可シト發言セリ其理由ハ未タ之ヲ詳ニセサレトモ思フニ五百圓ニシテハ華族ノ體面ヲ保ツニ足ラストスフノ見解ニ出タル可シ然レハ則チ此制限ヲ高ウセン耶此法律ノ恩惠ニ浴スルヲ

得サル者甚多キヲ加ヘテ内閣ノ旨趣モ遂ニ画餅ニ屬セン原來名家舊族ハ從前ノ小録者ノ中ニ少ナシトセス尚モ華族ヲ保護スル旨趣ナラハ其大小貧富ヲ問フ可キニ非ス況シテ名家舊族ハカメテ保護スルヲ要スルヲヤ然ルニ法律ヲ以テセハ斯ル障碍ヲ來タスヲ如シ又加之從前ノ大録者ハ世襲財産ヲ創設セサルモ子孫ノ生計ヲ憂フル無キカ故ニ此輩ハ強テ創設スルヲ望マサル可シ聞ク獨逸聯邦ノ財産保護法ハ本案ニ比スレハ一層其範圍ヲ廣クシ若干ノ財産ヲ有スレハ何人モ此法ニ頼テ保護ヲ受ルヲ得ヘシ但其免許料手數料ハ頗ル多額ナルモ此法ニ頼リテ其家ヲ永遠ニ保續シ因テ以テ政府ニ對シテ應分ノ義務ヲ盡ス者亦多シト斯ノ如ク保護ノ範圍ヲ廣クスルナレハ法律ヲ以テスルモ可ナルヽミ之ニ反シテ本案ハ區域狹隘ニシテ且偏頗ノ嫌ヒ有リ寔ク前陳ノ如ク行政處分ニ委スヘキナリ之ヲ要スルニ本官ハ政府ノ華族ニ待ツ甚タ厚キハ實ニ感銘ニ勝ヘ

サルモ立法官ノ地位ニ立テ本案ヲ論スルニ當テハ未タ遽カニ之ヲ贊成スル能ハス故ニ本案ハ姑ク内閣ニ達還シテ其再考ヲ仰クヲ可トス

○二十五番 横村正直 十番ノ發議ハ本案ヲ内閣ニ奉還セントスルニ在リ即チ發案説ト認メテ之ヲ贊成ス抑モ華族ヲ保護シテ永タ其體面ヲ失ハシメサルハ本官モ切望スル所ナレトモ本案ノ如ク五百圓云々ノ制限ヲ立ルトキハ其以下ナル者ハ等シク是レ華族ニシテ且其何様ノ名門右族ナルモ本案ノ保護ヲ受ルヲ得ス到底其効力ハ甚タ薄弱ニシテ内閣ノ旨趣ヲ貫徹スル能ハサラン各位モ知ル如ク從來華族ハ其家計ノ如何ニ拘ハラス世人皆之ヲ尊崇セサル莫シ然ルニ斯ル法律ヲ布キ世人ヲシテ財産ナケレハ華族モ尊貴ナラストノ感解ヲ生セシムルハ甚タ惜ムヲ可キナリ夫レ華族ヲ有用視スルハ第一讀會以來各官ノ數々説ク所ニシテ本官モ素ヨリ異議ヲ存セス此點ヨ

リ之ヲ考フルモ五百圓ノ制限ヲ立ルハ果シテ如何ナル理由ニ出タルヤヲ解スル可ラス既ニ同論者中ニモ政府ノ保護ヲ受ケサレハ其家ヲ保ツ能ハサル如キ華族ハ槁木死灰ト一般ナレハ是等ハ其自滅ニ委シ寧ロ有為活潑ノ新華族ヲ以テ之ニ換フヘシト説ケリ有リ實ニ斯ル保護法ニ頼ルニ非サレハ華族ノ地位ヲ保ツ能ハサル如キハ遺憾ナラスヤ又華族タルニ恥サル人物ノ陶冶養成ヲ要スル一點ヨリ之ヲ論スルモ華族ノ子弟ヲシテ國家有用ノ材幹者タラシメント欲セハ其學事等ニ巨多ノ費用ヲ要スルヲ以テ僅ニ五百圓許ノ純收益ヲ生スル財産ニ過キサル各家ニ在テハ本案ノ保護ヲ受ント欲スルモ決シテ能ハス其レ然リ本官ハ本案ノ果シテ華族ヲ保護スル實効アルヤ否ヤヲ疑フナリ又本案ノ制限内ニ入ラサル華族ニモ名門右族アルハ十番ノ辯スル所ノ如シ然ルニ本案ニ據レハ此等ハ其自滅スルニ委ス如キノ看ヲ呈ス本官ハ貧小ナル華族モ仍ホ之

ヲ保護シテ其家ヲ永存セシメンコトヲ切望ス昔年吾人ノ京都ニ上レルヤ公卿ノ邸宅ハ壞頽破蕪ノ間ヨリ室内ヲ窺フ可キ如クナリシモ仍ホ尊崇ノ心ヲ損セス蓋シ其尊崇スルト否トハ金銭ノ關係スル所ニ非サルヲ證ス可シ今日華族保護論ノ起レルモ畢竟金銭ノ換ヘ得ヘカラサル者ノ存スルニ由ルナラン然ルニ五百圓ノ制限ヲ立テ以テ之ニ入ラサル者ヲ保護セサルハ何ソヤ要スルニ本案ハ徒ラニ戸長銀行會社等ニ煩勞ヲ被ラシメ而シテ華族ヲ保護スト云フモ其保護ハ純收益五百圓以下ノ財産ヲ有スル者ニ及ハス且此制限以上ノ財産ヲ有スルモ尚ホ保護ヲ受ルヲ得サル者ヲ生ス是レ本案ニ左祖セサル所以ナリ

○議長　十番ニ問フ本案ヲ内閣ニ奉還セントヲフハ廢案ヲ欲スルニ在ル乎

○十番（大給恒）　然リ内閣ノ精神ハ贊成スルモ本案ハ廢案ニ付スルヲ望

ハ其奉還セントヲヒシハ唯言辭ヲ慎シメルノミ

○議長　又十番ニ問フ行政處分ニ委スルヲ可トスルヤ其處分ノ方法ニ關シテハ別ニ意見ヲ陳サル乎

十番（大給恒）　然リ華族令ナリ華族懲戒令ナリ皆法律ヲ以テセス本案モ行政處分ニ委シテ足レリ又行政處分ニ關シテハ本院ノ之ヲ議スル權ヲ有セス故ニ本官ハ敢テ論セス且其處分ノ方法ニ關シテハ當路者ノ考案ハ本官等ノ考案ニ比シテ萬々其優レルヲ信スルナリ

○十一番（伊丹重賢）　十番ヲ贊成ス其理由ハ第一讀會及ヒ第二讀會ニ陳タルヲ以テ復タ贅セス要スルニ本官ノ意見ハ前日ハ華士族ニ限リ閏刑等ノ特典ヲ設ケタルモ新刑法ヲ以テ之ヲ廢シ凡テ國民同一ニ歸シタリ然ルニ今又斯ル偏頗ノ法律ヲ設クルハ甚タ不可ナリ且尚モ四民ノ上ニ位シ皇室ノ藩屏ヲ以テ指稱スル所ノ華族ニシテ斯ル保護法ニ依賴スルニ非サレハ其家產ヲ維持スル能ハサル如キハ華族

ノ為メニモ深ク惜ム可キナリ況シテ本案ニ據レハ等シク華族ナルモ一年ノ純收益五百圓ニ上ラサル者ハ保護ヲ受ル能ハス同族中ニ在テモ幸ト不幸トヲ生セシムルヲヤ故ニ本官モ亦已ムヲ得ス廢案說ニ同意ス

○四十九番（神山郡廉）　十番ノ廢案說ヲ贊成ス是レ寔ニ至當ノ意見スレハナリ

○五十四番（由利公正）　贊成

○六十二番（清岡公張）　贊成ス本官ハ前會ニ廢案說ヲ陳シモ今日ハ既ニ十番二十五番ノ辨論ヲ經タルヲ以テ復タ贅セス

○議長　十番ノ動議ハ定數ノ贊成有アルヲ以テ問題ト為ス

○七十二番（加藤弘之）　十番ノ論旨ハ要スルニ法律ヲ以テ華族ヲ保護スルハ不可ナルモ行政處分ヲ以テ保護スルハ可ナリト云フニ在レハ敢テ本案ノ大體ヲ非視スルニ非ス惟タ法律ト為スト否トニ關シ意見

ヲ異ニスルノミ者モ保護ヲ要スト為セハ其旨趣ノ十分ニ貫徹スル
ヲ期セサル可ラス然レハ則チ法律ヲ以テスルノ優レルニ如カサル
ナリ又小華族ニ名門右族アルモ本来ニ據レハ之ヲ保護スル能ハス
ト論スレトモ若シ果シテ殊ニ尊崇ス可キ名門右族アランニハ帝室
ヨリ特ニ金圓ヲ賜フテ世襲財産ヲ創設セシムルモ可ナリ蓋シ此カ
為メニ國税ヲ支用スルニ非スシテ帝室ヨリ金圓ヲ賜フハ何人モ異
議ヲ容レサル可ケレハナリ又若シ然ラ保護スルヲ要セサル華族ニ
シテ制限以上ノ純收益ヲ有セサル者ナランニハ是レ已ムヲ得ス之
ヲ此保護ノ外ニ置シノミ然リ而シテ貴ニ華族ノ體面ヲ保タントス
ル者ハ必ス躍勉シテ世襲財産ヲ創設スルニ至ル可シ又二十五番ノ
本案ヲ指シテ金銭ニ頼リテ華族ノ體面ヲ得持スル者ナリト痛駁ス
ルモ舊幕府ノ未タ例レサル以前ハ格別ニ屬シ今日ノ時勢ニ在テハ
必ス然ラサルヲ得ス是レ獨リ本邦ノミナラス外國ニ於ルモ亦然リ

蓋シ金銭ハ華族タル體面ヲ保持スル實力ナレハナリ又僅ニ五百圓
許ノ純收益ヲ有スル如キ小家ニ在テハ其資本ヲ流用シテ子弟ノ教
育ヲ謀ラサルヲ得ス故ニ世襲財産ヲ創設セントスルモ能ハスト論
スルモ元来教育ニ費ヤスハ甚タ少ナクシテ遊蕩ニ之ヲ費スハ
大タ多シ而シテ法律ハ多數人ノ為メニ制定スル者ナレハ或ハ偶々
論者ノ引例セル如キ華族アルモ已ムヲ得サルノミ要スルニ本案ハ
務メテ世襲財産ヲ創設セシメ以テ之ヲ保護セント欲スルニ在ルナ
リ

○五番三浦安 廢案説ニ對シテハ第二讀會ノ初メニ排撃ヲ加ヘタルヲ
以テ本日ハ重復ヲ避ケ進タ新加ノ論者タル十番ノ説ヲ一駁セン思
フニ其説タル太タ婉曲ニシテ意旨ヲ採リ體面ヲ採ニストニフモ究
竟國民一般ニ保護ヲ受ホサハ法律ヲ以テシテ可ナリ華族ニ限ルナ
ラハ行政處分ニ委スルヲ善シトスト云フニ外ナラス若シ華族ノミ

ヲ保護スルヲ不可ナリト云フトキハ之ヲ行政處分ニ委スルモ亦不可ナリト云ハサルヲ得ス然ルニ既ニ行政處分ニ委シテ可ナリトシテヲ以上ハ法律ヲ以テスルモ何ノ不可ナルコトカ之レ有ン蓋シ自家擅着ノ說ト謂フ可キノミ其他ハ七十二番ノ駁シ盡セルヲ以テ復タ贅セス起立ノ次ニ尚ホ一言セン二十五番ハ華族ノ尊貴ハ金錢ニ頼テスト論スルモ内閣ノ旨趣タル世襲財產ヲ創設スルヲ得サル者ハ一切ニ保護ヲ加ヘスト云フニ非ス世襲財產ヲ創設スル能ハサル者モ品行方正ナレハ仍ホ華族タル體面ヲ汚サス之ニ反シテ縱ヒ世襲財產ヲ創設シタル者モ品行方正ナラスンハ華族タル體面ヲ汚ス故ニ金錢ノミヲ有スルモ華族ノ體面ヲ保持スト云フ可ラス財產富裕ニ品行方正ナルヲ擇フノミ要スルニ本案ハ財產保護ノ旨趣ヨリ成立セルヲ以テ勢ヒ此ノ如ク規定セサルヲ得サルナリ切ニ現問題ノ消滅ニ歸スルヲ望ム

○四十八番 村田保 現問題ニ左祖ス本官ハ第一讀會ヨリシテ委案說ヲ主張シタルモ行ハレス遂ニ修正委員ヲ置クニ決テ誤テ委員ノ選ニ當レリ然ルニ本官ノ原案ニ對スル修正ノ意見ハ多ク委員會ノ採用スル所ト爲リテ稍ヤ滿足スルモ委案說ハ本官ノ宿論ナルヲ以テ今其動議ノ出ル以上ハ修正委員ナルニ拘ハラス喜ヒテ之ヲ贊成セサルヲ得サルナリ若シ一般人民ニ此保護ヲ及ホスナラハ可ナルモ僅僅五百有餘ノ華族ノミヲ保護スルニ法律ヲ以テスルハ當ヲ失スト是レ本案ノ宜ノ廢棄スヘキ一理由ナリ又斯ノ一部分ノ人ニ係ル事物ヲ規定スルニ法律ヲ以テセシ類例ハ未タ之ヲ聞見セス近ク例セハ華族令ナリ華族懲戒令ナリ皆是レ省達ヲ以テセシニ非スヤ本案モ亦宜ノ之ニ倣フヘシ是レ本案ノ宜ク廢棄スヘキ二理由ナリ但此等ハ第一讀會以來詳カニ陳辯セルヲ以テ本日ハ惟タ一言スルニ止メシ今ヤ議場ノ景況ヲ考フルニ廢案說ハ必ス成立セサル可ケレハ無

用ノ辨ニ似タレトモ此意見ヲ存議録ニ留メン為メニ敢テ陳述スル
ノミ

○二十九番 橋口兼三　本官ハ現問題ヲ非視ス其理由ハ第二讀會ニ詳陳セ
ル所ノ如シ十番ノ行政處分ニ委スヘシト云フニ對シテハ七十二番
モ辨セシ如ク苟モ華族ヲ保護スルヲ善シトスル以上ハ立テテ法律
ト為スヲ優レリトス大レ華族ハ政府モ特ニ之ヲ優待スルハ各位ノ
知ル所ナリ然レハ則チ其財産ヲ保護スル為メニ特別ノ法律ヲ作ル
モ何ノ不可タ之レ有シ某議官ハ一般ニ保護ヲ及ホス。非サレハ法
律ヲ以テ又可ラスト云フモ本官ハ一般ニ及ホスノ却テ不可ナルヲ
信ス何トナレハ商工等ハ資本ノ活動ヲ力メサル可ラス斯ル法律ニ
頼リテ其資本ノ束縛ヲ受ルハ商工タルノ本意ニ非サレハナリ故ニ
現問題ニ左袒ス

○二十二番 柴原和　愛案説ノ失當ナルハ第一讀會以來本官等同論者ノ

詳論セル所ナルヲ以テ今復タ贅セサレトモ修正委員中ニモ愛案説
ヲ賛成スル有リ且本日ハ新タニ十番ヲ加ヘタルヲ以テ聊カ駁撃ヲ
事セン十番ハ一般ニ保護ヲ及ホサハ法律ヲ以テシテ可ナリト云フ
モ其要旨ハ行政處分ニ委セントスルニ在レハ大十二番ト同一軌ナ
リ行政處分ニ委ス可キヤ否ヤニ關シテハ前會ニモ陳ヘタル如ク若シ
行政處分ニ委スルヲ得バ可ナルモ其決シテ之ニ委スルヲ得サレハ
既ニ已ニ辨論セシ所ナリ思フニ五百圓ノ制限ハ過高ナルニ非サル
モ尚ホ世襲財産ヲ創設スルヲ得サル者アリト云フハ眞ニ嘆息ニ堪
ヘス故ニ他ニ良法アレハ之ヲ採ル可キモ其之レ無キヲ奈何セン夫
レ本案ハ華族令華族懲戒令ト異ニシテ一般人民ニ至大至重ノ關係
ヲ有スル者ナレハ必ス法律ト為ササル可ラス内閣ノ意旨モ蓋シ此
ニ外ナラサル可シ又民間ニモ三井鴻池等ノ如キ豪族世家ノ在ル有
レハ一層ニ本案ノ主義ヲ擴張スルハ本官ノ素ヨリ望ム所ナリ然リ

而モ本案ノ華族ヲ保護スルノミニ止メタルハ思フニ適キヨリ遐キニ及キス旨趣ナル可シ故ニ今日一般人民ニ及ホササルモ本官ハ本案ヲ非視セサルナリ又十一番二十五番ハ純收益五百圓以下ノ小華族ニ及ホササルヲ痛駁スルモ前會ニ内閣委員ハ云ヘリ五百圓ノ制限ハ一定不動ノ根據アルニ非ス惟タ内閣ノ相當ト見ル所ニ出タルノミト論者ノ言ノ如ク五百圓以下ニ及ホササルハ公平ヲ失スルニ似タルモ苟モ制限ヲ立ル以上ハ已ムヲ得サルノ結果ト謂フ可シ蓋シ此制限ヲ以テスレハ大概世襲財産ヲ創設スルヲ得ヘク其然ル能ハサルハ恐クハ前日ニ資産ヲ浪費シタル結果ニシテ所謂自業自得ナルノミ且設令維新以前ヨリシテ此制限以上ノ純收益ヲ有セサル公卿アリトスルモ維新ノ勲功ニ因テ賞典禄等ヲ賜ハリタレハ今日ハ此世襲財産ヲ創設スルヲ得ヘク若シ勲功ヲ建ル無クシテ賞典禄等ヲ賜ハサリシ公卿ハ當時其力ヲ盡ササルノ致ス所ナレハ是亦已

ムヲ得サルノミ若シ特ニ尊重ス可キ門閥ノ華族ニシテ世襲財産ヲ創設スルヲ得サルナラハ特ニ帝室ヨリ資金ヲ賜フモ可ナラン且ヤ制限以下ニ係ル小華族ハ惟タ世襲財産ヲ創設スルヲ得サルノミ華族籍ヨリ除名セラルルニ非サレハ必シモ不公平ト謂フ可ラス又二十五番ハ華族ノ尊貴ハ金錢ニ憑ラス昔日ハ繋衣ヲ著シ廢屋ニ住スヤト云ヘリ其レ然リ然レトモ苟モ皇室ルヲ見ルモ尊崇セシニ非スヤト云ヘリ其レ然リ然レトモ苟モ皇室ノ藩屏タル華族ニシテ繋衣ヲ著シ廢屋ニ住スルハ畏クモ幾分カ皇室ノ尊嚴ヲ汚スノ虞レ無キ能ハス蓋シ繋衣ヲ著シ廢屋ニ住スルモ猶ホ尊崇スルナレハ苟モ其然ラサルニ於テハ一層ニ尊崇ヲ深クス可シ要スルニ本案ハ華族ノ身位ヲ尊貴ナラシムル為メニ殊ニ要用ナリトス因テ本案ノ可決スルヲ望ム

○二十八番 津田長道 本官ハ前會ニモ陳タル如ク本案ヲ是認ス廢案説ノ勢力ヲ有スルハ五百圓云云ノ制限ノ一點ニ在リ然レトモ今此法律

ヲ發セントスルヲ觀レハ既ニ政府ノ計畫スル所アルヤ疑ヒ無シ抑モ本案ノ主眼ハ本邦ノ名族ヲ永存セントスルニ在リ然レハ則チ純收益ノ五百圓ニ上ラサル華族ニハ政府必ス資金ヲ賜ヒ世襲財產ヲ創設スルヲ得セシム可キハ本官ノ確信スル所ナリ聞ク本案ノ制限ニ據レハ世襲財產ヲ創設スルヲ得サルハ四十人許ナリト思フニ無祿無產ノ華族ハ一人タモ有ラサレハ是レ惟ク純收益ノ五百圓ニ上ラサルニ由ルナラン然レハ則チ每年一人ニ百圓ヲ賜フモ合セテ四千圓ナリ我國貧少ナリト雖モ全國ノ經濟ヨリ之ヲ言ヘハ眞ニ九牛ノ一毛ノミ斯ル些少ノ金額ヲ賜フニ困シム如クンハ萬國ニ拮抗スルコトハ企テ望ム可カラス假令四千圓ノ二倍即チ八千圓ヲ年年ニ賜フト觀ルモ尚ホ易々ナルノミ我ク國庫ノ歲入額ハ昨年ハ前年ヨリ減少セリトモフモ猶ホ幾ント七千萬圓ニ達スルニ非スヤ故ニ本官ハ政府ノ必ス此計畫ニ出ルヲ信ス本官ヲシテ總理大臣ノ地

位ニ在ラシムルモ亦之ヲ斷行スルヲ怠ラサル可シ故ニ五百圓云々ノ一點ニ關シテハ本官ハ毫モ罣慮セサルナリ

議長　發議既ニ盡キタルヲ以テ決ヲ取ン十番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長　少數ナルヲ以テ十番ノ發案説ハ消滅ス乃チ第一條ハ可決ト認メテ次條ニ移ル本案ハ條文簡單ナル者多キヲ以テ第二條以下適宜ニ三四條ヲ連帶シテ討議ニ付セン

書記官　森山茂　朗讀

第二條　世襲財產ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス

第三條　世襲財產ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ世襲財產ト爲スコトヲ得

第一類　田畑山林宅地鹽田牧場池沼等

第二類　政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券

第四條　世襲財產ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額每年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財產タルヘシ但其財產中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ

○二番小畑美稻　第三條ニ修正ヲ加フルヲ可トス今其理由ヲ陳スルニ先タチテ一言セン本官ハ原來廢案ヲ欲スル者ナリ然リ而モ第一讀會以來沈默セシハ廢案論者ノ說ク所ト大同小異ナルニ由レルモ試ニ本官ノ意見ヲ約言スレハ本案ノ保護ヲ華族ノミニ限ルヲ不公平ト爲スト名門右族ヨモ保護ヲ受ル者ト否トヲ生スル偏頗トノ二點ニ歸ス爰ニ修正ノ點ヲ陳レハ第三條ヲ世襲財產ハ田畑山林宅地鹽田牧場池沼ニ限ルト爲シ而シテ第四條ヲ削除スルヲ得タリトス第一

讀會ニ內閣委員ハ本案ノ旨趣ヲ陳ヘテ云フ外國ノ世襲財產法ヲ觀ルニ第二類ノ物件ヲ計ヘス本邦モ之ニ倣フヲ欲スレトモ近時ノ華族ノ狀況ヲ以テシテハ此ニ出ル能ハス因テ已ムヲ得ス姑ク之ヲ計フルモ他日必ス第一類ノ物件ノミト爲スヲ期スト其レ然ラン然トモ本官ハ廢案說ノ行ハレサル以上ハ他日ヲ俟タス今日ヨリ第一類ニ限ル者ト爲スヲ要ス夫レ本邦ノ如キ壽ヲ土地ノ生產物ヲ主眼ト爲ス國地ニ在テ地價ノ低下スルハ最モ憂フ可シ然リ而シテ今日ハ已ニ其甚キニ達セリ故ニ之ヲ救フノ急務タルハ本官ノ辨ヲ俟テ後チ知ルニ非サルナリ然レハ則チ皇室ノ藩屏タル華族ノ一層之ヲ憂フルヤ必セリ是ヲ以テ本官ノ修正ニ據リ本案ヲ發布シ且之ニ訓示スルニ政府ノ旨趣ヲ以テセハ當時在官ノ華族ハ言フヲ俟タス其他ノ華族モ一已ノ利益ヲ後ニシ國家ノ爲メニ第二類ノ財產ヲ變シテ第一類ノ財產ト爲スニ力ムル可ク果シテ然レハ地價ハ乍チ騰貴シ

隨テ民間ノ金融ヲ疏通シ所謂不景氣挽回モ期シテ俟ツ可シ苟モ此ノ如クンハ政府ハ特別ニ華族ヲ優遇スルモ四民ハ毫モ不滿ノ色ヲ呈セサル可ラス又第四條ヲ削除セハ華族一般ニ保護ヲ受ルヲ得テ本案ノ旨趣モ貫徹セン因テ此修正説ノ行ハルルヲ望ム

○二十五番 槙村正直 二番ノ修正説ハ頗ル是ナルニ似タリ因テ問ヲ第五條以下第二類ノ物件ニ關スル條項ハ悉ク修正ヲ加フルノ意ナル乎

○二番 小畑美稲 然リ機會ヲ俟テ其修正説ヲ提出セントス

○二十五番 槙村正直 二番ノ修正説ハ地價ノ低下ヲ救ヒ皇國ノ富强ヲ圖ルノ目的ニ出ヲ最モ宜キニ稱ヘリ因テ喜ヒテ之ヲ贊成ス

○議長 二番ノ修正説ハ定數ノ贊成者ヲ得サルヲ以テ問題ト為ラス乃チ第二條乃至第四條ハ可決ト認メテ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第五條 世襲財産ノ所有者ハ特ニ世襲スヘキ家産庭園圖書寶器等

ヲ以テ世襲財産附屬物ト為スコトヲ得但其收益ヲ以テ第四條ノ制限額ニ算入スルコトヲ許サス

第六條 負債義務ニ關係アル財産ハ世襲財産及ヒ附屬物ト為スコトヲ得ス

第七條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ其財産ヲ增殖スルコトヲ得

第八條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ノ財産ト為スコトヲ得ル

第九條 第一類ノ財産若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減シタルトキハ五箇年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ第五條乃至第九條ハ可決ト認メテ次條ニ移ル

書記官 森山茂　朗讀

第十條　第二類ノ財産其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ第一類又ハ第二類ニ属スル他ノ財産ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第十一條　世襲財産ノ所有者ハ其財産ノ純收益ヲ抵當トシテ負債ヲ為スコトヲ得ト雖モ毎年其純收益ノ三分一以上ノ償却ヲ為スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十二條　世襲財産ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

第十三條　世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入トスルコトヲ得ス

○二十九番 橋口兼三　第十條ヲ修正セン前會ニモ修正説ヲ提出セシニ本案ノ旨趣ヲ誤解セントノ駁論ヲ來レリ遂ニ行ハレス兩後尚ホ熟考スルニ原案ノ「更ニ他ノ財産」云々ト言ヘルハ素ヨリ穩妥ナラサル

モ本案ノ「第一類又ハ第二類」云々ト為セルモ亦未タ穩妥ナラス原來本條ハ第二類ノ財産ニ係ル規定法ナリ因テ前會ニ提出セル如ク「第一類又ハ第二類ノ財産ヲ以テ」ノ十四字ヲ削除シテ一箇年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシト為シ且第二類ノ財産ハ力メテ第一類ノ財産ト為スノ意ヲ明示スル為メニ俱第一類ノ財産ヲ以テ補入スルヲ必要トストノ俱書ヲ加ヘン是レ蓋シ法律ハ明瞭ナルヲ尚フトニフノ旨趣ニ合スルヲ信ス幸ニ贊成ヲ乞フ

○議長　二十九番ノ修正説ハ贊成者ヲ得サルヲ以テ問題ト為ラス即チ第十條乃至第十三條ハ可決ト認メテ次條ニ移ル

書記官 森山茂　朗讀

第十四條　世襲財産及ヒ附屬物ハ負債ノ抵當トシテ差押フルコトヲ得ス但國税地方税區町村費ヲ納ムルトキハ此限ニアラス

第十五條　世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス

一家督相續スヘキ男子ナキトキ又ハ奇ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續者ナキトキ

一第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ

第十六條　世襲財産ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十七條　世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第十八條　華族局ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ヲ關スル事項ヲ記入スヘシ

○二十九番　橋口兼三　第十四條ニ修正ヲ加ヘン前會ニモ修正説ヲ提出セシニ賛成者ヲ得ス是レ或ハ本官ノ辨明ノ周到ナラサルニ由ル可シ前會ニ修正委員ハ負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得スト云フ文字ハ他ノ法律ニ載セタルヲ記憶スレトモ其何ノ法律タルヲ詳ニセスト云ヘリ本官乃チ之ヲ稽査セシニ華士族平民身代限規則ニ「華士族身代限抵償トシテ差押ヘカラサル品類」等ノ文字ヲ發見セリ思フニ修正委員ノ此文字ヲ用ヒタルモ債主自ラ差押フ可ラスト云フニ在ラスシテ公賣處分ニモ附セスト云フノ旨趣ヲ以テセルナラン然レハ則チ原案ノ精神ニハ合スルモ第十二條ニ「債主ヨリ每年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス」ト言ヘルニ續キテ此第十四條ニ斯ル文字ヲ記スルトキハ或ハ前後同一ノ見解ヲ下ス無キヲ保タス法律文ハ長キニ失スルモ寧ロ一目瞭然タルヲ善シトス故ヲ以テ本官ハ此條ヲ修正シテ附屬物ハ負債ノ抵償トシテ公賣處分ヲ為スコトヲ得スト為サントス要ス

○十七番　東久世通禧　建議ヲ為スニ十九番ノ只今ノ動議ハ一理アルニ似タリ且時已ニ午ヲ過キタルニ尚ホ數多ノ條項ヲ余セルヲ以テ午餐ノ為メニ一旦散會スルヲ望ム

○議長　十七番ノ建議アリ已ニ午時ヲ過クルヲ以テ一旦散會セヨ

午後零時二十分閉場

午後第一時五分開場

退席　　十番　大給　恒

同　　四十二番　榊取　素彦

同　　五十二番　野村　素介

同　　五十三番　津田　出

○議長　午前ノ續會ヲ開ク二十九番ノ午前ニ發ヒタル動議ニハ贊成者ヲ得サルヲ以テ問題ト為ラス他ニ發議ナクンハ決ヲ取ン

○四十一番（浸邊清）　第十五條ヲ修正セン思フニ世襲財産ノ効力ヲ失フ場合ハ大概本案ニ示ス如ク戸主死亡ノ後ニ家督相續人ナキ時ト爵廢絶ノ際ニ家督相續人ナキ時トニ止マル可キモ戸主ノ失踪風癲等ニ因リテ更ニ家督相續人ヲ定ムル場合モ之レ無キヲ保タス故ニ

本官ハ此第二項ヲ爵ヲ奪ハレ族ヲ除カレ又ハ其他ノ事故アリテ家督相續者ナキトキト為サント欲ス但シ戸主タルヲ得サル場合ニハ爵ヲ奪ハレ可ケレハ本案ニシテ或ハ已ニ盡セル如キモ充意不備ヲ免レス因テ此修正説ノ行ハルルヲ望ム

○議長　四十一番ノ修正説ハ贊成者ナキヲ以テ問題ト為ラス

○十一番（伊丹重賢）　本官モ第十五條ハ修正セサルニスト信ス然リ而モ四十一番ノ失踪云々ノ説ニハ同意スル能ハス前會ニ於テ「戸主死亡ノ後ナル文字ヲ加ヘタル所以ヲ修正委員ニ質問セシニ華族令ニ據テ明瞭ナラシメタルニ在リト云ヘリ然レトモ此修正ニ從ヘハ戸主死亡ノ後ニ限ルヲ以テ尚ホ不備ヲ免レス四十一番ノ動議モ畢竟此ニ原因セルナラン修正委員ハ前會ニ於テ失踪ノ場合ニハ爵ヲ奪ハルルヲ以テ第二項ニ包含スト云ヒシモ失踪トハ例ヘハ航海中ニ風波ノ難ニ遭ヒ其所在ヲ失シタル如キヲ謂ヒ彼ノ自ラ謀リテ為ス所

ノ逃亡ノ類ト同視ス可キニ非ス故ニ普通ハ三十六箇月ヲ經ルニ非サレハ除族セサルヲ成規ト為ス華族部内ニモ亦必ス特別ノ内規ニ立タル有ル可シ因テ本官ハ「戸主」ニタノ大字ヲ削リ失踪等ノ場合モ此第一項ニ包含セシメントス且原案ニモ「家督相續スヘキ男子ナ」ト云ヘト言ヘリト雖モ男子ナラサレハ相續スルヲ得サルハ既ニ成規ノ在ル有リ加之此文字ニ據レハ或ハ男子アルモ相續スルニ耐ヘル人ナキトキト解スルノ虞レ有レハ此第一項ハ單ニ家督相續者ナキトキト修正スルヲ善シトス幸ニ各官ノ贊成ヲ乞フ

○四十一番 後藤清 十一番ニ問フ只今ノ修正案ニ據レハ第一項ハ太タ廣クシテ奪爵除族ノ場合ヲモ包含セン然レハ則チ第二項ハ全ク無要ニ歸スルハ發議者ハ之ヲ削ラントスル乎果シテ然レハ本官ハ贊成ヲ表セン

○十一番 伊丹重賢 本官ハ原案ノ文字ヲ換ヘサルモ妨ケ無クハ謗メテ之ヲ換ヘサルヲ欲ス然ルニ奈何セン前陳ノ理由ナルヲ以テ「又一キ月子」ノ五字ハ必ス之ヲ換ヘサルヲ得ス質疑者ハ家督相續者ナキトキト言ヘハ第二項ニ列記セル事項ヲモ包含スト云フモ本項ニ所謂爵ヲ奪ハレ族ヲ除カルルハ犯罪若クハ甚ナ不品行ノ場合ノミニ限リ第一項ノ所謂戸主死亡又ハ失踪等ノ已ムヲ得サル場合ト同シカラサレハ第二項ハ本案ニ從フテ之ヲ存スルナリ

○議長 十一番ノ修正説ハ贊成者ヲ得サルヲ以テ問題ト為ラス

○四十一番 後藤清 本官ノ動議ト十一番ノ動議トハ共ニ成立セサリシモ本案ノ如ク「戸主死亡ノ後」云ヘト言ヘハ此場合ノミニ限レルニ似タリ又前項ニ男子ナキトキト言ヒ後項ニ相續者ナキトキト言ヘハ後項ノ場合ニハ女戸主ヲ許スヤノ疑ヒヲ生セン原案ハ死亡ニタノ大字ヲ載セサルヲ以テ失踪等ノ場合ヲモ包含シ寧ロ妥當ナルニ近シ因テ本官ハ全ク原案ニ復スル修正説ヲ提出ス

○二十一番 林友幸　賛成

○二十五番 横村正道　本官モ二項ニ分チテ前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケ後項ニ之ヲ掲ケサルヲ疑ヒシニ幸ニ修正説出タリ實ハ第一項ヲ家督相續者ナキトキト修正シ第二項ハ全ク削除スルヲ優レリトスルモ原案ニ復スル亦可ナルヲ以テ四十一番ノ動議ヲ賛成ス

○四十番 中村正直　賛成

○十一番 伊丹重賢　賛成

○三十一番 鍋島幹　賛成

○議長　四十一番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト為ス

○五番 三浦安　本官ハ原案ノ旨趣ヲ變更セス惟タ其文字ヲ補正シタルノミ論者ハ前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケテ後項ニ之ヲ掲ケサルト失踪者等ノ事項ヲ脱スルトヲ以テ本案ヲ批難スルモ第一項ノ男子ノ文字ハ原案ニモ之ヲ載セリ蓋シ男子ナラサレハ相續スルヲ得サルノ

意ヲ明示スル為メナラン又失踪ハ偶マ或ハ之レ有ルモ成規ノ期限ヲ過レハ死亡ト看テ可ナリ第二項ノ爵ヲ奪ハレ族ヲ除カレタル場合ハ華族懲戒令ニ因リ官命ヲ以テ特ニ相續者ヲ定ムル等ノ時ナレハ奪爵者ナリ除族者ナリ自ラ相續者ヲ選ムヲ得ス故ニ特ニ男子ナ文字ヲ掲ケサルモ女戸主ヲ包含セサルハ明白ナリ要スルニ前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケ而シテ後項ニ之ヲ掲ケサルハ一ハ自然ニ出テ一ハ自ラ招クトノ差異ニ出ツ是レ敢テ障礙ナキヲ信ス又第一項ニ戸主死亡ノ後ナル一句ヲ添加セシハ原案ノ茫漠トシテ據ル所ヲ知ラサルカ為メニシテ素ヨリ旨趣ヲ變更セルニ非サルナリ

○四十一番 渡邊清　例ニ沿ヒ更ニ一回ノ發言ヲ為サン修正委員ハ單ニ家督相續云々ト言ヘハ茫漠トシテ據ル所ヲ知ラス故ニ戸主死亡ヲ云ノ一句ヲ添加セリト云ヒ又第一項ハ通常ノ場合第二項ハ非常ノ場合ニ係レハ前ニ男子ノ文字ヲ掲ケ後ニ之ヲ掲ケサルモ不可ナル

無ントヲ思フニ第一項ノ男子ノ文字ハ原案ニ載セタル者ニ係リ即チ男子ノ有無ヲ主眼ト為セル故ニ彼ニ在テハ不可ナル無キモ修正案ハ戸主死亡云々ノ文字ヲ添加シ且其一項ヲ両分セル為メニ戸主死亡ノ文字ハ第二項ノ爵ヲ奪ハレ云々ト対照シテ主眼ニ似タルノ嫌ヒヲ生セリ畢竟修正ハ原案ノ不備不明等ヲ補充スル為メ已ムヲ得サルニ出ル者ナルヲ本條ノ修正ハ啻ニ已ムヲ得ヲ已マサルノミナラス本官輩ハ却テ原案ノ優レルヲ覺フ是此恢復説ヲ發スル所以ナリ

退席

○二十二番 柴原和 問題發議者ハ本條ノ修正ハ修正委員ノ好事ニ出タル如ノ論スルモ決シテ然ラス是等ノ理由ハ本官嘗テ辨明シタレトモ怒クハ其旨趣ノ貫徹セサリシナル可シ因テ只今五番ノ説明セルニ掲ラス尚ホ補陳セン原案ノ如ク單ニ「家督相續」云々ト言テ人皆戸主死亡ノ後ト觀ル可キモ華族令ニハ戸主死亡ノ後ト明記シタルヲ以テ此ニ之ヲ明記セサレハ或ハ其死亡セサルモ家督相續スヘキ男子ナキ場合ヲ包含スルヤノ疑ヒ無キヲ保タス乃チ内閣委員ニ質セシニ獨リ死亡ノ場合ノミニ限ルト云ヘリ然レハ則チ明ニ之ヲ掲示シ人ヲシテ疑ヒ無ラシムルニ如カス是レ本官等ノ此文字ヲ添加セシ所以ナリ又前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケニ後項ニ之ヲ掲ケサルヲ批難スルトモ後項ノ場合ハ五番モ説明セル如ク犯罪若クハ甚シキ不品行ノ為メニ爵ヲ奪ハレ族ヲ除カレタルモ猶ホ特旨ヲ以テ家督相續ヲ命スル時ニ係レハ世子ヲ選ハ無キハ明瞭ナリ然ルニ此ニ男子ノ文字ヲ掲クレハ却テ蛇足ニ屬ス故ニ前項ニ男子ノ文字ヲ掲ケ而シテ後項ニ之ヲ掲ケサルモ敢テ疑ヒヲ答ル可キニ非スト信ス

○議長 四十一番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十一人

○議長　少數ナルヲ以テ四十一番ノ修正説ハ消滅ス他ニ發議ナクハ第十四條乃至第十八條ハ可決ト認メテ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第十九條　世襲財産ヲ創設增殖加更換又ハ補充セントスル者ハ其額書ニ財産目録ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財産附屬物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條　宮内大臣ハ前條ノ願書目録ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳地方ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ世襲財産ト為スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ但世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條　前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ

認可證ヲ下付シ第一類ノ財産ハ所轄ノ府縣廳地方ニ命シ地券臺帳ニ記入セシメ府縣廳地方ハ戸長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ府縣廳地方ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ根帳簿ニ記入セシムヘシ

華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若クハ株券ノ券面ニ世襲財産ト為リタル旨ヲ記入スヘシ

○議長　發議ナキヲ以テ第十九條乃至第二十一條ハ可決ト認メテ次條ニ移ル

書記官　森山茂　朗讀

第二十二條　世襲財産其効力ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ府縣地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十三條　世襲財産創設者及ヒ所有者ハ第二十條及ヒ第二十二

條ニ關スル公告費用ヲ華族局ニ納ムヘシ（其財産所有者ヨリ之

第二十四條　世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルカ為メ戸主及ヒ滿二十年以上ノ相續者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大臣ノ許可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親屬會議員ニ充ルコトヲ得

第二十五條　世襲財産ニ關スル願書届書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ要ス

第二十六條　此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二十七條　此法ハ明治十九年　月　日ヨリ之ヲ施行ス

○議長　發議ナキヲ以テ第二十二條乃至第二十七條ハ可決ト認メ此ニ第三讀會ヲ畢ル例ニ仍リ修正ノ理由ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午後第二時閉場